

The Aflac Way: パーパス（企業存在意義）と  
プロフィット（経済的利益）の両立を図りつつ  
変化を生み出す

2023年 ビジネス&サステナビリティレポート



## アフラック・インコーポレーテッドについて

アフラック・インコーポレーテッド（以下「当社」）は、子会社を通じて世界中の数千万人ものご契約者に経済的保障を提供しています。当社の主要な事業は補完健康保険及び生命保険事業であり、日米においてご契約者に最高の価値の商品を提供することを目標としています。70年近くにわたり、当社子会社の保険契約は、ご契約者の皆様が経済的な負担を抱えずに回復に専念する機会を提供してきました。米国では、アフラックは補完健康保険商品 No.1 の会社です。日本では、アフラック生命保険株式会社は、がん保険・医療保険の保有契約件数における最大手の会社です。

## 当社のゴール

日米両国のお客様に補完保険商品の分野で最高の価値を提供すること。

## 当社の長期的な成長戦略

米国と日本における当社の成長戦略は、長年にわたりシンプルかつ一貫したものです。当社は、お客様の主な健康保険ではカバーされない病気や医療の利用に関わる自己負担費用の増加による経済的負担から、お客様をお守りするために補完健康保険商品を開発しています。また、お客様のニーズに合わせて、その他の任意保険、雇用主負担の健康保険及び生命保険商品も提供しています。さらに、当社は、代理店やブローカー、販売パートナー、あるいはお客様への直接販売など、お客様が保険に加入したいと思う場所で販売することにより、より多くのお客様を獲得することを目指しています。



# 目次

<b>アフラック・インコーポレーテッド会長兼社長兼最高経営責任者ダニエル・P. エイモスからのメッセージ</b>	<b>3</b>	<b>政治活動報告</b>	<b>47</b>
<b>本レポートについて</b>	<b>5</b>	<b>資産運用</b>	<b>48</b>
<b>アフラック (米国法人) 及びアフラック (日本法人) について</b>	<b>7</b>	<b>環境</b>	<b>51</b>
アフラック (日本法人)	8	アフラック SmartGreen	51
アフラック (米国法人)	22	温室効果ガス削減の進捗	52
アフラック・インコーポレーテッドの受賞、表彰、エンゲージメント及びメンバーシップ	30	カーボン・ニュートラル	52
<b>アフラック・インコーポレーテッド財務ハイライト</b>	<b>31</b>	廃棄物の削減	54
アフラック・インコーポレーテッド投資家情報	31	エンゲージメント	55
財務諸表からの抜粋	33	スコープ 1、スコープ 2、スコープ 3 の温室効果ガス排出量	58
主要な業務指標	34	未来へのコミットメント	58
<b>サステナビリティ・ハイライト</b>	<b>35</b>	<b>人財</b>	<b>59</b>
従業員の多様性	38	従業員の健康増進とワーク・ライフ・バランス	59
コミュニティ投資とフィランソロピー	38	従業員への感謝	63
<b>ガバナンス</b>	<b>39</b>	従業員のエンゲージメント	64
取締役会による監督	40	人財開発	65
アフラック・インコーポレーテッドの取締役会及び委員会体制	40	従業員の多様性	67
統合的リスク管理	41	<b>アフラックの戦略的フィランソロピー</b>	<b>75</b>
倫理とコンプライアンス	43	アトランタ小児病院のアフラックがん・血液病センター	75
報告	43	<i>My Special Aflac Duck</i>	77
<b>サイバーセキュリティによるお客様とデータの保護</b>	<b>44</b>	アフラックベアレンツハウス	79
サイバーセキュリティガバナンス	44	がん啓発活動	80
サイバーセキュリティリスク管理	45	<b>付録</b>	<b>93</b>
サイバーセキュリティコンプライアンス	45	GRI 内容インデックス	93
セキュリティ運用	45	サステナビリティ会計基準審議会 (SASB) インデックス	99
レジリエンシーと対応	45	気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD) の対応について	101
セキュリティ意識向上とトレーニング	46	独立監査人によるレビューレポート	103
		アフラック・インコーポレーテッドの温室効果ガス排出量に関する声明	103
		<b>取締役及び経営陣</b>	<b>104</b>
		<b>アフラック・インコーポレーテッドのお問い合わせ先</b>	<b>105</b>

# アフラック・インコーポレーテッド 会長兼社長兼最高経営責任者 ダニエル・P. エイモスからのメッセージ

当社は米国での事業69周年を迎え、日本で50周年を振り返るにあたり、当社を頼りにしてくださっている数千万のご契約者に経済的な保障と安心を提供できることを本当に光栄に思っています。

2023年も、当社は成功の記録をのばし、より多くの機会を開拓できた良い年となりました。当社は、お客様が最も必要とするときに寄り添うという約束を果たすと同時に、お客様により多くの価値と選択肢を提供するために商品の改定を行いました。2023年の希薄化後1株当たりの純利益は7.78ドルとなりました。希薄化後1株当たりの調整後利益は6.23<sup>\*</sup>ドルとなり、円安や第4四半期後半に実施した再保険更改の影響にもかかわらず、当社史上最高の年となりました。

日本と米国の両方における販売の伸びに満足しています。日本では、2023年初頭に、すべての販売チャネルで新しいがん商品の取り扱いを開始し、9月中旬には、若中年層のご契約者に訴求し、また中高年のご契約者には保障を最新化する機会を提供する新しい医療保険を発売しました。米国では、がん保険を強化し、ご契約者にさらに大きな価値を提供しました。

同時に、当社は中核となる補完健康保険事業を成長させるためのさらなる取り組みとして、米国におけるネットワーク歯科・眼科保険、団体生命保険、及び就業不能保険の拡大に引き続き注力しています。

当社は、2023年に41年連続の増配という快挙を成し遂げました。当社は配当成長の実績を大変重要であると考えており、強固な資本とキャッシュ・フローにより今後もその継続に努めていきます。取締役会は2024年第1四半期の配当を19%増の0.50ドルに引き上げ、この記録の継続に道筋をつけました。さらに、当社は2023年を通じて戦術的な自社株買いを実施し、四半期当たりの自社株買いは7億ドルという歴史的な水準となりました。その結果、28億ドルの資本を投入し、約3,900万株を買い戻しました。これにより、配当と合わせて38億ドル以上を株主還元しつつ、事業の成長にも投資したことになります。同時に、業界で最も高い資本利益率と最も低い資本コストを誇る企業としての地位も維持しています。



「今日の世界は多くの点でより複雑になっています ... しかし、1つの単純な真実は変わりません。それは、「成功には責任が伴う」という私たちの信念です。私たちはアフラックの将来を見据え、パーパスを実現するための成功、すなわち「The Aflac Way」を何よりも大切にしていきます。」

私たちは、商品やソリューションのみを重視しているのではありません。すべての条件が同じであれば、多くの人が、良き企業市民でもある企業と取り引きすることを選ぶと信じているのです。私たちはこれを「The Aflac Way」と呼んでいます。

The Aflac Wayは、当社の文化、日常業務、そして私たちを日々お役立っていただいているコミュニティとの交流の基礎となる一連の行動指針となっています。ご契約者が私たちを最も必要するときに寄り添うこと、小児がんに向き合うご家族に手を差し伸べること、多様な従業員や販売チャネルに機会を提供すること、環境への影響に配慮すること、そして株主価値をお守りすることなど、こうした当社のアプローチは正しい行いというばかりでなく、ビジネスとしても理にかなったものであると確信しています。ひいては、お客様、従業員、販売部門、投資家などの人々に、当社の一翼を担いたいという気持ちを強めていただくことになるものと考えています。

The Aflac Wayを基盤として、当社は、特に以下の戦略的重点分野をてこに、持続可能な成長に向けた基盤の構築に継続的に取り組んでいます。

- 多様で生産性の高い販売網
- 認知度、信頼度、ブランド力の高さ
- 商品イノベーションとカスタマイズされた高品質なサービス
- 安定した収益と強力なキャッシュ・フローに裏付けられた強固な資本基盤
- 日米で業界をリードする市場シェア及び規模

今日の世界はさまざまな意味で複雑になっており、お客様と投資家の双方から、これまでにないほどパーパス（企業の存在意義）とプロフィット（経済的利益）のバランスをとることが期待されています。私たちはそのアプローチを受け入れ、体現しています。それが企業の社会的責任と呼ばれるものであれ、サステナビリティと呼ばれるものであれ、または単に正しいことを行うというものであれ、1つの単純な真実は変わりません。それは、「成功には責任が伴う」という私たちの信念です。

私たちはアフラックの将来を見据え、パーパスを実現するための成功、すなわち「The Aflac Way」を何よりも大切にしていきます。



**ダニエル・P. エイモス**  
会長兼社長兼最高経営責任者

\* 調整後利益は、調整後収益から保険金給付金及び調整後費用を差し引いたものです。1株当たり調整後利益（基本あるいは希薄化後）は、当該期間の調整後利益を期中の加重平均発行済株式数（基本あるいは希薄化後）で除したものです。収益及び費用に対する調整は、予測不能あるいは経営のコントロールが及ばない一部の項目から構成されています。調整後収益は、調整後資産運用損益（純額）を除いた米国会計基準（米国 GAAP）ベースの収益合計です。調整後費用は、社債等に係るデリバティブからの金利キャッシュ・フローへの影響を含み、当社保険事業の通常の業務に関係せず当社の基礎となる業績を反映しない非経常的損益及びその他の損益を除く、米国 GAAP ベースの新契約費及び事業費の合計です。当社経営陣は、当社の連結ベースでの保険事業の財務業績を評価するにあたっては、調整後利益及び希薄化後1株当たり調整後利益を用いています。また、これらの財務指標を表示することは、当社の保険事業に内在する利益の原動力や傾向を理解するに際して、極めて重要であると当社経営陣は確信しています。調整後利益及び1株当たり調整後利益（基本あるいは希薄化後）と最も比較可能な米国 GAAP の財務指標は、それぞれ当期純利益及び1株当たり当期純利益です。当期における為替変動の影響を除く調整後利益は、比較対象の前年同期における平均為替レートをを用いて計算されており、これにより、為替レートの変化のみによってもたらされる変動を消去しています。当期における為替変動の影響を除く希薄化後1株当たり調整後利益は、当該期間の為替変動の影響を除く調整後利益を期中の加重平均発行済株式数（希薄化後）で除したものです。当社は、当期における為替変動の影響を除く調整後利益及び当期における為替変動の影響を除く希薄化後1株当たり調整後利益は重要であると考えています。なぜなら、当社の事業の重要な部分は日本で行われており、為替レートは経営のコントロールの及ばないものだからです。したがって、当社は米ドルに対する為替換算（主として日本円）の影響について理解することは重要であると考えています。当期における為替変動の影響を除く調整後利益及び当期における為替変動の影響を除く希薄化後1株当たり調整後利益と最も比較可能な米国 GAAP の財務指標は、それぞれ当期純利益及び1株当たり当期純利益です。1株当たり調整後利益の6.23ドルには、1株当たり調整後資産運用益（純額）の1.53ドル、その他及び非経常益の0.07ドル、調整後利益への調整項目に係る法人税費用の0.04ドル、及び為替変動による影響の0.19ドルが含まれていません。

本書では、アフラック・インコーポレーテッドの事業を総称して「アフラック」または「当社」、当社の米国事業を「アフラック（米国法人）」、当社の日本事業を「アフラック（日本法人）」と表記する場合があります。

# 本レポートについて



アフラックでは、全社的なサステナビリティに係る戦略と活動について、オープンで透明性の高い報告に努めており、そのために、パーパス（存在意義）とプロフィット（経済的な利益）を両立させる当社の継続的な取り組みを把握しています。「ビジネス&サステナビリティレポート」は、従業員、お客様、投資家、地域社会、そして地球に与える影響について当社がどのように測定し、管理しているかという情報とともに、当社の事業内容と財務業績を統合して報告したものです。

## 報告範囲と境界

本レポートは、アフラック・インコーポレーテッドとその事業セグメントであるアフラック（米国法人）及びアフラック（日本法人）の環境、社会、ガバナンスに関する戦略、進捗、データ、及び成果に係る、財務情報及び非財務情報を記載しており、特に記載のない限り、2023年度（1月1日から12月31日まで）の情報です。財務情報は、特段の記載がない限り、すべて米ドル建てで表示されています。その他の当社のサステナビリティ活動やその開示情報については、当社ウェブサイトの投資家向け情報セクションの「サステナビリティ」をご覧ください。

本レポートでは、「アフラック」、「私たち」または「当社」という用語は、アフラック・インコーポレーテッドを指します。「アフラック（米国法人）」とは、当社の米国保険子会社であるアメリカン・ファミリー・ライフ・アシュアランス・カンパニー・オブ・コロラド及びその完全子会社であるアメリカン・ファミリー・ライフ・アシュアランス・カンパニー・オブ・ニューヨーク（アフラック・ニューヨーク）、アフラック団体保険のブランド名を用いるコンチネンタル・アメリカン・インシュア



ランス・カンパニー (CAIC)、ティア・ワン・インシュアランス・カンパニー (TOIC) 及び保障管理機関であり全米ネットワーク歯科・眼科保険会社であるアーガス・デンタル&ビジョン・インク (Argus社) を総称するものです。「アフラック (日本法人)」とは、当社の日本における保険子会社であるアフラック生命保険株式会社及びその子会社を総称するものです。「アフラック・グローバル・インベストメンツ」とは、当社の資産運用子会社であるアフラック・アセット・マネジメント・エルエルシー及びその日本における運用子会社であるアフラック・アセット・マネジメント株式会社を指します。「アフラック・グローバル・ベンチャーズ」とは、当社のコーポレート・ベンチャー子会社であるアフラック・グローバル・ベンチャーズ・エルエルシー及びその子会社を指します。

## 基準と枠組み

本レポートの内容は、正確性、バランス、明瞭性、比較可能性、信頼性及び適時性の原則に則って定義されています。

本「2023年ビジネス&サステナビリティレポート」は、サステナビリティ会計基準審議会 (SASB)、気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD)、国連の持続可能な開発目標 (UN SDGs)、グローバル・レポートニング・イニシアチブ (GRI) などのいくつかの主要な報告の枠組みに沿って作成されています。当社は、当社事業にとって最も重要な情報の開示に重点を置いています。これらの基準に沿った開示は、本レポート内及び付録に注記されています。

アフラック・インコーポレーテッドは、2023年1月1日から2023年12月31日までの期間において本レポート及びGRI内容インデックスに引用されている情報を、2022年GRI基準を参照して報告しています。環境データは2022年のものです。



本レポートでは、アフラック・インコーポレーテッドとそのステークホルダーにとって最も重要な問題を反映するため、前記の報告の枠組みが「重要トピックス」と呼ぶ用語を含む特定の用語を使用しています。こうした文脈で使用されるこれらの用語は、証券取引法により定義・解釈される、あるいは財務諸表や財務報告の文脈で使用される「重要な」または「重要性」などの用語と混同されるべきではありません。

アフラックは、本レポートについて、第三者による検証を求めておらず、データを内部検証する方法をとっている点にご留意ください。

本レポートに関するご質問やご要望は、[AflacIR@aflac.com](mailto:AflacIR@aflac.com)までお寄せください。

## 予測情報について

1995年の私的証券訴訟改革法は、企業に対して、いわゆる「安全港」の規定を設けています。規定によれば、その記述が将来予測に関する記述 (forward-looking statement) として特定され、将来予測に関する記述に含まれる内容と大きく異なる結果を引き起こす可能性がある重要な要素を記した有意義な警告を伴うならば、自社の見通しに関する情報を積極的に提供しよう奨励しています。当社は、この規定を活用したいと考えています。

本書は、将来の見通しと大きく異なる結果を引き起こす可能性がある重要な要素を記した警告を記載しています。こうした将来の見通しは、本書の中、あるいはアナリストと当社役職員との議論、米国証券取引委員会 (SEC) に提出された文書の記述に含まれています。

将来予測に関する記述は、過去の情報に基づくものではなく、将来の事業、戦略、財務業績及びその他の進展事項に関するものです。更に、将来予測に関する情報は、さまざまな仮定や、リスク、不確定要素から影響を受けます。特に、「予想する」「予測する」「確信している」「目標」「目的」「可能性がある」「すべきである」「推定する」「意図する」「見積もる」「するつもりである」「仮定する」「潜在的」「目標」「見通し」、あるいはその他の類似した言葉を含む記述、また将来の結果についての特定の予測は、一般に将来予測に関する記述です。当社は、将来予測に関する記述について、最新情報を提供する義務を負いません。将来予測に関する記述に含まれる内容と大きく異なる結果を引き起こす可能性がある、前提、リスク、不確実性及びその他の重要な要素の詳細については、SECに提出した当社の最新のフォーム10-K及びフォーム10-Qをご参照ください。

# アフラック (米国法人) 及び アフラック (日本法人) について

## 高品質の補完保険商品を提供する リーディング・カンパニー

ご契約者が当社を最も必要とするときに寄り添い、お役に立ていただくという約束を守り、The Aflac Way に即した事業を展開することで、当社は、公正かつ迅速な保険金のお支払いを期待されている世界中の数千万人のご契約者、お客様からの信頼を得ています。



日本におけるがん・医療保険の  
保有契約件数

**No.1**

米国の職域における補完医療保険分野

**No.1**

株式時価総額

**482 億ドル**<sup>\*1</sup>

2023年度の収益

**187 億ドル**

2023年度の従業員数

**12,785 名**

<sup>\*1</sup> 2023年12月31日の終値に基づく

2023年度 収益 (億ドル)<sup>\*2</sup>



**\$107**  
日本セグメント

**\$66**  
米国セグメント

2023年度 税引前純利益 (億ドル)<sup>\*3</sup>

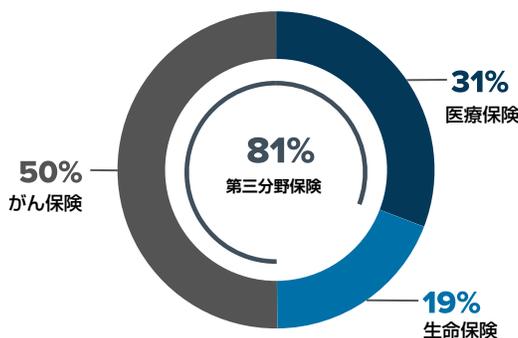


**\$32**  
日本セグメント

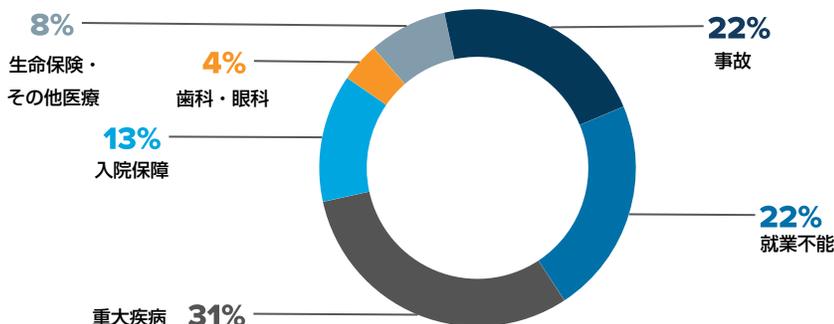
**\$15**  
米国セグメント

2023年度 保険料収入 (純額) の内訳

日本セグメント



米国セグメント



<sup>\*2</sup> 全社(アフラック(日本法人)及びアフラック(米国法人)を除く)及びその他は、2023年の調整後収益の3%に相当する4億6,000万ドル

<sup>\*3</sup> 全社(アフラック(日本法人)及びアフラック(米国法人)を除く)及びその他は、2023年に4億2,500万ドルの税引前損失を計上

## アフラック（日本法人）

### アフラック（日本法人）について

1974年、アフラック（日本法人）は日本で初めてがん保険を提供する保険会社として創業し、2024年で創業50周年の節目を迎えます。また、現在、がん保険・医療保険の保有契約件数において、日本の最大手の保険会社となっています。アフラック（日本法人）は、こうした第三分野の商品をはじめ、ご契約者が資産を保全・形成できるような第一分野の生命保険も提供しています。

2023年、アフラック（日本法人）は、税引前調整後利益4,570億円、強固な利益率30.5%と、全般的に堅調な財務業績を残しました。これらの業績は、保険金給付金及び調整後事業費合計額の減少、93.4%という健全な契約継続率に支えられています。

加えて、2023年4月に日本郵政グループが当社のがん保険の新商品の取り扱いを開始するなど、がん保険の継続的な展開により、2023年の新契約年換算保険料は前年比10.9%増加しました。

2023年1月には、がんの疑いから社会復帰までを包括的にサポートする新たなサービス「アフラックのよりそうがん相談サポート」を展開し、保障とサービスを一体的に提供するサービス統合型がん保険として商品・サービスをさらに強化しています。

2023年は、9月に医療保険の新商品を発売し、第三分野商品の商品ラインアップをさらに強化しました。

加えて、ビジネスパートナーとの協創関係を深化させ、代理店の支援に力を入れています。



1974年10月、日本における事業認可を取得し、同年11月15日、日本初のがん保険とともに営業を開始しました。

アフラック（日本法人）では、創業50周年にあたる2024年に向けて、長期的な経営ビジョン「Aflac VISION2024」を掲げています。このビジョン実現のため、ライフステージに応じたお客様のニーズに応える商品やサービスの提供を通じて、お客様の「生きる」を支えていきます。この価値を包括的かつ総合的に提供することで、「生きるための保険」を超えて、「生きる」を創るリーディングカンパニーを目指していきます。

## 2023年 アフラック（日本法人）財務ハイライト

税引前調整後利益  
6.0%増加

**4,569 億円**

保険料収入（純額）\*  
5.9%減少

**1兆1,278 億円**

保険金給付金比率  
140bp 低下

**66.0%**

税引前利益率  
280bp上昇

**30.5%**

調整後投資収益（純額）  
4.0%増加

**3,656 億円**

事業費率  
50bp 低下

**19.8%**

ソルベンシー・マージン比率

**1,219%**

調整後収益  
3.6%減少

**1兆4,981 億円**

契約継続率

**93.4%**

\* 保険料収入（純額）は出再保険控除後



## 日本のお客様との接点となる販売網

アフラック（日本法人）では、お客様が保険の加入を決めたいとお考えになる場所に、当社が存在することが非常に重要だと考えています。その点で、アフラックの多面的な販売網は、日本で最も強力なものの一つであり続けていると確信しています。

アフラック（日本法人）は日本において、がん保険・医療保険の最大手保険会社ですが、今後もさらに多くのお客様との接点を持つことができると考えています。これを実現するのは、革新的な商品、強力なブランド力、そして幅広い販売網です。個人代理店、独立法人代理店及び系列法人代理店などのアフラック（日本法人）の伝統的な販売チャネルは、2023年の販売の非常に大きな部分を占めました。今後も私たちの成功の鍵を握っています。また、日本で最大の販売網を擁する日本郵政グループと戦略的な提携関係にあり、日本全国の郵便局で取り扱うがん保険は、アフラック（日本法人）のがん保険のみとなっています。私たちのがん保険は、日本郵便株式会社（日本郵便）が全国に2万局超擁する郵便局と、株式会社かんぽ生命保険（かんぽ生命）の法人領域を担当する76の支店と個人領域を担当する623のかんぽサービス部を通じて販売されています。

お客様の保険相談・申込みに関するニーズの変化に対応するため、アフラック（日本法人）では、お客様が保険相談から申込みまでオンラインで完結できる仕組み「アフラックのオンライン相談」を、2020年10月に他社に先駆けて代理店チャネルに導入しました。これにより、新型コロナウイルス感染症によるパンデミックの影響を軽減するために、オンラインでの相談・申込みなどの非対面での販売活動を拡大しました。現在では「アフラックのオンライン相談」は訪問や来店が困難な遠隔地のお客様への案内など、既存の対面による販売手法と組み合わせる効果的に活用する例も増えており、今後は、お客様との多様なコミュニケーションチャネルを持つ当社の強みを生かし、さらに革新的なソリューションを提供していきます。

## アフラック（日本法人）の販売チャネル

### 伝統的な販売チャネル\*

アフラック（日本法人）は 2023年12月末現在、約7,000店の代理店と提携しており、個人代理店を含めて 約113,000人あまりの募集人が従事しています。

### 業務提携

#### 日本郵政グループ

2023 年現在、アフラック（日本法人）のがん保険を取り扱っている日本郵便の郵便局の数は2万局を超えています。かんぽ生命では法人領域を担当する76 の支店と、個人領域を担当する623のかんぽサービス部を通じて当社のがん保険を取り扱っています。

#### 第一生命保険株式会社

2001年に、第一生命保険相互会社（現 第一生命保険株式会社）との業務提携を開始し、現在、約3.7万人にのぼる第一生命の「生涯設計デザイナー」が、アフラック（日本法人）のがん保険を取り扱っています。

#### 大同生命保険株式会社

2013年、大同生命保険株式会社は、中小企業の団体である法人会において当社がん保険の取り扱いを開始しました。また、2018年4月には、近畿2府4 県の納税者団体である納税協会におけるがん保険販売にまで業務提携を拡大し、法人会と同様にアフラック（日本法人）のがん保険を取り扱っています。

#### 金融機関窓販

2023年12月末現在、国内金融機関の約9割にあたる国内360の金融機関と提携しています。

\* 個人代理店、独立法人代理店及び系列法人代理店を含む。





## 日本郵政グループの概要

日本郵政株式会社とアフラックは長年にわたり、日本郵便株式会社や株式会社かんぽ生命保険とともにがん保険に関するさまざまな取り組みを通じて、ビジネスパートナーとして強固な信頼関係を確立してきました。

日本郵政グループはあらゆる機会をとらえて、郵便サービス、金融商品、保険など、さまざまな商品を日々お客様にご案内しています。

アフラックは広範なネットワークを持つ日本郵便及びかんぽ生命を通じて、がん保険を提供している唯一の保険会社です。

## 日本郵便株式会社

宮城県南部地区連絡会  
(柴田郵便局)



柴田郵便局長であり宮城県南部地区連絡会55局の地区統括局長でもある大沼 芳則さんは、「宮南スタイル」という方針を掲げ、地区連絡会の郵便局の皆さんと一緒に、地域のお客様、社会から信頼される郵便局を創るために取り組んでいます。お客様が気持ち良く来局できるよう、季節の花々の装飾や笑顔あふれる雰囲気づくり、フレンドリーなお声掛けを出発点として、郵便や商品購入のために来局されたお客様を含め、郵便局を利用されるすべてのお客様に対して、がんのリスクや、がん保険、アフラックについて知ってもらう「お知らせ活動」を展開しています。

大沼局長は「最強のチームではなく、最高のチームを創る」を座右の銘としています。全社員が笑顔で明るくお客様対応をし、その結果、お客様からアフラックの保険に入って良かったと喜んでもらえる、お客様のお役に立つことができる。この喜びを皆で分かち合えることが一番の醍醐味、と語ります。またこれが、「チーム宮南」が日本郵便内でがん保険含めてすべての指標で全国上位となっている秘訣の一つとなっています。



全国の郵便局では、郵便の他にも貯金や保険といった重要なサービスを地域にお住まいのお客様や地元企業へ提供しています。宮城県南部地区連絡会にある55の郵便局には、毎日多くのお客様が来局します。この写真は、大沼地区統括局長とともに「宮南スタイル」を推進する副統括局長の皆さんです。

## 株式会社かんぽ生命保険

半田郵便局  
かんぽサービス部



株式会社かんぽ生命保険は、「いつでもそばにいる。どこにいても支える。すべての人生を、守り続けたい。」を経営理念としています。



愛知県半田市の街中にある半田郵便局かんぽサービス部の皆さん（写真）は、「地域にお住まいのお客様のお役に立ちたい」という想いのもと、日々オートバイで足繫くお客様のご自宅や勤務先を訪問しています。かんぽ生命の生命保険のご提案と合わせて、お客様一人一人に合わせた質の高いアフラックのがん保険の提案を行うことを目標に、日々活動しています。

社員同士でのロールプレイングや最新のがん及びがん保険情報の共有を通して、日々切磋琢磨して販売スキルを磨くことで組織力を向上させています。また、社員が自分の言葉で地域のお客様へ想いを伝え、ご契約内容確認活動を通じて、丁寧ながんの情報提供を行うとともに、ニーズのあるお客様にがん保険のご案内をすることを心掛けています。



森 洋一さん（写真はバイクでお客様宅を訪問するため出発したところ）は、がん保険販売のリーダーとして中心的な役割を担っています。森さんは、お客様に保険を提案する際、できるだけ分かりやすく平易な言葉を使うこと、お客様のお話を引き出すためにまず自分の人となりを知ってもらい安心・信頼してもらうことを心掛けています。

## 水戸信用金庫

水戸信用金庫



1945年創業の水戸信用金庫は、東京の北東に位置する茨城県を中心に、66の支店と850名近い従業員を擁する地域密着型の金融機関です。水戸信用金庫は約80年前の創業以来、何世代にもわたってお客様との信頼関係を築いてきました。信用金庫としての業務に加え、2002年からは保険の窓口販売を開始しました。地域に根差した販売体制を通じて、お客様に最良かつ最適な総合的金融・保障ソリューションを提供するため、高度に専門化されたスタッフを育成してきました。2011年には、保険をはじめとした預かり資産の販売を専門に行うマネーアドバイザー制度を新設し、2023年12月時点で計22名のマネーアドバイザーが信用金庫の商品に加えてアフラックのがん保険、医療保険、介護保険を販売しています。また、アフラックが2020年から独自に提供する育成支援プログラム「『生きる』を創る。エキスパート制度」にも、毎年すべてのマネーアドバイザーが参加し、お客様にとって最適な保障提案できるよう、アフラックと一緒にした取り組みを行っています。



写真は左から、根岸 亜美さん、塚田 結衣さん、鬼澤 直美さん。水戸信用金庫のマネーアドバイザーでもあり、また、アフラックのエキスパート制度で最高ランクのゴールドクラス認定を持つ3名は卓越したサービスの提供に努めています。



マネーアドバイザーは、上の写真のように、保険販売のプロセスの中でお客様から家族構成などの情報をお伺いし、アフラックの保険も含めた商品ラインアップの中から適切なサービスや商品をご案内できるよう、お客様のニーズを把握しています。さらに、商品のアップデートやお客様のライフステージの変化に応じて最新の保障をご案内できるよう、お客様へこまめにご連絡することを心がけています。アフラックの高い認知度とブランド力によりお客様に信頼感と安心感を持っていただけていることが、マネーアドバイザーが自信を持ってお客様に商品を提案できること、また、アフラックの商品がお客様に選んでいただける可能性を高めることにつながっています。

## アフラック専属アソシエイツ： 株式会社トータルライフサービス

株式会社トータルライフサービス



株式会社トータルライフサービス (TLS) は、現在の代表取締役社長である相田 心平さん (写真) の母親が、1994年に神奈川県湘南・大磯で創業したアフラック専属の独立法人アソシエイツです。2002年に一店目となる来店型のアフラックサービスショップをオープンし、2023年12月末時点では、来店型ショップ4店舗、従業員35名、さらに、ご契約者様や加入を検討しているお客様のご自宅を訪問する営業部を擁しています。アフラックのシンプルで分かりやすい商品、パンフレット、販促品が、知名度の高いポジティブなブランドイメージと相まって、TLSの成功を支えています。さらに相田さんは、業界の激しい変化に柔軟に適應できるよう若手社員の採用・雇用に注力してきました。このことが新人の活躍がベテラン社員の学習・成長意欲を刺激する好循環を生んでおり、TLSの柔軟な人材基盤を支える強みとなっています。



TLSが運営する来店型ショップに展示されているアフラックミラー\*は、AIを活用した肌診断や保険料シミュレーションによってお客様の興味を喚起するインタラクティブなIoT機器で、興味を持たれたお客様に自然な流れで保険に関する情報をお伝える機会を創出しています。

\* アフラックミラーは、第三者企業が開発・提供するもの

## アフラック（日本法人）保険商品

### 商品戦略の概要

日本では、国民皆保険制度の下で、国民に標準的な医療保障が提供されています。少子高齢化が急速に進行する中で、この国民皆保険制度は財政負担が増加しており、医療費の増加は生活者の経済的な負担の増大につながっています。結果として、生活者は、医療費の自己負担額の増加など、より大きな経済的な負担を余儀なくされており、こうした費用を軽減するため、多くの生活者は民間の第三分野保険への加入を考えるようになってきました。このような経済的負担を和らげる解決策となっているのが、アフラックという信頼性の高いブランドと、高い評価をいただいている保険商品です。アフラック（日本法人）の商品ポートフォリオの基盤は、がん保険や医療保険といった第三分野保険です（次ページ以降の商品一覧をご参照ください）。アフラック（日本法人）は、時代とともに変化するお客様のニーズや、医療の進歩、さらには日本の社会保障制度の変化に、時には先手を打って対応しながら、商品の改良を進めています。第三分野保険に重点を置きながらも、より包括的な保障を提供するために、第一分野保険も販売しています。

2023年の商品戦略では、主に3つの取り組みを通じて、ご契約者に価値を提供していきます。

第一に、基幹商品であるがん保険の推進です。がん保険は、2022年8月に最新のがん治療対応したく「生きる」を創るがん保険 WINGS > を発売しました。また、2023年1月にはがんの疑いから社会復帰までを包括的にサポートする新たなサービス「アフラックのよりそうがん相談サポート」を開始しました。相談窓口では、がん患者とそのご家族に、一人ひとりのがん患者に合ったサービスや情報を提供することで、治療法の実施や療養、意思決定などをサポートします。

第二に、医療保険の推進です。2023年9月に医療保険の新商品を発売しました。日本の公的医療保険制度における自己負担上限額と整合した保障を実現し、月々の支払いが必要となる医療費に備えることが出来る商品です。この商品の販売推進により、第三分野商品のシェア拡大を図っていきます。

第三に、資産形成商品（例えば WAYS や学資保険）と第三分野商品による総合保障提案の推進です。若中年層における資産形成ニーズに応えるため、2022年11月に終身保険WAYS、学資保険の料率改定を行い、商品力を強化しました。これらの商品と第三分野商品を併せた総合保障提案によって、お客様にライフステージごとのリスクに応じた最適な保障を提供していきます。アフラック（日本法人）では、お客様に寄り添った提案活動を通じて、お客様がより充実した人生を実現することをサポートしていきます。

これからも、独自の資源と専門性を活かして当社が向き合うべき社会的課題の解決に最大限努力し、新たな共有価値を創造することで、ステークホルダーの皆様からの期待と信頼に応えていきます。

さらに、アフラック（日本法人）は新商品を開発し、革新的なチャネルを通じて新たな市場を開拓することを検討しています。例えば、以下のようなものです。

2021年2月、アフラック（日本法人）は「SUDACHI少額短期保険株式会社」（以下、SUDACHI）を設立しました。SUDACHIは、日本におけるアフラックの商品ラインアップを拡大し、多様化するお客様のニーズに応える可能性のある保険商品を柔軟に開発するためのインキュベーションプラットフォームです。

このように、アフラックは、「生きるを創る」リーディングカンパニーとして、これからも躍進を続けていきます。

\* 2024年4月15日に「アフラック少額短期保険株式会社」へ社名変更。

## 第三分野保険商品

### がん保険

### 医療保険

### 介護保険

### 退職保険

#### がん保険

1974年、当社は、日本で初めてがん保険を発売しました。以来、今日に至るまで、当社はがん保険No.1の保険会社です。日本初のがん保険を発売してから継続して医療環境の変化や重度の病気による潜在的な経済負担、ヘルスケアと医療技術の進歩などに対応するために、がん保険に改良を重ねてきました。お客様に革新的で適切な価値ある商品を提供するという当社のコミットメントのもと、2022年8月に「生きる」を創るがん保険 WINGS® を発売しました。加えて、2023年1月には、がん経験者向けプランの取扱いを開始しました。また、がんの疑いから社会復帰までを包括的にサポートする新たなサービス「アフラックのよりそうがん相談サポート」も、2023年1月に提供を開始しました。



2022年8月に発売した「生きる」を創るがん保険 WINGS® は、幅広い保障による経済的な安心を提供することに加え、看護師や社会福祉士などさまざまな分野の専門知識を持つ「アフラックのよりそうがん相談サポーター」が治療や生活、心のことまで、複雑に絡み合うがんの不安・悩みの解消をサポートします。また、一人ひとりのがん患者や家族に合ったサービスや情報（セカンドオピニオンや家事代行サービスなど）も紹介します。写真でご紹介している当商品のCMでは、がん患者の不安や悩みに対し、「アフラックのよりそうがん相談サポーター」が親身に寄り添う様子を描いています。

#### 医療保険

2002年の初めに、当社は、<一生いっしょの医療保険 EVER > を発売しました。この商品は、公的医療保険制度において自己負担部分の増加に直面している日本の皆様に、解決策の一つとしてお役立ていただくために開発した単品の終身医療保険です。EVER の発売から1年で、アフラックは当時、日本における医療保険の販売最大手となりました。

2023年9月には、医療保険の新商品を発売しました。日本の公的医療保険制度における自己負担上限額と整合した保障を実現し、月々の支払いが必要となる医療費に備えることが出来る商品です。この商品は、充実した特約ラインアップにより、お客様のニーズに合わせた保障を提供しています。



月ごとの治療費の  
自己負担額にあわせて  
備えられる医療保険

写真は、医療保険の新商品のCMです。病気やケガでかかる治療費は、公的医療保険制度によって、ひと月の自己負担額の上限が決まっていること、しかし治療が長引きそれが毎月積み重なると負担は大きくなることを説明しています。そして、当商品が、公的医療保険制度を踏まえた月ごとの自己負担額にあわせて保障する、革新的な医療保険であることを紹介しています。

#### 介護保険

2021年9月、当社は、介護保険の新商品「アフラックのしっかり頼れる介護保険」を発売しました。この商品は、公的介護保険制度を踏まえた自己負担相当額をカバーする補完保険です。お客様にとって分かりやすい合理的な保障を、手頃な保険料で提供しています。

#### 退職保険

2022年3月、当社は「働くあなたを支える アフラックの退職保険」を発売しました。この商品は、1年未満の休職に伴う比較的短期の入院や在宅療養が必要な場合の保障を提供します。特に中小企業の従業員において、若中年層の「働けなくなるリスク」の高まりによる退職保障のニーズに応える商品です。

## 第一分野保険商品

以下を含む生命保険商品：

### 保障性商品：

#### 定期保険及び終身保険

1996年、当社は、初めて定期保険及び終身保険を発売しました。これらの商品は、比較的少額の死亡保障を提供するもので、単品または特約の形で販売されています。2018年には、低解約返戻金で、非喫煙者には割引保険料を適用する、保険料負担を抑えた「かしこく備える終身保険」も発売しました。

#### GIFT

2009年3月、当社は、GIFTを発売しました。この商品は、被保険者がお亡くなりになった時に、受取人（一般的にはご家族）に対し毎月給付金をお支払いするもので、給付期間は、被保険者をご存命であった場合に、加入時に定めた年齢に達するときまで続きます。2017年2月にGIFTを改定しました。

### 資産形成商品\*：

#### WAYS

2006年、当社は、WAYSを発売しました。WAYSでは、ご契約者があらかじめ定めた年齢に達した時に、保障を年金、医療保障、介護年金に変更することができます。2022年11月にWAYSの料率改定を行い、商品力を強化しました。

#### 学資保険

2009年、当社は、学資保険を発売しました。この商品は、子どもの高校入学時の学資一時金や、大学在籍の4年間にわたって、毎年学資年金をお支払いするものです。2022年11月に学資保険の料率改定を行い、商品力を強化しました。

\* アフラック（日本法人）は、第三分野商品と併せた総合保障提案を主たる目的として、資産形成商品の販売を行っています。

## テクノロジーで 生産性、サービス、価値を高める

アフラック（日本法人）は、コアビジネスである「生きるための保険」のリーダーとして、お客様にとって価値ある商品・サービスの提供をデジタルトランスフォーメーション（DX）の推進を通して実現していくとともに、保険を補完しさらに保険を超えた顧客価値を提供する領域においてもテクノロジーを活用し、新たな共有価値を創造していきます。以下の事例は、アフラック（日本法人）がクラウド型デジタルサービス、人工知能（AI）及びデータを、顧客体験の向上、お客様への情報提供、効率性及び生産性向上の手段として、どのように活用しているかを示しています。

### クラウド型デジタルサービス：

アフラック（日本法人）は、デジタルを活用した営業活動やその他の業務をサポートし、お客様に新たな体験価値を提供するクラウド型デジタルサービス「ADaaS/Aflac Digital as a Service」を2022年から提供しています。これは、お客様、販売代理店、ビジネスパートナーなど各ステークホルダー向けのサービスを一つのプラットフォーム上で連携させるサービスで、利用者がサービスメニューの中からご希望のサービスだけを選択して利用することができます。

2023年にはサービスの機能改善、拡充に加え、ADaaSプラットフォームを利用した社会的課題の解決に向け、複数の自治体との共創を開始するなど、利用範囲が拡大しています。



#### アフラックミラー：

販売代理店の店頭に来られるお客様へ新たな顧客体験を提供し、コミュニケーションのきっかけをつくらせたり、保険や健康に関心を持っていただいたりすることを目的に、来店型店舗（保険に関する相談や保険金請求、事務手続きなどのサポートを受けられる場所）などの店頭で設置する「アフラックミラー」を提供しています。これは第三者企業が開発したIoT機器に、当社が保険・健康に関連するコンテンツを提供するものです。保険料シミュレーション、ジェスチャーゲームやクイズ、またAIを活用した肌診断など、大人も子どもも楽しめるさまざまなコンテンツを搭載し、お客様に楽しんでいただきながら募集人とのコミュニケーションのきっかけを創出します。



### XR（エクステンデッド・リアリティ）、AR（拡張現実）、 VR（仮想現実）サービス：

保険相談のきっかけやお客様との接点を創出することを目的に、仮想空間の情報やコンテンツを現実世界に重ね合わせることで、現実を拡張するARを活用した「ARサービス」を提供しています。お客様は、チラシや名刺、メール等にある二次元コード（上記イメージ参照）を読み取ることで、AR技術を通して、商品や代理店の紹介、保険相談などを受けることができます。コードをスキャンしてARサービスにアクセスすると、3Dコンテンツやアフラックの保険商品に関する動画や音声を体験することができます。また、代理店はこのARサービスの一環として、お客様に親しみやすい自己紹介ビデオを提供しています。



#### XRデバイス（VRゴーグル/ARグラス）：

アフラック（日本法人）は、ARグラスやVRゴーグル（上記イメージ参照）といったエクステンデッド・リアリティ（XR）体験も提供しています。\* これらのデバイスを装着しバーチャルな世界に入り込む体験を通して、お客様にがんやがん検診、介護のことを考えるきっかけにさせていただくことを目的としています。このような没入型体験により、がんの「早期発見・早期治療」の大切さや、介護に関する理解を深めていただくことができます。

## AI やデータの利活用：

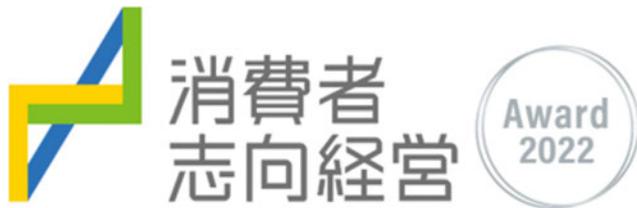
アフラック（日本法人）では、AI で構築した予測モデルを適用し、現在のご契約の情報などをもとにフォローを必要としているお客様について、最適なご連絡のタイミング・商品をAIで推定し代理店に情報提供することで、お客様にとって最適なアフターフォローサービスを提供しています。

また、新規のお客様への当社商品へのご加入の機会の提供にもAIで構築した予測モデルを適用しており、保険のニーズが高そうなお客様をAIで推定し代理店に情報提供することで、新規のお客様へご加入の機会を提供しています。

さらに、生成AIを活用した業務支援システム「Aflac Assist powered by GPT-3.5/4」を開発し、社内における業務効率化を進めています。AIを適切かつ効果的に利用できるシステム環境や体制のもと、社員の汎用的な業務、営業活動、問い合わせ対応をAIがアシストする機能を実装しています。

\* XRとは、現実世界と仮想世界を融合することで、現実にはないものを知覚できる技術の総称。  
2023年3月時点で利用している機器の製造・販売元:Meta Platforms, Inc./ Nreal Ltd.

## アフラック（日本法人）各種受賞



「令和4年度消費者志向経営優良事例表彰」にて  
「消費者庁長官表彰」を受賞

「日経スマートワーク大賞2023」で  
「人材活用力部門賞」を受賞

NIKKEI  
**Smart Work**

Awards 2023 人材活用力部門



6年連続  
「健康経営優良法人 2023 ~ホワイト500~」に  
認定

「2023 J-Win ダイバーシティ・アワード」にて  
日本法人顧問が「個人賞リーダー・アワード」を受賞



がん対策推進優良企業表彰制度にて  
「令和4年度がん対策推進優良企業」に選出

日経WOMAN「女性が活躍する会社Best100」  
総合ランキング2位



## アフラック（日本法人）各種受賞



Qorus とアクセンチュア共催の  
「Innovation in Insurance Awards」を  
3 度目の受賞

「Insurance Asia Awards 2023」を  
4 年連続受賞



保険業界初、「プラチナえるぼし認定」を取得  
(女性の活躍推進に関する取り組みの評価指標)

「テレワークトップランナー2023 総務大臣賞」を受賞



work with Pride



「PRIDE 指標 2023」ゴールド受賞  
(職場における LGBTQ などのセクシュアル・マイノリティへの  
取り組みの評価指標)

公益社団法人企業情報化協会主催の「IT賞」を  
3年連続受賞



## アフラック（米国法人）

### アフラック（米国法人）について

Vision2025の一環として、「人々が、予期せぬ医療費に対してより良く備えることのできる世界」の実現に向けて、当社はたゆまぬ努力を続けています。当社が提供する商品へのニーズは、これまで以上に高まっています。今後も販売網の拡大とブローカーとの提携を進めていきます。同時に、生活者の行動や購買嗜好は変化し続けており、伝統的なメディア以外の手法や職域外での接点を拡大したいと考えています。これは、お客様との接点を増やし、普及率及び継続率を高めるための当社戦略の一部です。米国においてアフラックは、再び補完健康保険商品において最大手の保険会社となりました<sup>\*1</sup>。2024年も、引き続き今のポジションを強化し、さらなる販売の拡大に取り組んでいます。

アフラック（米国法人）は、アフラックの商品及びサービスに対する市場のニーズは引き続き強いと見ており、当社はその機会を活かすことができる立場にあります。賃金が伸び悩む中、医療費は上昇を続けています。自己負担分の費用を現金で用意するのは大変なことです。アフラックはこの課題を解決するためのお手伝いをしています。約1億5,900万人<sup>\*2</sup>の勤労者を抱える米国の労働市場の中で、アフラックがアクセスできているのはその3分の1にも満たないほどで、またその大半は小規模事業者に属します。この市場機会を捕捉するためには、幅広い販売網が必要です。そのため、アフラックとともに働く募集人の数を増やし、変化を続ける状況に対処するために価値のご提案を拡充して、業界のリーダーとしての地位を維持していきます。



\*1 LIMRA 2022 米国補完健康保険総合マーケットレポート

\*2 2022 米国労働統計局

## 2023 アフラック（米国法人）財務ハイライト

税引前調整後利益  
10.4% 増加

**15 億ドル**

保険料収入（純額）\*  
1.9% 増加

**57 億ドル**

保険金給付金比率（全商品）  
310 bp 低下

**42.8%**

税引前利益率  
170bp 上昇

**22.7%**

調整後投資収益（純額）  
8.6% 増加

**8 億 2,000 万ドル**

調整後事業費率  
90 bp 上昇

**40.6%**

統合リスクベース資本（RBC）比率

**710%**

調整後収益  
2.1% 増加

**66 億ドル**

契約継続率

**78.6%**

\*保険料収入（純額）は出再保険控除後

## アフラック（米国法人）保険商品 保険金のお支払いを通じて価値を高める

アフラックの目標は、医療保険でカバーされる費用と、医療保険でカバーされない費用のギャップを埋めることですべてのお客様に価値を提供することです。2023年、アフラック（米国法人）はお客様への保険請求を促進するために、保障内容や手続きのご案内など具体的な取り組みに注力しました。さらに、迅速で簡単な保険金請求手続きを実現することに引き続き注力し、スピードと正確性の向上を可能にするため、さらなる自動化を実現するテクノロジーへの投資を継続しています。

アフラック（米国法人）の成長戦略はこれまでと変わらず市場機会と強く結びついています。市場の各セグメントに最適な商品、サービス、テクノロジー、顧客体験を提供するために、市場細分化アプローチを推進しています。このアプローチにより競争力が高まり、最終的には成長が促進されると考えています。

アフラック（米国法人）は、がん保険に加えて、アフラック・ネットワーク歯科・眼科保険、団体生命保険、及び就業不能保険のプラットフォームの追加とその成長により、価値提案力を拡充しました。これらの商品により、市場からの需要の高まりに対応するだけでなく、より大規模な市場へのリーチが広がり、任意保険商品を含む完全なソリューションを提供することが可能となります。拡大し続けるお客様のさまざまなニーズを満たす強固かつ包括的な商品とソリューションのポートフォリオを提供することで、競争力を維持していきます。従来のがん保険の販売促進にこれまで以上に注力することに加え、団体生命保険、就業不能保険、ネットワーク歯科・眼科保険の販売を推進することにより、アフラック団体生命の事業も成長させていきます。革新的な保障のオプションとテクノロジーの統合を組み合わせることで、保険募集において最初の選択肢となるポジションを確保していきます。当社は、ブローカーと協力してより規模の大きい顧客層に取り組む中で、規模を拡大し、新しいプラットフォームを安定させ、必要不可欠な商品ラインを統合的に提供することに引き続き注力していきます。

**アフラックは、生活者が最も必要とする  
ときに寄り添いお役立ていただけるよう  
努めています。**

## 商品ソリューション+効果的な販売 + 優れたサービス = ロイヤルカスタマー

アフラックの補完保険は、病気や医療の利用に伴う収入や資産の毀損に対して、お客様に直接現金給付金をお支払いすることで保障を提供しています。ご契約者には、こうした給付金を医薬品代、健康保険適用外の自己負担分、家計費負担など、予期しなかった医療費の自己負担の一助としてお役立ていただいています。当社の幅広い保険商品は、ご契約者に優れた価値を提供するとともに、あらゆる規模の企業が、従業員に手ごろな価格で包括的な保障のソリューションを提供できるよう、設計されています。

ニーズが変われば、保険も変化します。生活者や企業の意思決定者は、身体的・精神的な健康に対する所得保障を提供する商品・サービスの必要性を感じています。がん保険の「バイオニア」であるアフラックの補完保険商品の中で最もよく知られているのは、やはりがん保険です。がんの罹患率は増加し続けており、残念ながら、がんが米国をはじめ世界中の人々にとって気がかりであることは驚きではありません。実際に、米国がん協会の調査によると、米国では男性の2人に1人、女性の3人に1人が生涯のうちのがんと診断されます。\*さらに、ニールセン社が2023年に実施した調査では、罹患可能性と経済的影響の点で、がんが最も懸念すべき病気でした。がん保険は、アフラックが他社との差別化に成功した最初の商品であり、2024年以降も当社の強みであり続けます。最近では、診断給付金の増額や積極的な治療のための給付金を手厚くし、がん保険契約の内容を強化しました。また、がんサバイバーが頻繁に直面する健康維持のための治療や副作用にも対応する生存給付金も追加しました。

\* 2024年1月23日付「がんの発症または死亡の生涯リスク」米国がん協会

## ご契約者 スポットライト：アシュリー・マクラリーさん

アフラックのご契約者であるアシュリー・マクラリーさんが、保険金を請求されたご自身の体験を話します。



「アフラックのサポートがなかったら、今こうして座っていることはなかったと思います。（そうでなければ）負担が大きすぎます。がんは身体に影響を及ぼすのはもちろんですが、経済的にも計り知れない打撃を受けます。8か月にわたり治療を受けていましたが、治療の効果はありませんでした。幸運なことに治験が開始されたのですが、私の家から約1,400kmも離れたフィラデルフィアで毎週治療を受けることになると言われたので、治験に参加できるかどうかわかりませんでした。私は（夫の）デイブを見て、こう言いました。「どうしたらいいの?」。死ぬほど怖くてアフラックの代理店に電話したのを覚えています。電話を切った後、その担当者は私と一緒に保険契約書を確認するのですが、アフラックがサポートしてくれる旅費や宿泊、吐き気止めの薬、化学療法、宿泊を伴う入院などが記載されたリストがあるではないですか。それはまさに、治療に対する私たちの気持ちを一変させるほどの贈り物だと思いました。その場で「よし、前に進むことができる」と決断することができました。私は、家族、友人、教会といったサポートしてくれる人たちがいてくれるといつも思っていたのですが、アフラックがこれほど私のサポートに欠かせない存在になるとは思ってもみませんでした。」- アシュリー・マクラリーさん

## アフラック（米国法人）保険商品\*

がん保険

事故保険

就業不能保険

重大疾病保険

入院保障保険

歯科医療保険

眼科医療保険

生命保険（定期及び終身）

### がん保険

アフラック（米国法人）のがん保険は、初めてがんと診断された際の一時金と、その後がん治療を受けた際の給付金をお支払いする商品です。アフラック（米国法人）では、個人単位でがん保険を提供しています。

### 事故保険

アフラック（米国法人）は、個人・団体を問わず、事故保険を取り扱っています。これらの保険は、保険の対象となる傷害が発生した場合に現金で給付を行うものです。保険契約の事故部分には、事故による死亡、四肢切断及び特定の傷害に対する一時金と、入院に対する定額給付金が含まれています。また、住宅の改修やウェルネスへの給付、組織的なスポーツ活動への参加に関連する傷害に対する割増給付も提供されます。

### 就業不能保険

アフラック（米国法人）は、個人保険・団体保険を問わず、短期就業不能保険を、また、団体保険において長期就業不能保険を取り扱っています。対象となる傷害、疾病、またはメンタルヘルスに対して保障を提供します。

### 重大疾病保険

アフラック（米国法人）は、個人保険・団体保険を問わず、重大疾病保障プランを提供しています。これらの契約は、心臓発作や脳卒中、がんなどの重大な病気になったときに、現金で給付を行うものです。

### 入院保障保険

アフラック（米国法人）は、個人保険・団体保険を問わず、入院保障を提供しています。入院保障商品は、事故や病気による入院を支払事由として、ご契約者に定額給付を行うものです。また、入院及び外来の手術や各種の診断結果に対する給付も用意されています。さらに、個人保険における事故保険、短期就業不能保険及び入院保障保険に付加することができる、一定の重大疾病に関する一時金特約を提供しています。

### 歯科・眼科医療保険

アフラック（米国法人）は、団体保険において、ネットワーク歯科・眼科医療保険を提供しています。また、個人保険・団体保険を問わず、固定給付型の歯科医療保険を提供しています。アフラック（米国法人）は「ビジョン・ナウ<sup>SM</sup>」という個人向けの保険を提供しており、深刻な目の健康状態や失明に対する給付に加えて、眼科矯正器具や検査に関する保障も提供しています。

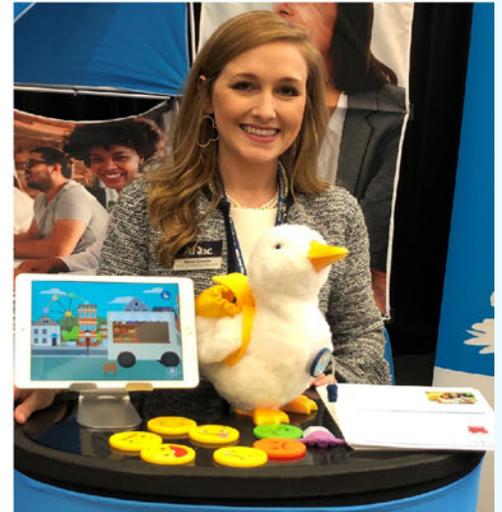
### 生命保険（定期及び終身）

アフラック（米国法人）は、個人保険・団体保険を問わず、定期保険及び終身保険を提供しています。

\* がん、事故、重大疾病はコンシューマー・マーケットのプラットフォームで提供される保険商品、歯科・眼科は保障及びネットワーク保険

## 従業員 スポットライト：アレーヌ・ガマーシュさん

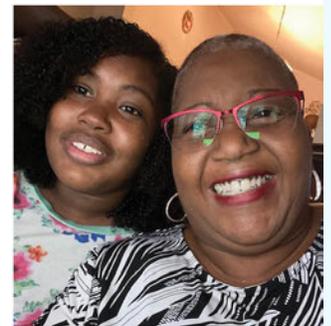
アフラックの従業員であり、がんサバイバー、介護者、保険契約者、保険金請求者、そしてアトランタ小児病院のアフラックがん・血液病センターの元患者でもあるアレーヌ・ガマーシュさんの体験談です。



「私はジョージア州コロンバスで生まれ育ち、アフラックで企業の社会的責任プログラム・マネージャーとして働いています。私の人生はアフラックからさまざまな形で影響を受けてきたため、がんサバイバー、介護者、従業員、患者、保険契約者、保険金請求者だからこその独自の視点を共有することができます。私は12歳の時に神経節芽腫と診断されました。私が治療を受けたのは、アトランタ小児病院のアフラックがん・血液疾患センターのような、小児がんに特化した施設でした。そこでの治療と生活が、私の治療と回復に大きく影響したと思っています。医療スタッフやチャイルド・ライフ・スペシャリスト、そして先生たちは、私が回復するだけでなく、12歳の、そして10代の若者として人生を歩めるよう力を注いでくれました。私は今、アフラックのソーシャルロボット「My Special Aflac Duck」を届ける取り組みを統括する立場にいますが、この仕事に対して情熱を持てるのは、こうした経験があるからです。自分の気持ちを表現することの難しさ、そして大切さを、私は身をもって知っています。それを助けてくれるのがMy Special Aflac Duckだと、子供も親も感じています。私が患者だった頃にもあれば良かったと思います。当時は知る由もなかったのですが、診断と治療の数年後、私は父と祖父をがんで亡くし、その後大人になって母を亡くします。大人になってからアフラックのがん保険の恩恵を受け、目から鱗が落ちるような思いでした。特に、予定外の予期せぬ出費が多く発生し、そのような大変な時期に保険に加入していたことに感謝しました。誰にでも苦悩はあるものですが、私はそれを恵みだと思っています。その苦しみに素晴らしさ、私の目標や人生の使命が生まれました。私たちには皆、目標があり、信念と希望があれば人生は素晴らしいものになることを知ってほしいと思います。私の経験は、がんを克服した後、普通の生活に戻り、成功できることの証明です。がんはあなたそのものではありません。重要なのは、あなたが人生での経験を生かして、人々を動機付け、インスピレーションを与えることです。その痛みを確実に受け止めて、それをポジティブなものに変えるのです。私はがんを乗り越えて、今ではこんなに元気です。他の人たちにも私の未来への希望を分けてあげたいと思っています。」— **アレーヌ・ガマーシュさん**

## 販売代理店と契約者のスポットライト：シンシア・メレンデスさん

アフラック(米国法人)の「Real Stories, Real Solutions」キャンペーンの一環として、アフラックの販売代理店であり、がん保険の保障を受けたシンシア・メレンデスさんが、自身のがんと闘いの過程においてアフラックのがん保険がいかに重要であったか、そしてこのメッセージを現在の契約者や潜在的な契約者に伝えることがいかに重要であると感じているかを語っています。



「今、がんから自由になったと言えることが、本当に嬉しいです。私は100%寛解しています。2022年1月10日に乳がんが診断されました。少しショックでした。ステージ2の乳がんでした（浸潤性乳管がん、HER2陽性）。診断を受けた時、経済的にも精神的にも大きな影響があることは分かっていました。それは私たちの生活を変えることになるだろうと。最初に診断された時から、アフラックは私に選択肢を与えてくれました。私がおそらくそのような選択をできるようにさまざまな道筋を示してくれました。自分自身で選択することなく、人から勧められた治療法を受け入れなければならない状況は想像できません。そのような選択肢があったからこそ、私にはがんに煩わされることなくここに座っていられるのです。私にとって重要なことは、潜在的なお客様にアフラックのがん保険の存在と、それが自分自身の治療の選択に違いをもたらすことを知っていただくことです。そして、私たちが（アフラックの販売代理店として）そのメッセージを発信することが重要です。」—シンシア・メレンデスさん

## アフラック (米国法人) マーケティング戦略

アフラックは、医療費が心の平穏を脅かすものであってはならないと考えています。健康保険では保障されず、医療費はかさむという時、その差額を解消する手段として当社の商品がいかに役立つかを訴求することが、アフラック (米国法人) のマーケティングの狙いです。私たちのマーケティング戦略は、医療債務の影響と補完保険の重要性について知っていただくことを中心に据えています。

2023年も、アフラック (米国法人) は消費者にリーチするための革新的な方法を模索し続けました。具体的には、新しい市場へ投資し、その他の市場では取り組みを深め、従来のマーケティングやテレビではなくデジタルやストリーミングをより重視します。さらに、より多様な消費者、特に医療債務による影響を過度に受けている消費者にリーチするためのアプローチを進化させるなど、誰を対象に、どのようにリーチするかを継続的に見直すことにしました。

## 大学バスケットボールと女子スポーツで注目を集める

NCAA March Madness<sup>®</sup> トーナメントのスポンサーを務めて3年目となり、アフラック (米国法人) は2人の史上最高のコーチを新たに迎えました。デューク大学ブルーデビルズ男子バスケットボールチームの元ヘッドコーチで殿堂入りした大学バスケットボールコーチのマイク「コーチ K」クシシェフスキー、サウスカロライナ大学ゲームコックス女子バスケットボールチームのヘッドコーチのドーン・ステイリーです。アフラックダックとその敵である「ギャップ・ゴート (ヤギ)」 (健康保険で医療費の全額がカバーされない場合に生じうるギャップを表現する) が出演する毎年恒例の広告キャンペーンは、2023年のトーナメントの開幕と同時に始まり、全米のメディアで注目を集めました。アフラックのブランド理念を強調し、女性スポーツへのコミットメントをより強固なものにするために、アフラックとステイリー・コーチは共同で、女性アスリートが直面する課題に焦点を当てたキャンペーン「Dawn's List」を立ち上げました。



写真: My Special Aflac Duckの寄贈イベントに出席した、UVA 女子バスケットボールヘッドコーチのアマカ・アググア・ハミルトン、ヴァージル・ミラー、ステイリー・コーチ

アフラックは、バージニア大学小児病院 (ステイリー・コーチの母校) でのMy Special Aflac Duck<sup>®</sup>の寄贈や、パリで行われた史上初の海外での大学バスケットボールレギュラーシーズンの試合であるAflac OUI Playゲームなど、いくつかのイベントを通じて、Dawn's Listの効果をトーナメント以外にも広げました。Dawn's Listは、年間を通して、アフラックが培ってきたケアと補完保障の重要性にスポットライトを当てるプラットフォームとしての役割を果たしました。

\* Dawnはステイリー・コーチのファーストネーム



写真: コロラド大学フットボール部ヘッドコーチのディオン・サンダース、元アラバマ大学フットボール部コーチのニック・セイバン

私たちは、伝説的なアラバマ大学クリムゾン・タイドのヘッドコーチであるニック・セイバンと、コロラド大学バファローズの新ヘッドコーチであるディオン「プライム」サンダースとの継続的なパートナーシップを通じて、「Winning Saturday」キャンペーンを実施することにより、これまで受け継いできた大学フットボールにおけるアフラックの取り組みを確固たるものとししました。セイバン・コーチの好調なシーズンや、プライム・コーチの前例のないスター性などで、両コーチは年間を通じて大きな話題と注目を集めました。シーズンで最も視聴された大学フットボール試合のトップ25のうち、11試合にセイバンかサンダースのどちらかが登場しました。試合前から試合終了のホイッスルが鳴るまで、アフラックは毎週土曜日、大きな試合での体験型アクティビティからテレビ、デジタル、ソーシャルなどに至るまで、注目の存在でした。



写真: アフラックのプロフットボール殿堂入りワイドレシーバーでジョージア工科大学OBのカルビン・ジョンソンは、2023年8月に開催された「Kickoff for a Cause」の試合で、アトランタ小児病院のアフラックがん・血液疾患センターの患者であるレックスとイーサンに笑顔を見せました。

今シーズンは、アフラックのキックオフ試合の初開催もありました。アフラックはピーチボウル社と提携し、大学フットボールのシーズン初戦のタイトルスポンサーを務めました。ピーチボウル社は大学スポーツ界で最も慈善活動に積極的な大会組織として知られています。同社はアフラックとともに、この初戦を利用して、アトランタ小児病院のアフラックがん・血液疾患センターと、ケンタッキー州ルイビルにあるノートン小児病院を支援することを目的とした「Kickoff for a Cause」を立ち上げました。

## アフラック・インコーポレーテッドの受賞、表彰、エンゲージメント 及びメンバーシップ



フォーチュン誌の  
「世界で最も賞賛すべき企業」  
のリストに選出  
(23年目)



ブルームバーグ  
男女平等指数に組み入れ  
(4年連続)

Member of  
**Dow Jones  
Sustainability Indices**  
Powered by the S&P Global CSA

ダウ・ジョーンズ・  
サステナビリティ・  
インデックス(北米)に  
組み入れ(10年目)



Ethisphere 誌の  
「世界で最も倫理観の  
高い企業」の1社に  
選出(18年連続)

Signatory of:



責任投資原則  
(PRI)に署名



ヒスパニックの雇用、  
昇進、維持、職場での  
賞賛を誓う「ヒスパニック・  
プロミス」の最初の  
署名者の一社



シビック 50 ポイント・  
オブ・ライト  
(6年連続)

CEO **ACT!ON** FOR  
DIVERSITY & INCLUSION

ダイバーシティ&  
インクルージョンに  
対する CEO アクション



ラティーナ・スタイル 50  
(24年目)

BR Business Roundtable

ビジネス・  
ラウンドテーブル

# アフラック・インコーポレーテッド 財務ハイライト

## アフラック・インコーポレーテッド (ニューヨーク証券取引所のティッカー・シンボル :AFL) 投資家情報 (2023年12月31日現在)

2023年は、アフラック・インコーポレーテッドが41年連続で年間配当を増額した年となりました。再投資された配当金を含む株主総利回りは2023年に17.4% となりました。同年の株主総利回りは、S&P生命保険株価指数では4.6%、S&P500種平均株価指数では26.3%、ダウジョーンズ工業株30種平均では 16.2%でした。

長年にわたり、当社は、常に長期的な視点で事業を展開してきました。1955年のアフラック創業時に投資家が当社株式を100株購入したとすると、その購入価格は1,110 ドルでしたが、29回にわたる株式配当及び株式分割の後、この投資家の保有する当社株式は、現在、375,960株と、約3,100 万ドル相当になり、これまでに配当金額として、631,613ドルを受け取ったこととなります。

**68年**

創業からの年数

**49年**

ニューヨーク証券取引所  
上場年数

**482億ドル**

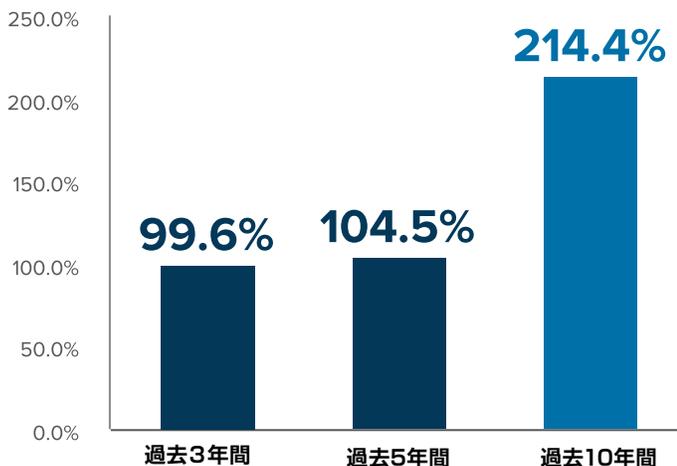
株式時価総額

**41年**

連続増配年数

### 株主総利回り

配当金の再投資を含む

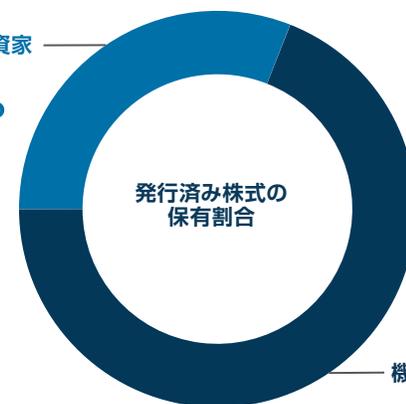


出典: FactSet

### 株主構成

個人投資家

31%



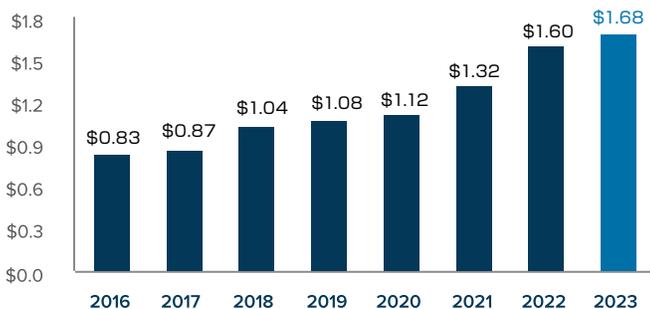
機関投資家

69%

出典: FactSet

### 1株当たり年間現金配当\*

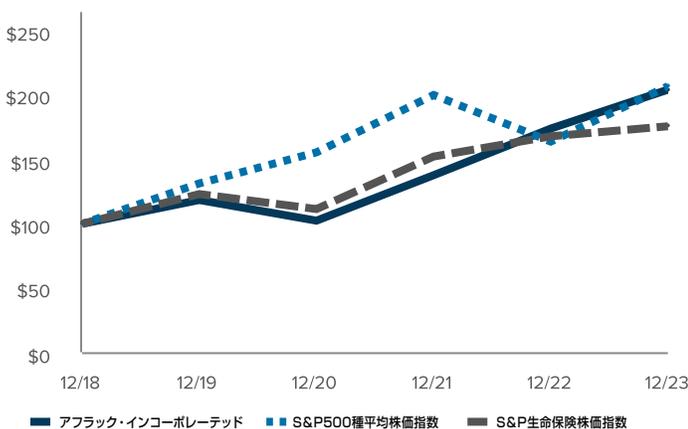
アフラックは過去41年間連続で増配を続け、2023年の現金配当額は、2022年に比べて5.0%増加しました。



\* 株式分割調整後

### 過去5年間の株主の累積投資収益\*

アフラック・インコーポレーテッドとS&P500種平均株価指数及びS&P生命保険株価指数の比較

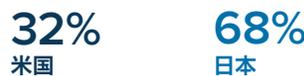


\* 2018年12月31日に100ドルをアフラック株もしくはそれぞれの指数に投資した場合。再投資された配当金を含む。12月31日に終了した事業年度。

Copyright© 2024 Standard & Poor's, a division of S&P Global. All rights reserved.

### セグメント別の税引前調整後利益\*

(2023年12月31日現在、ドルベース)



### セグメント毎の新契約年換算保険料

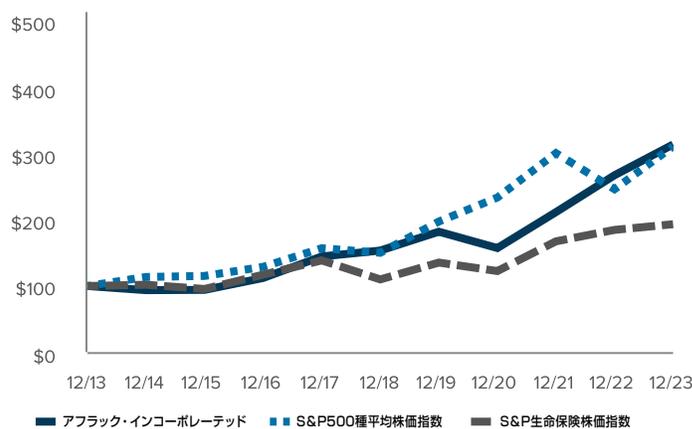
(2023年12月31日現在、ドルベース)



\* 全社 (アフラック (日本法人) 及びアフラック (米国法人) を除く) 及びその他は、2023年に4億2,500万ドルの税引前損失を計上

### 過去10年間の株主の累積投資収益\*

アフラック・インコーポレーテッドとS&P500種平均株価指数及びS&P生命保険株価指数の比較



\* 2013年12月31日に100ドルをアフラック株もしくはそれぞれの指数に投資した場合。再投資された配当金を含む。12月31日に終了した事業年度。

Copyright© 2024 Standard & Poor's, a division of S&P Global. All rights reserved.

## 当社の約束を支える強固な資本基盤

定期的な評価の一環として、当社は自己資本の十分性に細心の注意を払っており、極端な経済シナリオにおいても、強固な資本の健全性を維持できるよう努めています。アフラック・インコーポレーテッドの子会社は、日米の業界内で最も高い財務力格付けを得ています。これらの重要な格付けは、当社の保険金支払能力を反映したものであり、格付機関が、引き続き当社のバランスシートの健全性を認識していることを当社は誇りに思っています。

詳細については、[Investors.aflac.com](https://investors.aflac.com) をご覧ください。

保険財務力格付け <sup>*1</sup>	AM Best	S&P <sup>*3</sup>	Moody's <sup>*3</sup>	JCR <sup>*3</sup>	R&I <sup>*3</sup>
アフラック生命保険株式会社 <sup>*2</sup>	A+	A+	Aa3	AA	AA
アフラック (コロンバス) <sup>*2</sup>	A+	A+	Aa3	AA	AA
アフラック (ニューヨーク)	A+	A+	-	-	-
コンチネンタル・アメリカン・インシュアランス・カンパニー	A+	-	-	-	-
アフラック・リー・バミュダ	-	-	-	AA	-

\*1 2024年3月1日現在

\*2 主たる保険子会社

\*3 S&P:スタンダード・アンド・プアーズ・グローバル・レーティング

Moody's:ムーディーズ・インベスターズ・サービス・インク

JCR:株式会社日本格付研究所

R&I:株式会社格付投資情報センター

## 財務諸表からの抜粋

12月31日に終了した事業年度（単位：百万ドル、ただし株式数及び1株当たり金額を除く）

	2023	2022	2021	2020	2019
<b>収益：</b>					
保険料収入（主として補完保険）	\$ 14,123	\$ 14,901	\$ 17,095	\$ 18,622	\$ 18,780
投資収益（純額）	3,811	3,656	3,818	3,638	3,578
資産運用（損）益（純額）	590	363	468	(270)	(135)
その他の収益	177	220	173	157	84
収益合計	18,701	19,140	21,554	22,147	22,307
保険金給付金及び事業費：	—	—	—	—	—
保険金給付金（純額）	8,211	8,887	10,476	11,796	11,942
事業費	5,228	5,384	5,870	6,192	5,920
保険金給付金及び事業費合計	13,439	14,271	16,346	17,988	17,862
税引前当期純利益	5,262	4,869	5,208	4,159	4,445
法人税等	603	451	977	(619)	1,141
当期純利益	\$ 4,659	\$ 4,418	\$ 4,231	\$ 4,778	\$ 3,304
<b>1株当たり金額及び株式数</b>					
当期純利益（基本）	\$ 7.81	\$ 6.96	\$ 6.28	\$ 6.69	\$ 4.45
当期純利益（希薄化後）	7.78	6.93	6.25	6.67	4.43
調整後利益への調整項目					
資産運用損（益）（純額）	\$ (1.53)	\$ (0.70)	\$ (0.68)	\$ 0.32	\$ 0.02
その他及び非経常的損（益）	(0.07)	—	0.11	0.04	—
調整後利益への調整項目に係る法人税（軽減額）費用	0.04	(0.56)	0.12	(0.1)	—
改正税法による調整	—	—	—	—	(0.01)
税務に係る評価性引当金の取崩し	—	—	—	(1.97)	—
現金配当支払額	1.68	1.6	1.32	1.12	1.08
基本1株当たり当期純利益計算に用いた加重平均普通株式数（単位：百万株）	596	635	674	714	742
希薄化後1株当たり当期純利益計算に用いた加重平均普通株式数（単位：百万株）	599	638	677	716	746
<b>年度末現在</b>					
<b>資産：</b>					
運用資産及び現金・預金	\$ 113,560	\$ 117,397	\$ 142,978	\$ 149,753	\$ 138,091
その他	13,164	14,341	15,172	15,333	14,677
資産合計	\$ 126,724	\$ 131,738	\$ 158,150	\$ 165,086	\$ 152,768
<b>負債及び株主持分：</b>					
保険契約準備金	\$ 91,599	\$ 96,910	\$ 126,331	\$ 114,391	\$ 106,554
法人税等負債	154	698	30	4,661	5,370
社債等及びリース負債	7,364	7,442	7,956	7,899	6,569
その他の負債	5,622	6,548	6,802	4,576	5,316
株主持分	21,985	20,140	17,031	33,559	28,959
負債及び株主持分合計	\$ 126,724	\$ 131,738	\$ 158,150	\$ 165,086	\$ 152,768
<b>補足データ</b>					
株価：					
高値	\$ 84.64	\$ 72.70	\$ 53.46	\$ 57.18	\$ 48.19
安値	60.20	52.07	23.07	44.28	41.41
終値	82.50	71.94	44.47	52.90	45.56
年末現在 円／ドル為替レート（円）	¥ 141.83	¥ 132.70	¥ 115.02	¥ 103.50	¥ 109.56
加重平均 円／ドル為替レート（円）	140.57	130.17	109.79	106.86	109.07

2021年及び2022年の過年度分は、2023年1月1日に長期保険契約の会計処理に関する会計基準を適用したことにより調整されています。

## 主要な業務指標

	2023	2022	2021
<b>アフラック (日本法人)</b>			
保有契約件数 <sup>*1</sup>	22,878	23,402	23,826
保有契約年換算保険料 <sup>*2</sup>	¥ 1,246,373	¥ 1,300,951	¥ 1,360,624
新契約年換算保険料 <sup>*2</sup>	¥ 60,730	¥ 54,765	¥ 54,764
<b>アフラック (米国法人)</b>			
保有契約件数 <sup>*1</sup>	13,546	\$ 13,119	\$ 13,090
保有契約年換算保険料 <sup>*2</sup>	\$ 6,161	\$ 5,967	\$ 6,003
新契約年換算保険料 <sup>*2</sup>	\$ 1,558	\$ 1,483	\$ 1,278

\*1 単位：千件

\*2 単位：百万



# サステナビリティ・ハイライト

トピック及び目標	進捗状況	関連する枠組み
<p><b>環境</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アフラック・インコーポレーテッドは、2040年までのカーボン・ニュートラル、2050年までのネット・ゼロ・エミッションをそれぞれ達成するためのマイルストーンの設定づけと設定を行うフレームワークを構築します。</li> <li>2030年までに、アフラック・インコーポレーテッドのスコープ1及び2の温室効果ガス排出量を2007年比で75%削減します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2020年以来、アフラックは排出量の削減と再生可能エネルギー・クレジット (REC) やカーボン・オフセットの購入を合わせて、スコープ1及び2におけるカーボン・ニュートラルを達成しました。</li> <li>アフラック・インコーポレーテッドは、2007年から2022年にかけて、スコープ1及び2の市場ベースの温室効果ガス排出量を合計93.6%以上削減しました。</li> </ul>	
<p><b>責任投資</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「投資可能資金」の少なくとも10%を、新規のサステナブル投資及びDE&amp;I投資・コミットメントに配分します。</li> <li>責任投資フレームワークを継続的に前進させます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アフラック・グローバル・インベストメンツは、3億5,800万ドルの環境投資(73%)及び社会的投資(27%)を実行しました。</li> <li>アフラック・インコーポレーテッドは、初の責任投資スチュワードシップ及びエンゲージメント方針を公表しました。</li> <li>責任投資原則 (PRI) の署名機関として、アフラック・インコーポレーテッドは2023年に最初の非公開レポートを提出し、現在のPRIガイドラインに沿った最初の公開レポートを2024年に提出する予定です。</li> </ul>	
<p><b>報告</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>サステナビリティ会計基準審議会 (SASB) 及び気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD) に準拠し、報告・開示の枠組みを継続的に前進させます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2023年版TCFDレポートを発行しました。</li> <li>スコープ1と2、及びスコープ3のカテゴリー1、2、3、4、5、6、7、8の温室効果ガス排出量について保証を取得しました。</li> </ul>	
<p><b>ダイバーシティ、エクイティ&amp;インクルージョン (DE&amp;I)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アフラック生命保険株式会社は、2025年までにライン長ポストに占める女性割合を30%に引き上げる中長期計画を設定しています。<sup>*</sup></li> <li>アフラック (米国法人) は、2026年までに上級管理職構成におけるダイバーシティを5%高める目標を設定しています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アフラック生命保険株式会社は、ライン長ポストに占める女性割合を27%としました。</li> <li>アフラック (米国法人) の上級管理職構成におけるダイバーシティは49.6%で、2023年には2%以上上昇しました。</li> <li>アフラック (米国法人) は、上級管理職クラスに占める女性の比率を37%に上昇させました。</li> </ul>	

\* アフラック生命保険株式会社におけるライン長ポストに占める女性の割合を対象としており、子会社は含みません。

トピック及び目標

進捗状況

関連する枠組み

**フィランソロピー**

がんとの闘いは並大抵のことではありません。私たちは、がん保険のリーディングカンパニーとして、ご契約者が当社を最も必要とされる時にそばに寄り添います。同じように、がんと診断された子どもたちのそばにも寄り添いたいと考えています。アフラック・インコーポレーテッドは、米国、日本及び北アイルランドでがんと診断された3歳以上のすべての子どもたちの手にMy Special Aflac Duck®を届けることを目標に掲げ、子どもたちががん治療に立ち向かうことを支援しています。2022年以降、鎌状赤血球症と闘う子どもたちにもこのプログラムを拡大しました。

- ✓ アフラックは、2023年までの間に、米国、日本及び北アイルランドで、累計**27,000人以上の子どもたちにMy Special Aflac Duck**を贈呈しました。
- ✓ アフラックとその従業員、募集人は次のサポートを行っています。
  - ✓ がんや重い病気の治療期間中、「第二の我が家」として**アフラック・ペアレックスハウス**をご利用いただいた**小児がんなどの難病の子ども**とそのご家族の数は、**15万人以上**に上ります。



**地域社会への投資**

がん保険のリーダーとして、アフラックは、がんを克服するためには研究が必要であると理解しています。

- ✓ アトランタ小児病院のアフラックがん・血液疾患センターは、**1億7,300万ドル**に上る寄付を集め、全米トップクラスの小児がんプログラム（出典：U.S. News and World Report誌）を提供する医療機関となりました。



**責任ある行動を促すためのポリシー**

アフラックで働く者は、強い倫理観をもった企業文化を守るために、一人ひとりが重要な役割を担っています。このため当社では、各人がその役割を全うするための知識とツールを身につけられるよう、万全を期しています。

- ✓ 当社の新入社員には必ず行動倫理憲章に関する研修を行っています。アフラック・インコーポレーテッドの取締役会を含めた世界のすべての部署においても、この研修を毎年実施しています。適時にこのオンライン研修が受講されなかった場合は、懲戒処分または解雇につながることもあります。2023年には、対象となる人員の100%が研修を受講しました。



**データガバナンス**

データ・セキュリティとプライバシーを確保します。

- 2023年のアフラック・グローバル・セキュリティの状況
- ✓ エンタープライズ ガバナンス、リスク、及びコンプライアンスソリューションを拡張し、規制順守及びグローバルビジネスレジリエンシーのユースケース向けに統合リスク管理能力の向上を図りました。
  - ✓ グローバル危機管理計画を検証するために、サイバーインシデント対応のグローバルでの机上演習を完了しました。
  - ✓ AIと生成AIに関して適切なガバナンスとリスク軽減プロセスが定義されていることを確認するために、ワーキンググループを組織し、グローバルデータの使用と保護ポリシーを更新しました。
  - ✓ テクノロジー導入におけるリスク、複雑さ、コストを軽減するための新しい運用フレームワークをサポートしました。



## サステナビリティと役員報酬

サステナビリティ目標を事業戦略に結びつけることの重要性を認識し、当社は2021年に、当社のグローバル事業全体にわたる全役員を対象とした経営者インセンティブ・プランに、サステナビリティ経営指標を導入しました。この指標には、CSR・サステナビリティ（企業の社会的責任及びサステナビリティ）委員会が審査する、クリティカル・パス目標が含まれており、2023年も継続されました。2023年、当社は4つの目標を掲げ、これに関連する実績は以下の通りです。3つの目標を達成しましたが、1つは達成できませんでした。

4つの目標をすべて達成した場合は、インセンティブに対して+5%の調整、2つ以下の目標達成にとどまった場合は-5%の調整、3つの目標を達成した場合は調整なしとしています。

サステナビリティ経営指標項目	実績及びハイライト
<p><b>責任投資（保険子会社のポートフォリオ）</b></p> <p>「投資可能資金」の少なくとも10%を、新規サステナブル投資、DE&amp;I投資及びコミットメントに配分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ アフラック・インコーポレーテッドは、「投資可能資金」相当額（3億5,800万ドル）の11.8%を割り当てました。</li> <li>✓ 全体のうち73%が環境インパクト投資、27%が社会的インパクト投資及びコミットメントでした。</li> </ul>
<p><b>気候: ネットゼロ</b></p> <p>所有及び管理する施設で使用する電力の33%以上を再生可能資源から調達し、2030年までに100%を目指す正式なロードマップを作成<sup>*1</sup></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✗ サプライチェーンの問題により米国の太陽光発電設備の拡張が遅れたことや曇天により発電量が想定を下回ったことが影響し、再生可能資源からの調達は30.5%になりました。</li> <li>✓ アフラック（日本法人）は、2021年3月以降アフラックスクエアにおいて再生可能電力100%を達成しています。</li> <li>✓ また、アフラック（日本法人）は、2023年の電力消費量を2022年と比較して16%削減しました。</li> </ul>
<p><b>日本でのダイバーシティ、エクイティ&amp;インクルージョン</b></p> <p>2025年末までに「女性のリーダーシップ」（ライン長ポストに占める女性割合）を30%以上に到達させる<sup>*2</sup>ための一環として、2023年に26.5%以上を達成</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ アフラック生命保険株式会社ではライン長ポストに占める女性割合は27%になりました。</li> <li>✓ 部門レベルでの候補者トレーニングやスポンサーシップ制度などの取り組みを活用し、目標を達成しました。</li> </ul>
<p><b>米国でのダイバーシティ、エクイティ&amp;インクルージョン</b></p> <p>米国の上級管理職の多様性を2026年までに5%増加させる目標に向けて、2023年に1%増加</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ アフラック（米国法人）の上級管理職のダイバーシティは49.6%となり、2023年に2%増加しました。</li> <li>✓ 民族的多様性と女性に特化した取り組みとともに、全従業員を対象とした後継者計画と人材育成の取り組みを拡張しました。</li> </ul>

\*1 この目標には、スポット市場からの再生可能エネルギー・クレジット（REC）の購入は含まれません。

\*2 アフラック生命保険株式会社におけるライン長ポストに占める女性の割合を対象としており、子会社は含まれません。

## 従業員の多様性

- 2023年12月31日現在、アフラック（日本法人）の従業員の54%が女性であり、指導的立場にある人の33%を女性が占めています。アフラック生命保険株式会社では、ライン長ポストの27%を女性が占めており、2025年までに30%以上に増やすことを目標としています。
- 2023年12月31日現在、アフラック（米国法人）及び米国で勤務する当社の従業員のうち、有色人種は49%、女性は66%を占めています。また、米国内では指導的立場にある人の51%、上級管理職の37%が、女性となっています。2023年の米国における新規採用者のうち、有色人種は57%、女性は68%を占めました。



## コミュニティ投資とフィランソロピー

- My Special Aflac Duck*<sup>®</sup> は、子どもたちががんや鎌状赤血球の治療に立ち向かうのを支援するために設計された、「スマートな」友だちロボットです。アフラックでは、米国、日本、北アイルランドでがんまたは血液疾患と診断された3歳以上のすべての子どもたちの手に、*My Special Aflac Duck*を届けることを目標としています。アフラックは2023年までの累計で、これまで2万7,000人を超える子どもたちに*My Special Aflac Duck*を贈呈してきました。
- アフラックとその従業員、募集人は以下に対する責任を担っています。
  - がんや重い病気の治療のために、自宅を離れ、アフラック・ペアレックスハウスを第二の我が家としてご利用いただいた15万人の小児がんなどの難病の子どもとそのご家族
  - アトランタ小児病院のアフラックがん・血液疾患センターが、全米トップクラスの小児がんプログラムを提供（出典：U.S. News and World Report 誌）する医療機関となるために役立てられた1億7,300万ドルに上る支援



# ガバナンス

アフラック・インコーポレーテッドでは、誠実、透明性、信頼の原則に基づき、強力なガバナンス戦略を実行しています。このことは、お客様、株主、ビジネス・パートナーやサプライヤー、政府規制当局、そして従業員に対して、最高水準の倫理的行動で自らを律する責任を含んでいます。また、このコミットメントは、透明かつ責任あるコーポレートガバナンスのための堅固な枠組みを提供するもので、その枠組みは、企業組織のトップを起点にしています。

コーポレートガバナンスの枠組みを形成する規範、手順、方針、声明：

- [アフラックの行動倫理憲章](#)
- [アフラックの政治活動報告及び政治行動委員会](#)
- [職場における労働安全衛生方針](#)
- [責任投資方針](#)
- [責任投資スチュワードシップ及びエンゲージメント方針](#)
- [税に関する方針](#)
- [サイバーセキュリティに関する情報開示](#)
- [ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョンに関する声明](#)
- [人的資本管理に関する声明](#)
- [人権に関する声明](#)
- [ネット・ゼロに関する声明](#)
- [サプライチェーンアプローチ](#)



「アフラックのコーポレートガバナンスは企業文化に深く根ざしています。取締役会議室から休憩室、そしてリモートで働く社員まで、私たちは The Aflac Way に基づき正しい方法で物事を進めることを常に心がけています。誠実さ、透明性、そして責任を共有することで、私たちはお客様、そして地域社会が私たちを最も必要とするときに寄り添うという約束を果たします。」

— オードリー・ブーン・ティルマン

アフラック・インコーポレーテッド  
エグゼクティブ・バイス・プレジデント兼最高法律顧問

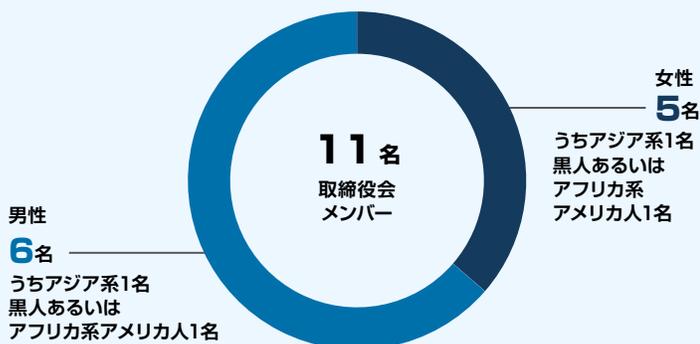
## 取締役会による監督

アフラック・インコーポレーテッドの取締役会（以下「取締役会」）は、人種、ジェンダー、経験などにおいて多様なバックグラウンドを持つ11名のメンバーで構成されており、以下の委員会への参加を通じて、当社の戦略及び意思決定を主導しています。これらの委員会は、従業員、お客様、投資家、地域社会にとって利益の最大化を図ることができるよう、中核的な価値創造経営の枠組みを提供しています。

アフラック・インコーポレーテッドは、持株会社のシステムの中で、業務執行を適切に監督することを通じて、ステークホルダーの期待に

応える強固なコーポレートガバナンス態勢を構築・維持しています。この枠組みを、アフラックの「グローバル・グループ・ガバナンス」と呼んでいます。アフラック・インコーポレーテッドの各国の直接・間接子会社は、グローバル・グループ・ガバナンスに基づき、お客様にとって価値ある商品・サービスの提供を続け、またお客様からの信頼を得るために、経営の健全性を維持しながら事業を運営しています。アフラックのグローバル・グループ・ガバナンスの枠組みの下で、日本及び米国の法令に基づき、アフラック・インコーポレーテッドの直接・間接子会社に対する適切な監督と、子会社間の有機的な協力が確実に遂行されています。

### ジェンダー／人種の多様性



### 平均在職年数

10年  
全取締役

### 平均年齢

65歳

7年  
独立取締役

### 独立取締役の割合

91%

## アフラック・インコーポレーテッドの取締役会及び委員会体制

アフラック・インコーポレーテッドの取締役会		
エグゼクティブ委員会		
監査・リスク委員会	報酬委員会	コーポレートガバナンス委員会
経営企画委員会（ベンチャー）	財務・投資委員会	CSR・サステナビリティ委員会

当社取締役会と各委員会は、サステナビリティを含む、当社が直面するさまざまなリスクと機会の監督という点で重要な役割を担っています。特にサステナビリティに関しては、責任ある倫理的行動やコーポレートガバナンス態勢、CSRとサステナビリティに関する目標を特定、推進、モニタリングするとともに、サステナビリティ関連の目標を報酬プログラム及び気候や社会的リスクや影響を特定・評価するリスク管理方針に組み込むという役割を果たしています。

当社取締役会のCSR・サステナビリティ委員会は、独立取締役で構成され、少なくとも年2回開催されています。CSR・サステナビリティ委員会のメンバーは、CSRとサステナビリティに関して、当社の方針、手続き、及びその実践を監督しており、具体的には、以下の活動を行っています。

- 国連のSDGs、環境への取り組み(エネルギー使用、リサイクル、CO<sub>2</sub>の排出を含む)、健康と安全に関する事項、職場のダイバーシティ&インクルージョンに向けた取り組み、及びフィランソロフィー活動に関する、CSR/サステナビリティ目標の設定
- 目標達成に向けた活動と成果に対するモニタリング
- 当社の環境ステewardシップ方針の目標及び目的の見直し
- 年次のビジネス&サステナビリティレポートの作成の監督と内容のレビュー
- 組織戦略、行動計画、及び経営方針と気候関連リスクの統合に対する監督
- 環境やコミュニティに対する当社の影響を特定し、管理するプロセスの監督

CSR・サステナビリティ委員会は、以下の委員会と連携して取り組みを推進しています。(a) 財務・投資委員会とは、サステナビリティ・ボンドやその他の社会的サステナビリティ関連の債券発行と資金使途、及び投資プロセスの監督に関するCSR及びサステナビリティ要因についてのガイダンスで連携しています。(b) 報酬委員会とは、CSR及びサステナビリティ要因を役員報酬プログラムへ組み入れることで連携しています。(c) コーポレートガバナンス委員会とは、後継者人財の育成に関する当社の方針と原則において、ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョンを組み入れることで連携しています。

また、監査・リスク委員会は、サステナビリティに関するリスクと機会の両面を含む、企業リスクへの取り組みと管理に関する当社の方針、プロセス及び態勢を監督しています。CSR・サステナビリティ委員会を通じて、サステナビリティ関連リスクは、その目標やゴールに対する進捗のモニタリング方法を含めて、組織戦略、行動計画、経営方針及び業績目標と統合されています。CSR・サステナビリティ委員会では、経営陣と定期的に会合を持ち、当社が環境に与える直接的な影響を検討するとともに、廃棄物削減や省エネルギーなどの分野で、当社がCO<sub>2</sub>削減努力を継続することを確認しています。

## 統合的リスク管理

アフラックは、グローバルなリスク管理フレームワーク (GRM)の下、当社独自の目的に基づいてリスクを測定及び管理するための構造化されたアプローチを実践しています。アフラックは「3つのライン」を採用しており、役割と責任、及びさまざまな事業と検証機能の関係を定義することによって、リスク管理と内部統制に関するさらなる構造化を図っています。アフラックの経営陣は、情報の共有や各役割間の活動調整について期待されるあり方を周知しています。これらの役割と責任においては、まず事業部門が第一のラインとしてリスクの特定と管理を行います。そのリスク管理プロセスの確立と監督を担うのが第二のライン、ガバナンス・リスク管理部門です。次の第三のラインが内部監査部門で、リスク管理の枠組みの有効性を評価します。3つのラインはすべて相互に連携して、組織全体のリスクを管理します。

## リスク管理プロセス

ERM部門は、内部監査と連携して、四半期ごとのリスク評価に加え、全社的なリスク評価を毎年実施しています。サステナビリティリスクを含む当社のトップリスクは、適宜、エグゼクティブマネジメント委員会及び取締役会の各委員会に報告されます。

当社は、この年次リスク評価を通じて、特定されたリスクの影響度と発生の可能性を検討し、リスク尺度を用いてすべてのリスクの重要性を評価しています。影響の大きさにより、リスクは軽微、中程度、影響あり、重大、極度に区分されます。発生可能性の尺度は、各リスクを1～2年に1回発生する事象（頻発する）、2～5年に1回発生する事象（予想される）、5～10年に1回発生する事象（可能性がある）、10～20年に1回発生する事象（可能性が低い）、20年以上に1回発生する事象（稀に起こる）の区分で発生可能性を検討するものです。アフラック・インコーポレーテッドの利益、支払能力及びブランドを確実に保護するために、このプロセスを通じて重大または極度と判断されたリスクは、取締役会に上程され、そのガイダンス及び指示を受けます。このプロセスでは、ビジネス・ユニットの責任者への聴取が行われ、ビジネス・ユニット内外におけるリスクの検証が求められます。その目的は、特定されたリスクが、組織全体の目的に影響を与えるかどうかを理解することにあります。リスクの特定後、その影響度と発生可能性を評価し、残存リスクを算出します。リスクは総合得点でまとめられ、数値が最も大きなものが最大のリスクとなります。リスクが実質的または重要な影響を及ぼすかどうかを評価する際には、発生可能性と利益、支払能力、ブランドへの影響を考慮した尺度を用いています。

年次プロセスに加えて、当社は2022年末に、当社のステークホルダー（顧客企業、ご契約者、従業員、投資家、募集代理店、サプライヤー、経営陣、取締役会）を対象に調査を行い、サステナビリティに関する17のトピックについて、それぞれの重要度を評価してもらいました。その結果、ステークホルダーが特に「ビジネス倫理」「プライバシーと情報セキュリティ」「倫理的なマーケティングとプロモーション」を最上位としていることが分かりました。この評価から得られた情報は、他のステークホルダーや株主とのエンゲージメントや、リスク評価プロセスから得られるERMからのインプットとともに、当社のサステナビリティ戦略に活用されます。その他、業界の動向、サステナビリティフレームワーク、規制、法律、基準なども考慮して、サステナビリティ戦略を策定しています。

取締役会による気候関連のリスクと機会の監督に関する追加情報については、最新の[TCFD レポート](#)をご覧ください。

## 倫理とコンプライアンス

アフラックは、尊敬に値する倫理的な企業として高い評価を得ており、このことは、当社の事業目標や中核的な使命に不可欠なものです。私たちは、当社と共に働くすべての人に対して倫理的な行動を期待しており、それがお客様やステークホルダーとの信頼関係の基盤を成すと考えています。こうした期待は、アフラックの共同創業者が68年以上前に当社を築き上げた価値観である「The Aflac Way」の「チームワーク、敬意、公正、正直、誠実、責任」に根ざしています。

当社の「**行動倫理憲章**」は、これらの価値観をどのように受け止め、日々の業務に活かしていくかを示しています。当社の「行動倫理憲章」は、当社が事業を展開している主要国である日本及び米国の公用語に翻訳されており、以下の内容が含まれています。

- 秘密厳守の倫理ヘルプライン
- 報復禁止ポリシー
- 差別とハラスメントに関するポリシー
- 利益相反に関するポリシー
- ヘッジ禁止ポリシー
- 独占禁止法に係るポリシー
- 海外腐敗行為防止法、反ボイコット法及びその他適用される規制を含むがこれらに限定されない汚職防止法の遵守

アフラックはThe Aflac Wayに基づき、従業員に対して尊敬と配慮をもって接するとともに、オープンなコミュニケーションラインと「声を上げる」文化を推奨しています。米国では、「セーフ・トゥ・セイ」プログラムを導入し、従業員に対し、さまざまな懸念事項を報告する方法を提供しています。例えば、包括的で機密性を担保した通報システムのEthicsPointは、24時間365日、フリーダイヤルとオンラインで内部告発やその他の倫理上の懸念に対応しています。私たちは日ごろから、当社の強固な倫理基盤の重要性について話し合い、誰もが声を上げられ、またその声を聞くことのできる「セーフ・トゥ・セイ」の理念を、全従業員が高く評価しています。

報告方法には、電話によるアフラック ヘルプライン (844.246.4371)、ウェブ受付 ([www.aflac.ethicspoint.com](http://www.aflac.ethicspoint.com))、ファックス (706.596.3577)、コンプライアンスコーディネーター宛ての手紙 (住所 1932 Wynnton Road, Columbus, Georgia 31999-0001) があります。従業員は、上司または部門長、人事部、法務部を通じて報告することもできます。

当社は、報告が迅速に検討され、必要に応じて是正措置を講じることを保証するプロセスを維持しており、これには解雇 (適切な場合) が含まれます。アフラックのグローバル・チーフ・コンプライアンス・オフィサーを務める法律顧問は、問題が公正、一貫性、透明性をもって処理されるよう、調査を監督しています。さらに、取締役会の監査・リスク委員会は、必要に応じて、調査プロセス、コンプライアンスの動向や案件を監督します。

当社は、誠意をもって報告を行った者、法律、当社の行動倫理憲章、またはその他の会社方針や手順に対する違反の疑いの特定を支援した者、または内部調査に参加した者に対する報復を容認しません。私たちは報復を防ぐために積極的な措置を講じています。

倫理・コンプライアンス研修は、職場での適切な行動を促し、従業員への具体的な期待を設定し、当社のコミットメントを示す機会であるほか、一般的にはあまり知られていない諸原則を従業員に伝える上で不可欠だと認識しています。リーダーや従業員に適切なトレーニングを提供することは、当社の倫理・コンプライアンス・プログラムの有効性を長期的にわたって高めていくためには重要な要素です。アフラックの全従業員は、会社としての強い倫理観を維持する重要な役割を担っており、その役割を果たせるよう、一人ひとりが必要な知識とツールを確実に身につけられるようサポートしています。行動倫理憲章に関する研修は、すべての新入社員に義務付けられており、取締役会を含む全世界のすべてのチームに対しても毎年実施されています。適時にオンライン研修を受講しない場合、懲戒処分または解雇につながる可能性があります。行動倫理憲章は、当社に雇用されるすべての者に適用され、最高経営責任者と上級財務役員には、特別なセクションも設けられています。

啓発と研修を通じて強固な倫理基盤の確立を図ると同時に、倫理・コンプライアンス・プログラムが実際に効果的に運用されるよう努めなければなりません。当社は、倫理・文化に関する定期的な調査を実施するなど、プログラムの健全性を評価するためのツールを多数使用しています。当社の倫理・コンプライアンス原則に対する従業員の意識に関する無記名アンケートからは、貴重な情報が収集されています。この調査を通じて、私たちトップが見せる非常に強い倫理的姿勢は組織全体にまで波及していることが確認されています。また、従業員は、正しい行いが奨励されていると感じつつ、情報入手の場や、また報復の恐れなく懸念事項を告発できる場についても知っている、ということが報告されています。

当社では、サプライヤーに対しても、当社の高いレベルの倫理基準を遵守するよう求めています。当社は、最大限の誠実さ、公正さ、そして敬意をもった行動に専心しているサプライヤーと取引を行っています。さらに、アフラック (米国法人) は、当社のリスク評価に基づき、規制要件に沿って継続的なデューデリジェンスを実施しています。アフラック (米国法人) のサプライヤー規範は、必要に応じてサプライヤーの遵守状況を監査する権利を留保します。これには、施設の視察、従業員との面談、文書の要求などが含まれます。アフラック (米国法人) 及びアフラック (日本法人) のいずれにおいても、サプライヤーは従業員が報復や処罰の脅威なしに違反を報告できるようにしなければなりません。サプライヤーに関するその他の情報については、当社の[ポリシーとステートメントのサプライヤーチェーンアプローチ](#)をご覧ください。

## 報告

証券取引委員会の規制に従い、アフラックは事業に伴う通常の訴訟以外のすべての重要な法的手続きの内容を、[フォーム10-K 年次報告書](#)及び[フォーム10-Q 四半期報告書](#)において開示しています。

# サイバーセキュリティによる お客様とデータの保護



アフラックでは、私たちがサービスを提供するために収集した個人や企業の情報を保護することは非常に重要であり、当社の企業文化の重要な信条となっています。個人のプライバシーとデータを社内外の脅威から保護すべく、情報セキュリティを非常に重視して事業活動を行っています。写真のように、セキュリティ・オペレーション・センターでは、脅威管理チームとセキュリティ・オペレーション・チームのメンバーが、お客様に代わって安定性とセキュリティを維持するためにたゆまぬ努力を続けています。

## サイバーセキュリティガバナンス

情報保護の取り組みに関してはアフラックの上層部がコミットしています。当社の取締役会は、アフラックのグローバル情報セキュリティプログラムを監督し、プログラム及びグローバル情報セキュリティポリシーを毎年見直し、承認します。このプログラムの責任は、グローバル・チーフ・コンプライアンス・オフィサーに直属するグローバル・チーフ・インフォメーション・セキュリティ・オフィサー (CISO) にあります。グローバルCISOは、取締役会の監査・リスク委員会において四半期ごとに、また取締役会には年3回、プログラムの進捗状況について報告します。これには、適用法規制の遵守、既存の脅威と進化を続ける脅威の動向、セキュリティ強化に向けた取り組みの状況、プログラム戦略の最新の状況が含まれますが、これらに限定されません。さらに、取締役会メンバーには、情報セキュリティに関する意識向上のための研修を毎年実施します。

グローバルCISOは、本プログラムを監督するために、グローバルセキュリティの代表としてガバナンス委員会へ参加し、また自身で委員会を持つこともあります。

これらの委員会は、情報と資産の機密性、完全性、可用性、説明責任、レジリエンスを保護するためのあらゆる側面に対処する効果的な情報セキュリティプログラムに必要な機能を代表する役員で構成されます。

グローバルCISOは高度なスキルを持つリスク管理とセキュリティ、プライバシーの専門家チームによってサポートされ、グローバル情報セキュリティプログラムの開発や実装、運用、保守、継続的な改善を担当します。熟練したサイバーセキュリティ要員を維持するために期待されるトレーニングは、グローバルレベルで文書化され、年次トレーニングの要件が記載されています。アフラックには、米国国立標準技術研究所のサイバーセキュリティフレームワーク (NIST CSF) に基づいて構築された、情報やサイバーセキュリティに関する包括的なポリシーや基準があります。ポリシーや基準は、毎年、組織全体がサイバーセキュリティやプライバシーに関する各種規制変更への対応や、技術や業界のベストプラクティスを踏まえた対応を実施しているかどうかを確認するレビューを行った上で承認されます。

## サイバーセキュリティリスク管理

アフラックでは包括的なサイバーセキュリティリスク管理プログラムを導入しており、データ使用や第三者との情報の共有、重要なアプリケーションやインフラのシステム設定、人口知能（AI）の使用を対象に、それらに伴う情報セキュリティとプライバシーリスクの初期評価と継続的なモニタリングを行っています。初期評価と、リスクを低減するコントロールの評価を通じて、最終的なリスクレーティングが決定されます。特定されたリスクをエスカレーションするコンプライアンスプロセスが整備され、リスク対応の透明性と適切な説明責任の確保が図られています。再評価の頻度は、リスク評価プロセスに沿って決定されます。

また、ビジネスリスクの特定を直接事業者が行うために、レジリエンスプロセスも確立されています。また、運用上のレジリエンシーをサポートするために、ビジネスプロセスの優先順位を影響評価という形で把握し、BCP（事業継続計画）を策定することで、業務に支障をきたすような事態に適切な対応を行います。影響評価とBCPIは、少なくとも毎年更新されます。



## サイバーセキュリティコンプライアンス

アフラックには、セキュリティ及びプライバシーのポリシーと基準に照らしてビジネス慣行とテクノロジーを評価するためのプロセスがあります。[アフラック・プライバシー・センター](#)では、当社の個人情報の収集、利用、共有方法について公開しており、個人が個人情報を保護し、プライバシー権を行使する方法を知ることができます。当社の成熟したサイバー保証プログラムは、コントロールオーナーによる、コントロールの有効性への誓約を定期的に監督しています。それらのコントロールは、NIST CSFに対応する包括的なライブラリで構成・維持されています。さらに、アフラック（米国法人）ではSSAE 18 SOC 2レポート（米国アテステーション業務基準書第18号受託会社の内部統制報告書）の独立した外部ファームによる審査を年次で実施しています。

サイバーセキュリティとプライバシーの領域では、法・規制活動の焦点が常に進化し続けています。アフラックでは、新しい法規制の動向を注

視する部門横断的なチームを通じて、プライバシー及びサイバーセキュリティプログラムが、規制要件に準拠していることを確認・評価しています。

## セキュリティ運用

アフラックには、規制要件と業界のベストプラクティスとの整合性を確保するための、従来型のシステムとコントロールが存在していますが、ビジネスの変化に対応した、より成熟したセキュリティ体制の構築に向けて継続的に取り組んでいます。当社が実装している階層化された防御システムには、ID及びアクセス管理システム、役割に基づくアクセス管理、多要素認証、暗号鍵や証明書を管理する仕組み、ファイアウォール、クラウド、ネットワーク、エンドポイントのセキュリティツールなどが含まれており、情報の保護と可用性の確保に努めています。また、定期的にアクセスレビューを実施し、その記録は維持され、検査されます。

アフラックはまた、侵入検知、防止、及びデータ保護ツールを活用して、機密性の高い情報と資産を保護します。プログラム全体で、内部及び外部の異常を検知して対応する能力をサポートするために、継続的なモニタリングを実施しています。成熟した脆弱性スキャン及びパッチ管理プロセスがあり、主要リスク指標を隔月で各国のマネジメントに提供しています。また、四半期ごとに対応状況に関する詳細なダッシュボードがビジネスリードに提示されています。

私たちのチームは、金融サービスや保険業界の他社、ならびに地方、連邦の法執行機関との協力を含む複数の脅威に関する機密情報を共有するコンソーシアムに積極的に参加しています。また、チームは重要な環境の変化を捉えるため、オープンソース・インテリジェンスのフォーラムやグループの一員として活動しています。

## レジリエンシーと対応

アフラックのオールハザードビジネスレジリエンスプログラムは、先進的な事例とISO22301などの業界標準を踏まえています。このプログラムでは、組織における重大な事態を管理するために、コントロールと対策を実施します。これは、アフラックの従業員やお客様、株主、ビジネスパートナー、情報、資産、事業が、想定外の事業中断の際にも適切に保護されることを保証する全社的なプログラムです。統合的な事業継続や災害復旧、生命の安全確保、インシデント管理、危機管理を通じて、レジリエンスが達成されます。2023年、アフラックは、外部機関が進行役を務め、グローバルな役員を含め部門横断的な参加者が参加した、年次のサイバーインシデントの机上演習を成功裏に実施しました。この演習では、グローバルなサイバー事案への対応をテストすることに成功しました。

当社のインシデント対応チームには、包括的なインシデント対応フレームワークに精通する、技術力のあるセキュリティやフォレンジックの専門家を揃えています。このインシデント対応フレームワークは総合的な手順、タスクから構成されており、セキュリティやプライバシーのインシデントをタイムリーかつ正確な解決に導きます。さらに、アフラックはグローバル・サイバー保険に加入しています。アフラックは、法的要求に

したが、万が一個人情報情報が漏洩した場合には調査の上、本人と当局に通知するプロセスを整備しています。

## セキュリティ意識向上とトレーニング

アフラックのサイバーセキュリティ意識向上トレーニングプログラムは、従業員や委託先、募集人が情報やサイバーセキュリティ、プライバシーの重要性を認識し、適切に対応できるように設計されています。このプログラムでは、サイバーセキュリティリスクの防止、特定、上部組織への報告に必要な知識とスキルを全員に提供しています。2023年、当社のシステムやデータにアクセスできる従業員や委託先の100%がセキュリティやプライバシーに関して、特権ユーザー及び開発者の役割に応じた追加トレーニングを含む、必要なトレーニングを受講しました。これに加え、累計50,000時間以上の必須及び補足的なセキュリティとプライバシーに関するトレーニングを、組織の全員が完了しました。

アフラックのセキュリティ運用チームと脅威インテリジェンスチームは、セキュリティ意識向上プログラムにおいて緊密に連携しながら、実際に見られる脅威に対応したフィッシング訓練メールを年間を通してユーザーに対して送信しています。訓練結果はメトリクスでモニタリングされており、フィッシングの感染しやすさに関するリスクがリアルタイムで可視化されています。訓練で不合格となった者には追加のトレーニングが義務付けられています。2023年、アフラックのフィッシングメール演習の成績は同業他社の水準をはるかに上回り、従業員と委託先の合格率は99%を超えました。

アフラックのセキュリティ意識向上のアプローチでは、セキュリティとプライバシーを、トレーニングにとどまらず、企業文化の中核として根付かせるよう努めています。経営陣の強力なサポートの下、100人のサイバーセキュリティアンバサダーと76人のプライバシーリエゾンを配置し、セキュリティ及びプライバシーの意識向上やエンゲージメント強化を推進しています。2023年には、サイバーセキュリティとプライバシーに関する無数のトピックを網羅した100以上のダイレクトコミュニケーション、ポータルストーリー、コンテスト、パネル、教育イベントを開催しました。イベントはプライバシー意識向上週間と全米サイバーセキュリティ意識向上月間に焦点を当て、年間を通じて3,400人超の参加者を集めました。

# 政治活動報告

アフラックは、長きにわたり民主化のプロセスに参加してきました。連邦及び州政府の規制を受ける企業として、ご契約者へのアフラックの約束を守るために、選挙で選ばれた議員との関わりは重要です。

[政治活動報告について、詳しくはこちらをご覧ください。](#)



「当社の活動及びその実施方法を考える時、透明性の確保を意識しています。人々は強い倫理観を示す個人や企業を信頼します。アフラックは、経営陣をはじめ全社的に透明性の高いプロセスを採用し、またこのプロセスを非常に重視しています。ガバナンスはその重要なフレームワークです。」

## — ブラッド・ノックス

アフラック・インコーポレーテッド  
シニア・バイス・プレジデント  
コーポレート・アフェアーズ&パブリック・ポリシー

# 資産運用



「アフラック・グローバル・インベストメンツでは、競争力のあるリスク調整後収益をもたらす投資を追求すると同時に、低炭素経済への移行に貢献し、支援が必要な地域社会をサポートする機会を捉えることを目指しています。私たちの投資哲学には、ポートフォリオのパフォーマンスに影響を与える重要なサステナビリティ要因のリスク評価が組み込まれています。投資可能資金の10%以上を新たなサステナブル投資及びコミットメントに割り当てるなど、2023年のアフラック・グローバル・インベストメンツの成果を誇りに思っています。」

## — ブラッド・ディスリン

アフラック・インコーポレーテッド

エグゼクティブ・バイス・プレジデント兼グローバル最高投資責任者  
アフラック・グローバル・インベストメンツ社長

**アフラック・グローバル・インベストメンツ**（以下、「グローバル・インベストメンツ」または「GI」）は、アフラック・インコーポレーテッドの資産運用子会社で構成され、日本、米国、バミューダの保険子会社が保有する約1,050億ドルの資産の運用を担当しています。また、4億ドル規模のベンチャー投資部門であるアフラック・グローバル・ベンチャーズを擁しています。このチームは、戦略的アセット・アロケーションという投資基盤に基づき、資本の保全と調和した長期的リターンを最大化を追求することで、当社の長期的な成功に貢献しています。そして、質の高い分散ポートフォリオを構築することに注力するため、保守的な資産、負債、及び資本管理アプローチを実行しています。2023年末時点で、アフラック・グローバル・インベストメンツのチームは、ニューヨーク、アトランタ、そして東京に180名を超える投資及びサポートの専門家を擁し、共にグローバルな投資機会を探し、管理しています。



投資チームは、資産クラスごとに編成され、ソブリン債、コーポレートクレジット、地方債、インフラストラクチャー債、ミドルマーケット及び商業用不動産ローン、プライベート・クレジット、プライベート・エクイティ、不動産投資などの専門知識を持つポートフォリオマネージャーが率いています。また、社外の資産運用会社のプラットフォーム機能を活用して、当社のリターンと分散に関する基準を満たす専門的な戦略特化の第三者の運用マネージャーの発掘を行っています。当社のチームはグローバルな資本市場で存在感を示しており、当社のご契約者に対する義務を果たすために、日本円と米ドルの両方の通貨で投資を行っています。デリバティブの専門家を擁する当社のグローバルチームは、世界の金利及び外貨に対するエクスポージャーを最適化するための戦略を策定し、管理しています。

グローバル・インベストメンツは、魅力的なリスク調整後収益をもたらすと同時に、環境の持続可能性向上に貢献し、社会的利益を生み出すことを目指しています。新規及び既存の投資案件を評価する際に責任投資の要素を取り入れることは、GIの投資哲学の一部です。アフラックのステークホルダーにプラスの影響を与えながら、投資案件のサステナビリティやリスク・リターンプロファイルに関してより良い意思決定につながると考えています。

自社運用資産については、発行体の事業、財務、信用見通し全般に関する従来のファンダメンタルズ分析と併用して、独自のサステナビリティ・スコアを付与しています。当社の責任投資統合アプローチは、当社が第三者の運用マネージャーに委託する資産にも適用されます。外部の運用マネージャーには、責任投資への配慮が投資プロセスにどのように統合されているかのレビューを含む年次モニタリングを実施しています。



私たちのこれまでの取り組みは、社会と環境に直接的なプラスの影響を与える一助となっていると確信しています。2023年12月31日現在、環境及び社会に影響を与えるサステナブル投資及びコミットメントは、2023年に追加された5億ドルを含め、総額50億ドルを超えています。

これらの投資は、以下のような複数の資産クラスにまたがっています。

- 再生可能エネルギー：アフラック（日本法人）による日本の太陽光発電の普及を目的とした投資など、再生可能エネルギーへの取り組みの拡大を支援する公募債及び私募債、インフラストラクチャー債、グリーン・ビルディングへの投資
- 手頃な価格の住宅：低所得者層、十分な支援を受けられない、または経済的に困難な地域における不動産への融資に重点を置いた商業用不動産投資
- 手頃な価格の住宅、教育、病院、交通機関、水道施設への資金提供及び同様の投資を通じて、米国、日本及びその他の市場で地域コミュニティを支援する地方債及びその他の債券

- グリーンボンド、サステナブルボンド、またはソーシャルボンドに該当する公募及び私募市場で発行された債券
- 低炭素経済への移行、経済的エンパワーメント、社会的な公平性、ダイバーシティ&インクルージョンを直接もしくは間接的に支援する投資目的を有する、及び/または多様なオーナーシップや社員で構成されるプライベート・エクイティ及び不動産エクイティ・ファンドへの投資

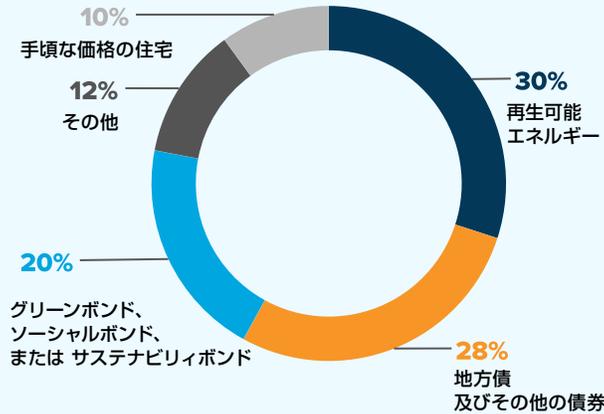
さらに、アフラック・グローバル・ベンチャーズは、アフラックの商品をサポートするサービスやエコシステムの構築など、アフラックの事業戦略上の優先順位に沿った投資機会に積極的に注力しています。

気候変動が当社のステークホルダーに影響を及ぼす可能性があることから、グローバル・インベストメンツは低炭素経済への前進に取り組んでいます。2050年まで投資ポートフォリオの温室効果ガス排出量をネット・ゼロにするというコミットメントの一環として、データの質と基準の向上に合わせて、投資に係る温室効果ガス排出量の算出方法を高度化することに注力しています。また、投資ポートフォリオに影響を与える物理リスク及び移行リスクを評価するため、気候変動リスクに係るフレームワークの開発にも取り組んでいます。私たちの気候変動に対する取り組みは、目標達成に向けて前進を続けています。

2023年を通じて、当社の投資ポートフォリオは、固定及び変動金利ポートフォリオの利回り改善により投資収益（純額）が恩恵を受けたことから、好調なパフォーマンスを示しました。戦術的アセット・アロケーションの決定も投資収益に寄与しましたが、当社のオルタナティブ投資ポートフォリオからの変動投資収益（純額）の低下により一部相殺されました。



## サステナブル投資及びコミットメントのカテゴリー



## 50億ドル超

をサステナブル投資及びコミットメントに配分  
(2023年12月31日時点)

アフラックは2021年3月に初めてサステナビリティ・ボンドを発行しました。3億9,700万ドルの調達資金（純額）は、再生可能エネルギー、グリーン・ビルディング、社会経済的発展・エンパワーメント、及び地域社会といった4つの適格カテゴリーに全額が配分されました。

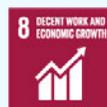
調達資金は2022年に全額配分され、2023年にはポートフォリオの構成を変更することなく、以下の持続可能な開発目標（SDGs）に沿って投資されています。サステナビリティ・ボンドの満期は2026年3月15日です。

## 調達資金（純額）の適格カテゴリー別の使途（累積ベース）<sup>\*1</sup>



## 適格資産カテゴリー別の配分

対象カテゴリー	配分された金額 <sup>*2</sup> (百万ドル)
再生可能エネルギー	110
グリーン・ビルディング	50
社会経済的な発展とエンパワーメント	73
地域社会	164
<b>配分額合計</b>	<b>397</b>



\*1 調達資金（純額）は、サステナビリティ・ボンドの枠組みに従い、サステナビリティ・ボンドによる資金調達額から債券発行費用を差し引いた金額です。

\*2 2023年12月31日時点の配分額。「配分」は、現金による投資の実行、または投資対象先に対する法的拘束力のあるコミットメントの供与と定義されています。

# 環境

アフラック・インコーポレーテッドは、環境のため、そして私たちをお役立ていただいている人々の健康と幸福のために尽力しています。そのため、効果的かつ効率的な事業運営と責任ある環境保全とのバランスを取るよう努めています。当社は、気候変動の緩和、天然資源の保護、温室効果ガスの排出量削減のために、自らの役割を果たし、当社の事業と投資の長期的な価値を確保し、私たちが住む世界を保護することに努めています。

## アフラック SmartGreen

当社の経営陣と取締役会のCSR・サステナビリティ委員会は、すべての気候変動問題を監督し、当社のSmartGreen®理念を支持しています。その取り組みは、温室効果ガスの排出量を削減し、資源の効率的な利用法を確保し、役職員が自然環境の良き管理者となるための革新的な手法を全社的に導入することに重点を置いています。

**SmartGreen理念:** 当社は、日々利用する資源を適切に選択、使用、処分し、これらの取り組みを以下の5つのカテゴリーで徹底して実践します。



### 事業活動

ファシリティマネジメント

役職員のエンゲージメント

### 廃棄物の管理

戦略的な調達・購買

アフラック（日本法人）は、「Aflac SmartGreen®」の考え方に基づき、2019年に「環境経営宣言」を制定しました。また、企業活動を通じて戦略的かつ体系的な「環境経営」をさらに推進するため、「気候変動への対応」、「持続可能な資源利用」、「ステークホルダーエンゲージメント」の3つの重点テーマの下で目標を設定しています。

### 環境経営宣言

- 事業活動における環境配慮行動
- 環境関連法規の遵守
- 環境啓発活動の推進と社会に対する貢献
- 継続的な環境改善の推進

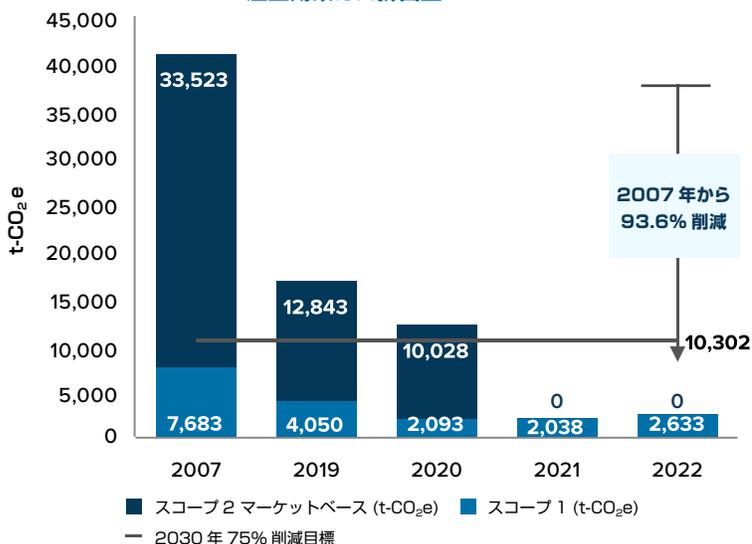


アフラックではアヒルが重要な文化的役割を果たしており、役職員や訪れた人が、ジョージア州コロンバスにあるアフラックのポール・S. エイモス・キャンパス内にある静かな池にいる私たちの仲間であるアヒルを眺めて楽しんでます。

## 温室効果ガス削減の進捗

アフラック・インコーポレーテッドは、2007年から2022年にかけてスコープ1及び2のマーケットベースの温室効果ガス排出量を93.6%以上削減しました。その結果、2007年を基準年としてスコープ1及び2の排出量を2030年までに75%削減するという目標を、予定より9年前倒して達成しました。2022年には、新型コロナウイルス感染症のパンデミックからの脱却に伴い事業活動が活発化した結果、スコープ1の温室効果ガス排出量は増加しました。

アフラック・インコーポレーテッドの  
温室効果ガス排出量



2030年の目標には、アフラック（米国法人）及びアフラック（日本法人）のスコープ1排出量の100%、アフラック（米国法人）及びアフラック（日本法人）のスコープ2排出量（マーケットベース）の100%が含まれます。2007年のスコープ1及びスコープ2の総排出量（マーケットベース）は41,206t-CO<sub>2</sub>e、2022年のスコープ1及びスコープ2の総排出量（マーケットベース）は2,633t-CO<sub>2</sub>eでした。これは基準年の排出量から93.6%の削減となります。

## カーボン・ニュートラル

アフラックは2020年以降、スコープ1及び2の排出量についてカーボン・ニュートラルを達成しています。2021年3月以降、アフラック（日本法人）は自社ビル「アフラックスクエア」では再生可能エネルギーのみを使用しています。省エネルギー化については、エネルギー効率の高い照明、暖房、換気、空調の導入、その他の排出量削減の取り組みへの投資を行いました。アフラック（米国法人）は、再生可能エネルギー・クレジットを購入することでスコープ2の排出量（マーケットベース）を削減し、さらに日米ともにカーボン・オフセットを購入しスコープ1の排出量を相殺しました。<sup>\*1</sup>

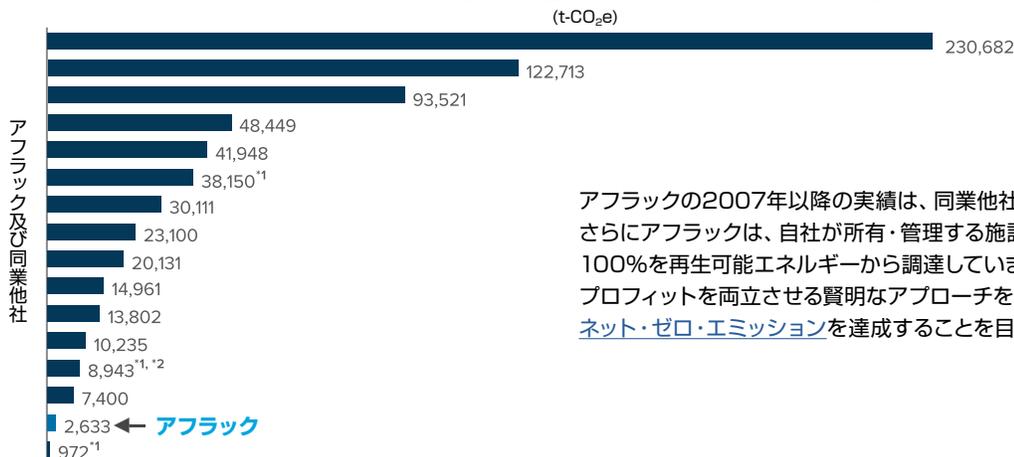


当社は、持続可能な未来に貢献するスマートな環境ソリューションに投資しています。写真は、2022年に設置され、2023年に50%拡張されたポール・S・エイモス・キャンパス（PSA）の太陽光発電設備です。拡張された設備では、年間300万kWh以上の発電を見込んでおり、これは275世帯以上の電力に相当し、コロンバスの施設で使用される電力の15%以上に相当します。<sup>\*2</sup>

\*1 再生可能エネルギー・クレジット（REC）は、再生可能エネルギー発電の環境、社会、その他の非電力的属性に対する財産権を表す市場ベースの商品です。1RECは、再生可能エネルギー資源から発電された1 MWhの電力を表します。

\*2 アフラックPSAの太陽光発電設備は、年間300万kWh以上の発電を見込んでいます。米国エネルギー情報局によると、平均的な家庭用電力の年間使用量は10,791kWhです（3,000,000/10,791=278.01）。

### アフラックの2022年のスコープ1及び2の排出量（マーケットベース）は、同業他社の中でも極めて少ない



アフラックの2007年以降の実績は、同業他社を大きく引き離しています。さらにアフラックは、自社が所有・管理する施設で使用する電力の100%を再生可能エネルギーから調達しています。当社はパーパスとプロフィットを両立させる賢明なアプローチを用いて、2050年までにネット・ゼロ・エミッションを達成することを目指し続けます。

出典: CDP及び同業他社15社のレポート

\*1 スコープ2排出量（ロケーションベース）を報告

\*2 生命保険子会社の排出量のみを報告



競合他社15社: The Allstate Corporation; Assurant, Inc.; Bighthouse Financial; Chubb Limited; Equitable Holdings; The Hartford Financial Services Group, Inc.; Humana Inc.; Lincoln National Corporation; Manulife Financial Corporation; MetLife, Inc.; Principal Financial Group, Inc.; The Progressive Corporation; Prudential Financial, Inc.; The Travelers Companies, Inc.; Unum Group.

## 再生可能電力

アフラックは、自社が所有・管理する施設で再生可能電力のみを継続して使用する方針です。アフラックはこの取り組みを加速させるため、持続可能な未来に貢献するスマートな環境ソリューションに投資しています。



アフラック（米国法人）の拡張された太陽光発電設備の動画は[こちら](#)

- 2022年、アフラック（米国法人）は太陽光発電設備のフェーズ1を完了し、ポール・S. エイモスのキャンパスに1.3MWhの発電設備を設置しました。2023年、アフラック（米国法人）は発電設備を50%拡張しました。拡張された設備によって発電された電力は、アフラックの米国最大のキャンパスであるポール・S. エイモス・キャンパスで使用される電力の50%以上を占めます。
- アフラック（日本法人）は、2022年より当社所有のビル「アフラックスクエア」で使用する電力を100%再生可能エネルギーに切り替え、CO<sub>2</sub>排出量ゼロ<sup>\*</sup>を達成しています。また、自社ビルに加え、賃貸オフィスのビルオーナーとも、再生可能エネルギーの利用促進に取り組んでいます。

\* 非常用発電機の使用によるCO<sub>2</sub>排出量（約7t-CO<sub>2</sub>/年（2022年実績））は除きます。

## 省エネルギーへの取り組み

アフラックは、再生可能エネルギーの使用量を増やすことに加えて、エネルギーの節約にも取り組んでいます。2023年現在、アフラック（米国法人）は、LEED（Leadership in Energy and Environmental Design）のInterior Design and Constructionにおいてゴールド認定を受けた建物を保有しています。

また、アフラック（日本法人）は、2023年に日本の金融業界で初めて、LEEDのOperations and Maintenanceにおいて最高レベルの認証であるプラチナ認証を受けました。

さらに、アフラック（日本法人）は、日本政策投資銀行（DBJ）が環境・社会配慮型不動産の促進を目的として創設した「DBJ Green Building 認証」において、5段階の認証のうち2番目に高い4つ星評価を取得しました。



アフラック（日本法人）は、役職員向けにアフラックスクエアの見学ツアーを開催し、アフラックスクエアの安全性や環境性能についての理解を深めました。

アフラック（米国法人）では、10年以上前から、所有する不動産の電力消費量の削減に取り組んできました。アフラック（米国法人）は、米国で初めてISO 50001:2011 エネルギーマネジメントシステムの認証を取得した保険会社であり、ISO 50001:2011 エネルギーマネジメントシステムと ISO 14001:2015 環境マネジメントの認証の両方を取得した最初の保険会社でもあります。2019年にISO 50001:2011の再認証を取得し、不適合事項はありませんでした。アフラックは、可能な限り環境に配慮した建物を所有または賃貸することに取り組んでいます。

- アフラック（日本法人）は、アフラックスクエアでのエネルギー使用量を削減するために、高効率エネルギーシステムへの転換を進めてきました。また、当社が入居する賃貸借ビルについても、低消費電力・長寿命のLED照明の導入や、環境省が推奨する設定温度に合わせた空調制御に取り組んでいます。さらに、役職員に対して照明、コンピュータ、ディスプレイ、空調設備等における節電を促し、環境意識の醸成を図っています。
- アフラック（米国法人）の各キャンパスには、環境に優しい車両の使用を促進するために、電気自動車（EV）充電ステーションを設置しています。役職員は勤務中にEVを充電することができます。アフラック（米国法人）の社用車にはEVやハイブリッド車も使用しており、社用車を購入する際には燃費効率を重視しています。アフラック（日本法人）は、会社で使用する多くの車でハイブリッド車を使用しています。



### EV社用車

アフラックが米国で保有する社用車には、電気自動車（写真（上））やハイブリッド車があり、拠点間の機材輸送に使用されています。

- 当社は IT インフラをクラウド ソリューションに移行することによりCO<sub>2</sub>排出量を削減しています。一部のクラウド・プロバイダーは再生可能エネルギーも使用しており、当社のCO<sub>2</sub>排出量の削減に貢献しています。また、デスクトップ・インフラをクラウドに移行することも検討しています。

## 廃棄物の削減

リサイクルは私たちの文化の一部となっています。アフラックは、2022年に663トンを超える紙、金属、プラスチック、電子機器をリサイクルしました。これは、廃棄物全体の78%にあたります。当社では、従業員向けのリサイクルボックスがほとんどのオフィスに設置されています。



### リサイクルボックス

写真は、東京にあるアフラック本社の社員がさまざまな種類の廃棄物をリサイクルしている様子です。

## エンゲージメント

### 役職員エンゲージメント

アフラックは、環境への意識を高め、役職員と地域社会の健康と幸福に貢献する持続可能な職場環境を維持することに尽力しています。役職員一人ひとりが、地球環境問題や事業活動が環境に与える影響を理解し、省エネルギー化の取り組みや資源のリサイクル・再利用の推進など、環境経営に向けて具体的に取り組んでいます。当社は、特別なイベントやオンライン学習セッションを通じて、役職員にさまざまな環境教育の機会を提供しています。私たちは職場に限らず家庭でも環境に配慮するよう役職員に呼びかけています。また米国では、役職員がアフラック・グリーン・パスダーと呼ばれるボランティアとして、イベントの企画や各部署の取り組みのサポートを通じて、アフラックの環境目標の達成を支援しています。

#### 生物多様性と自然

国連によると、生物多様性の促進は気候変動による悪影響を軽減することに繋がります。生息地の保全または復元を通じて、大気中のCO<sub>2</sub>を除去し炭素を貯蔵することで気候変動に対処することができます。生物多様性を促進するため、アフラックは年間を通じて植林活動をはじめとした役職員の環境意識の醸成に取り組んでいます。

#### 植樹祭

米国では、アフラック・グリーン・コミッティーが人事部の従業員エンゲージメント・チームと協力し、会社のCO<sub>2</sub>排出量削減目標に貢献しました。Employee Appreciation Week（全従業員に感謝する週）の期間中に記念品を受け取らないことを選択した従業員一人につき1本の樹木をArbor Day財団が国有林に植樹しました。アフラックは記念品を受け取らないことを選択し、CO<sub>2</sub>排出量の削減に貢献した従業員に敬意を表して、合計 198 本の樹木を寄贈しました。



#### 環境教育

グリーン・コミッティーは、2023年、米国役職員向けに、在来植物をテーマにした3つの教育セッションを開催しました。これらのセッションでは、ジョージア州在来植物協会、コロバス植物園、在来植物連合との提携のもと、「在来植物の育て方」、「虫が在来植物の花粉を媒介する庭づくり」、「在来植物を使ったガーデニング」などのトピックを取り上げました。

#### 東京グリーンシップ・アクション

2023年10月、アフラック（日本法人）の役職員とその家族約40名が、東京都の自然保護活動「東京グリーンシップ・アクション」に参加しました。この取り組みは、気候変動を防止し、生物多様性と森林保全を促進することを目的としています。参加者は草取りや下草刈りを行い、正しい森林保全について学びました。



#### 植林

アフラック（日本法人）は、紙の消費量を削減するペーパーレス推進の一環として、保険証券を紙ではなく電子的に発行する取り組みを推進しています。お客様が電子証券を選択された場合に当社が植林を行うキャンペーンを実施したところ、2023年7月から9月までの3ヶ月間で10,750件の契約で電子証券が選択されました。結果として当社は600本を植林し、幼木475本分の育成費用を支援しました。



## カーボン・リテラシー・プロジェクト

北アイルランドのベルファスト・オフィスに勤務する役職員 12 名が、2023 年にカーボン・リテラシー・プロジェクトのトレーニングに参加しました。このトレーニングは、炭素価格と日常活動による影響に対する意識を高め、個人、地域社会、組織単位で排出量を削減する能力とモチベーションを与えようとするものです。北アイルランドのアフラック・グリーン・チームは、学んだことを活かして、カーボン・ニュートラルとネット・ゼロ・エミッションに向けた取り組みの推進を支援するプログラムを開発しています。



## リサイクル

アフラックは、自社の廃棄物を埋立地や焼却場に送るのではなくリサイクルすることで、環境汚染や排気ガスによる有害な影響を軽減し、持続可能な地球環境の保全に貢献しています。

### シェッド&シュレッド・イベント

アフラック（米国法人）のサイバーセキュリティ意識向上トレーニングプログラムの一環として、米国のアフラック役職員は個人所有の電子機器や書類を自宅から持ち寄り、年2回の回収を通じて安全かつ責任を持ってリサイクルしました。2023年の回収では、1,040ポンド（約472キログラム）の電子機器をリサイクルしました。



## 不要な衣類の回収、リユース、リサイクル

役職員が持続可能な環境づくりの重要性を理解し、環境保全を自分ごと化できるよう、不要になった衣類を回収、リユース、リサイクルするプログラムを実施し、合計4,178ポンド（約1,895キログラム）の衣類を集めました。この取り組みは、アフラック・ハートフル・サービス株式会社\*と協働して実施することで、障がい者の雇用や就労支援にもつながる活動となっています。この取り組みは2023年8月と11月に実施されました。

\*障がい者雇用を目的としたアフラック生命グループの特例子会社



## 地域清掃

私たちは、当社が事業展開している地域社会を大切にしています。地域社会への恩返しとして、役職員がボランティアで清掃やゴミ拾いを行いました。

### ジョージア州コロンバス

2023年7月、グリーン・コミッティーが開催した3回目となる年次イベント「ウォーク・ジョグ・ブログ」に、全社から役職員が参加しました。参加者たちは一緒に769マイル（約1,238キロメートル）を歩いたり、ジョギングしたり、走ったりしながら、90袋以上のゴミを拾いました。

### 東京都調布市

2023年10月、アフラック（日本法人）の役職員約40名が、環境意識の醸成と社会貢献を目的に、アフラック（日本法人）の自社ビルがある調布駅周辺の清掃活動を行いました。



## サプライヤーとのエンゲージメント

当社は、環境保全にはサプライヤーを含むすべてのステークホルダーとの協働が必要であると考えています。サプライヤーは当社のバリューチェーンの一部として重要な役割を担っており、アフラックはネット・ゼロ・エミッションの目標達成に向けて、サプライヤーとの協働を続けています。また、そのために、当社はすべてのサプライヤーに、環境に対してベストプラクティスを実施するよう奨励しています。当社は、社会、経済、地球環境の長期的な健全性と活力を高めることを目的とした非営利団体「[Sustainable Purchase Leadership Council](#)」の創設メンバーであることを誇りに思います。また、私たちは自らの役割を果たし、倫理的に行動し、多様性を追求し、環境に配慮するという当社の理念をサプライチェーンの多様性に反映し続けることに全力で取り組みます。

## 温室効果ガスの削減

私たちは、当社が事業展開しているコミュニティのステークホルダーからのご意見を重視しています。2023年、アフラックはサプライヤーの気候関連の取り組みについて理解を深めるために、米国と日本のサプライヤーにアンケートを送り、サプライヤーにおける温室効果ガス排出量の削減に向けた取り組みやスコープ 1、2、及び 3の排出量の測定実績について尋ねました。また、日本では、賃貸ビルオーナーに対し、電力の再生可能エネルギー化を働きかけています。

## グリーン・サプライヤーとの協働

新たな取引関係を結んだり、オフィスの設備改良を行ったりする際には、その決定が環境に与える影響を考慮します。日本ではサプライヤー選定時にサステナビリティ調査を実施しています。サステナビリティ調査の結果をサプライヤー選定プロセスに組み込む仕組みを構築し、環境への取り組みを推進しているサプライヤーを優先的に選定しています。

## オフィス家具及び備品

当社のオフィス家具は、商業用家具のライフサイクル全体にわたる持続可能性を促進する[BIFMAのLEVEL認証システム](#)を満たしています。米国では、持続可能性を意識して設計されたオフィスチェアを使用しています。米国の標準的なオフィスチェアは、海洋に浮遊するプラスチックを再生し、オフィスチェアの一部に転用する取り組みの一環です。これらのオフィスチェアは、特定のリサイクル施設で最大 91%の リサイクルが可能で、[ANSI/BIFMA e3 Furniture Sustainability Standard](#)の要件を満たしています。アフラック（日本法人）では、環境に優しいオフィス家具や事務用品を使用する方針をとっています。例えば、環境に配慮した事務用品の導入をサプライヤーに求めたり、新しいオフィス家具を導入する際にはカーボン・オフセット製品\*を使用したりしています。

\* サプライヤーが製品の製造・輸送・廃棄等の製品ライフサイクルを通じてCO<sub>2</sub>排出量を計算し、算出されたCO<sub>2</sub>排出量に相当するカーボン・オフセットクレジットとともに販売する商品のこと



アフラック（米国法人）のシニア・スペース・プランナー、レリサ・ウィリアムズは、サステナビリティを考慮してデザインされたオフィスチェアに座って、The Aflac Wayを実践しています。

## スコープ 1、スコープ 2、スコープ 3 の温室効果ガス排出量

当社の温室効果ガス排出量には、米国と日本にあるすべての自社保有施設から発生するすべての直接（スコープ1）及び間接（スコープ2）の排出量と、8つのカテゴリーの間接（スコープ3）の排出量が含まれています。当社は、2022年のスコープ1、スコープ2、及びスコープ3の8つのカテゴリーの排出量について、第三者機関による検証と限定的保証を取得しました。独立監査人によるレビューレポート及びアフラック・インコーポレーテッドの温室効果ガス排出量に関する声明は、巻末の付録及び当社ウェブサイト（[こちら](#)）からご覧いただけます。

以下の表は、2022年スコープ1及び2の温室効果ガス排出量に関する情報です。

### スコープ 1 及び 2 の排出量 (t-CO<sub>2</sub>e)<sup>\*1</sup>

スコープ 1 <sup>*2</sup>	2,633
スコープ 2 (マーケットベース)	0
スコープ 2 (ロケーションベース)	8,394
スコープ 1 とスコープ 2 (マーケットベース) の合計	2,633
償却済みカーボン・オフセット	2,633

\*1 CO<sub>2</sub>換算トン

\*2 バイオ燃料の使用による直接排出量 104 t-CO<sub>2</sub>e を除きます。

以下の表は、スコープ 3 のうち関連性を考慮した各カテゴリー及び第三者保証の有無を示しています。

カテゴリー	カテゴリーとの関連性	第三者保証	CO <sub>2</sub> 排出量 (t-CO <sub>2</sub> e)
1. 購入した製品・サービス	購入した製品やサービスに関連する排出量	はい	200,815
2. 資本財	購入した資本財に関連する排出量	はい	2,812
3. スコープ 1 または 2 に含まれない燃料及びエネルギー活動 <sup>*3</sup>	購入した電力の生産と配電に関連する排出量	はい	3,687
4. 輸送・配送 (上流)	輸送・配送に伴う排出量	はい	8,268
5. 事業から出る廃棄物	事業所内で発生する廃棄物の処理・処分に伴う排出量	はい	159
6. 出張	業務に関連する活動のための移動から生じる排出量	はい	7,908
7. 役職員の通勤	役職員の通勤やリモートワークによって生じる排出量	はい	2,915
8. リース資産 (上流)	資産のリースに伴い生じる排出量	はい	7,642
15. 投資	温室効果ガス排出を伴う金融投資による排出量	いいえ	ファイナンスド・エミッション手法を試験運用中
		合計	234,205

\*3 バイオ燃料の使用によるカテゴリー 3 の 77 t-CO<sub>2</sub>e 排出量を除きます。

上表は、排出量があるすべてのスコープ3のカテゴリーを含み、排出量がゼロのカテゴリーは除外しています。排出量がゼロのカテゴリーは、輸送・配送 (下流) (カテゴリー9)、販売した製品の加工 (カテゴリー10)、販売した製品の使用 (カテゴリー11)、販売した製品の廃棄 (カテゴリー12)、リース資産 (下流) (カテゴリー13)、フランチャイズ (カテゴリー14) です。

当社は2022年より、輸送・配送に関わるすべての排出量をカテゴリー4 (輸送・配送 (上流)) に含めています。

## 未来へのコミットメント

私たちは大きな進歩を遂げましたが、環境への影響を軽減するためにやるべきことは山積しています。アフラックは、エネルギー消費、水使用、廃棄物の削減に引き続き注力し、温室効果ガス排出量の削減に役立つ新しい技術や方法に投資し、より多くの再生可能エネルギーを採用することを通じて、当社の施設をより持続可能なものにしていきます。

アフラック・インコーポレーテッドのTCFDレポートと最新の気候変動に関するCDPへの提出資料の詳細については、[こちら](#)をご覧ください。

# 人財

私たちは、正しい行いはビジネスのためになると認識しています。そして日々それを実践できているのは、アフラック・ファミリーへ投資しているからです。当社では、日米ともに、従業員が高い帰属意識を持つ企業文化の醸成に努めています。具体的には、従業員のキャリア開発を支援し、ワーク・ライフ・バランスを重視しながら従業員の声や考えに耳を傾け、その懸命な働きに心から感謝することを心掛けています。当社の包括的な人財理念は、「人財を大切にすれば、人財が効果的に業務を成し遂げる」というものです。

## 従業員の健康増進とワーク・ライフ・バランス

当社の従業員は、何ごとにおいても当社の中心にあります。アフラックは、従業員が心身ともに健康でいられることはもちろん、プロフェSSIONALとして、また一個人として活躍できるような、安全かつ健康的な環境づくりに努めています。従業員の健康増進は、単独のプログラムや取り組みではなく、パーパスによって牽引され、当社の価値観や従業員の日常の中に織り込まれています。当社は、従業員から始まり、組織、家族、そしてより大きなコミュニティに至るまで、組織全体でその健康、幸福及び安全を第一に考えています。



アフラック（米国法人）では、健康増進を身体、感情、社会、精神、経済の5つの次元からとらえ、包括的にアプローチすることを信条としています。これらの次元はそれぞれ異なる性質のものですが、これら5つのすべてが、従業員の幸福全体の鍵を握っています。当社の目標は、従業員の健康増進に関する5つの次元をすべてカバーするリソース、サービス、ツールを従業員に提供することです。これには、以下のものが含まれています。

- 従業員の健康手当、進行中のイベント、健康生活のヒントなど、健康と幸福に役立つ最新の出来事をすべて網羅した、日次、月次、週次のコミュニケーション

- 社内のAflac HubやMy Aflac Experience Facebookページを活用することによりウェルネスの取り組みを共有して、アフラック全従業員との交流や社会的な幸福を促進。組織全体でウェルネス・チャンピオンを任命し、従業員の関心を高め、情報を提供
- 健康の重要性を強調するための全社的なウェルネス・チャレンジや役員間での競争を実施
- 従業員が自身の健康状態を把握し、継続的に改善が必要な分野を把握するための、年2回の健康診断の実施
- 健康状態を把握し観察するための予防的な検診の提供
- 従業員が新鮮な空気を吸ってリフレッシュできるように、複数の当社施設（キャンパス）で利用できるウォーキング・トレイル活動
- 従業員がより身体的な活動に励む動機付けとなる健康増進活動やチャレンジ



- 当社施設内に設置された託児所
- 最も効果的で快適な職場環境づくりを支援する、スタンディング・デスクやチェアなど、人間工学に基づいた備品の提供
- 大半の従業員が利用できる施設内フィットネス・センターと、年間を通じて開催されるフィットネス教室。また、アフラック（米国法人）の全従業員に提供されるジム施設のエントリーレベルの無料メンバーシップ

- 「アフラック・ケア・クリニック」と称する、病気治療、ヘルス・コーチング、健康診断などを提供する、複数の従業員健康管理施設
- 従業員が全国どこにいても参加できる、ベネフィット・パートナーによるウェルネスの5つの側面すべてに対応する充実したウェルネスプログラムの提供
- 薬物乱用、家庭問題、夫婦間の問題、さらには経済的・法的問題など、生活におけるさまざまな問題に対処するための従業員支援プログラム



- 従業員のメンタル・精神的な健康をサポートするために、対面またはバーチャルで相談できる牧師
- 家計のやりくり、経済的な目標の達成、リスクへの備え、不測の事態や大学進学、退職などの将来のニーズに向けた貯蓄、そして経済的打撃への対処などを支援する、ファイナンシャル・コーチング
- 個人の家計への影響を軽減しながら、高等教育への進学資金を支援することを目的とした、従業員及び扶養家族も対象としたさまざまな奨学金制度や授業料支援プログラム



## アフラック・ケア・センター： レイチェル・ストラウスのセルフアドボカシーとサバイバーストーリー

アフラック従業員のレイチェル・ストラウス（左の写真、及び右の写真右側）は、3年間にわたって産婦人科の検査で異常と言われ続けていましたが、追加の生検を受けても特定の診断が得られませんでした。アフラック施設内には2つのクリニックがありますが、そのうちの1つ（アフラック・ケア・センター）を訪れた際、看護師のウェンディ・ウォールはレイチェルに、主治医に子宮頸部と子宮内膜のループ式電気円錐切除術（LEEP）を受けたいと伝えるよう強く勧めました。その結果、レイチェルは初めて「がん」と診断されました。それは誰もが聞きたくない、恐ろしい言葉です。「上皮内腺がん」の診断を受けたレイチェルは悲嘆に暮れましたが、手術で完全に取り除くことができるという前向きな見通しが示されました。2022年11月9日、まだ35歳で子供はなく未婚のレイチェルは、子宮摘出手術を受けました。それは彼女の人生を永遠に変えるものとなりました。レイチェルは助かったのです。彼女は、適切な治療してくれた医師チームと、彼女が「救い」と呼ぶご家族や友人達による大きなサポート体制に感謝しています。



「アフラックは最高の雇用主です。がん治療の過程を通じて私の人生にさまざまな影響を与えてくれました。“The Aflac way”は単なる言葉ではなく、従業員を本当に大切にしたいという思いのある会社であることを表しているのだと実感しました。全従業員に手厚く提供されるがん保険やアフラック・ケア・センターなど、従業員を大切にしたい会社で働けることにとても感謝しています。上司のオードリー・ティルマン、私の人生で最も困難な時期にずっとそばにいてくれてありがとうございます。私の状況を知っていた同僚の皆さん、絶え間ないサポートに感謝します。私の「命の恩人」、ウェンディ・ウォール、あなたがいなかったら私は今日ここにいなかったでしょう。あなたは私にセルフアドボカシー（自己の擁護者）になるよう背中を押してくれました。そのおかげで今こうして私のサバイバーストーリーをお話できることをとても嬉しく思います。私の両親テリーとジャック、二人がいなかったら私はこんなに早く回復することはできなかったでしょう。通院や入院の度に、ずっとサポートしてくれたことは決して忘れません。医師と看護師チームの皆さんが、治療期間を通して提供してくれたケアと安心は何物にも代えがたいものでした。」— レイチェル・ストラウス

アフラックでは、健康な従業員が組織としての成功に不可欠な要素であることを誰もが理解しています。従業員の幸福に焦点を当てることは、事業価値の創造、生産性の向上、人財の確保など、良い結果をもたらします。極めて効率的で士気の高い職場づくりを目指している当社にとっては、健康増進に向けたコミットメントは、多くの取り組みの一つに過ぎません。例えば、アフラック（日本法人）は、2022年3月より、健康経営の取り組みをさらに進化させ、実効性を高めていくために、創業50周年を迎える2024年に向けて、「健康経営2024」に取り組んでいます。2万社以上の企業の健康データを分析して従業員の健康上の課題や強化領域を特定し、従業員の健康維持・増進につながる施策として、以下を含む多くのツールとリソースを提供しています。

- **目標の設定**：運動・メンタルヘルス・食事・飲酒・禁煙の5つのテーマから個人目標を設定し、セミナー等のサポートプログラムを活用しながら100日間の継続にチャレンジする「まいにち健康チャレンジ」を実施し、従業員の56%が参加しました。アフラック（日本法人）は2028年までに喫煙率0%を目指す「アフラックの喫煙率ゼロ宣言」を行いました。
- **運動の推進**：運動不足解消やチームのコミュニケーション活性化のために、目標歩数を目指して歩き、スマートフォンアプリ上で歩数を共有する「ウォーキングキャンペーン」を実施し、従業員の67%が参加しました。
- **従業員の支援**：病気やけがをした従業員が、治療に専念・両立しながら安心して働くことを支援するための「がん・傷病就労支援プログラム」を、すべての従業員に提供しています。

アフラック（日本法人）の従業員の健康増進への取り組みは外部からも高く評価されています。2023年には日本の経済産業省から「健康経営優良法人」に6年連続で認定されています。この認定は、従業員の健康管理・働き方改革への戦略的な取り組み、そして職場環境の整備において優れた取り組みを行っている企業に与えられるものです。



アフラック（日本法人）は、職場内で保育園を運営するとともに、産前、産後休暇・育児休職中、復職後の仕事と子育ての両立など、子育てのステージごとに必要なサポートを行っています。

## アフラック（日本法人） All Ribbons



アフラック（日本法人）では、2017年、がんを罹患中または経験した有志の従業員による社内のピアサポート・コミュニティ「All Ribbons」を設立しました。この名前には、さまざまながんの経験を持つ仲間を支えたいという社員の想いが込められています。All Ribbonsのメンバーは、治療中・治療後の期間を互いに支えあい、がん治療と仕事の両立に悩む社員の支えになっています。メンバーは、工夫や知見を含む、それぞれの経験を共有しています。また、「All Ribbons」は、従業員向けの相談サービスを提供するほか、がんに関する情報を提供するパネルディスカッションや社員対話型イベント「All Ribbons Cafe」を開催しています。

## 従業員への感謝

従業員を大切にするという基本理念を中心に、アフラックはエンゲージメントと感謝を大切にしています。当社では、従業員を祝福するさまざまなイベントや活動を、年間を通じて実施しています。例えばThe Aflac Way従業員表彰プログラムでは、「The Aflac Way」の7つの約束を守り、さらにそれ以上の成果を上げた同僚や上司を誰でもノミネートすることができます。ノミネートされるとポイントが付与されるシステムになっており、従業員は表彰を受けるだけでなく、集まったポイントを特別な賞品と交換できます。

Employee Appreciation Week（全従業員に感謝する週、通称E.A.Week）は、アフラックにとって最も大切な財産である従業員を称えるために、毎年当社が1週間にわたり開催している伝統行事で、毎日行われる賞品抽選会や、ゲーム、エンターテインメント、スナックを用意し、地域貢献活動など、さまざまな催しが行われます。E.A.Weekは、米国ではFounders Weekに続いて5月の第1週に、日本ではアフラック（日本法人）の創業記念日に合わせて毎年11月に開催されています。E.A.Weekでは、アフラックが日々従業員にどれほど感謝しているかを伝えられるよう、趣向が凝らされています。



上: 1週間にわたるE.A.Weekのイベントで従業員に挨拶するアフラック（米国法人）社長のバージル・ミラー。下: イベント盛りだくさんの1週間には、E.A.Weekボランティアが参加します。



上: アフラック（日本法人）の従業員と家族は、家族職場見学会等の社内イベントを通して、楽しみながら日本のE.A.Weekを祝っています。

## 従業員のエンゲージメント

従業員を称えることは大切ですが、エンゲージメントを向上させるための方策は、これにとどまりません。アフラックは、従業員が大切にされ、意見を聞いてもらえると感じられる環境づくりに努めています。そのために、従業員のエンゲージメントの強化を図ることが重要だと考え、従業員エンゲージメントサーベイを定期的実施し、改善すべき点を洗い出しています。

アフラック（米国法人）では2023年春に最新の調査を実施し、このアンケートからのフィードバックを活用して、従業員の要望やニーズに基づいて組織の変更や強化を行ってきました。



アフラックは、定期的なイベントや対話型の会議を通じて従業員のエンゲージメントを高めています。上 左から右へ：シニア・バイス・プレジデント兼チーフ・HR・オフィサーのジェリ・ホーソン、シニア・バイス・プレジデント兼チーフ・インフォメーション・オフィサーのシェリア・アンダーソン、アフラック（米国法人）シニア・バイス・プレジデント兼チーフ・フィナンシャル・オフィサーのフレッド・シマード、アフラック（米国法人）社長のバージル・ミラーが年次の全社会議である「State of the Company meeting」でリーダー達に語りかけています。



上 左から右へ：エグゼクティブ・バイス・プレジデント兼グローバル・チーフ・インベストメント・オフィサーのブラッド・ディスリン、エグゼクティブ・バイス・プレジデント兼チーフ・フィナンシャル・オフィサーのマックス・ブローデン、そしてシニア・バイス・プレジデント兼チーフ・アカウントティング・オフィサーのロビン・ブラックモンが、全社会議「State of the Company meeting」のパネルディスカッションに参加しました。

## 主要ハイライト：アフラック（米国法人）従業員エンゲージメントサーベイ

2023年の  
総合エンゲージメント・スコア

83%

▲外部ベンチマークを  
8ポイント上回る

参加率

73%

アフラックの一員であることを  
誇りに思う従業員

88%

アフラックは仕事を全うする上で  
必要なトレーニング、環境、  
ツール等を整えてくれていると  
考える従業員

80%

アフラックが雇用主であることに  
満足している従業員

88%

他社への転職を  
ほとんど考えていない従業員

70%

アフラックが倫理的な事業活動への  
経営判断と行動を示していると  
考える従業員

87%

アフラックのマネジメントは  
効果的であるとする従業員

84%

アフラック（日本法人）は全社で従業員エンゲージメントの向上に取り組んでおり、2023年に実施した調査では、人財エンゲージメントスコアは65%となり、日本国内の平均値59%を大きく上回る結果になりました。アフラック（日本法人）は、従業員のエンゲージメントを高めるためにさまざまな取り組みを実施しています。

アフラックは、従業員の並外れた努力を称えるためのツールを職場のリーダーたちに提供しています。エンゲージメントの向上を目的とする活動には、このほか、米国と日本のダイバーシティ・カウンシルや当社が事業を展開している地域社会でのボランティア活動、また従業員の支援には特定の宗教宗派によらない信仰指導者や従業員エキスパートの専門家チームなどによるサポートが挙げられます。

## 人財開発

アフラックでは、誰もが人的資本こそが最大の競争力であると認識しています。従業員の能力開発に力を入れており、全従業員のスキルアップと能力開発を推進するためのプログラムや支援が提供されています。2023年、アフラック（米国法人）は引き続き人財の未来に焦点を当てることに注力し、これらのテーマに関する60以上のプランニングセッションを実施することで、サクセッションプランと人財評価調整のプロセスを精緻化しました。特にリーダー・ラーニング・ラボ、継続的リーダーシップ開発プログラム、及び基礎的新リーダー・トレーニングといったリーダー向けの新しいプログラムを導入することにより、リーダー育成の機会を増やしました。従業員に対しては、最新のソフト・スキルを得るのに役立つエッセンシャル・スキル・トレーニング・プログラムを導入しました。またアフラック（日本法人）では、「多様な人財が自律的に働き、最大限に力を発揮する」を理念とした人財マネジメント制度を導入しています。



社員の自律的なキャリア形成を支援するために、社員はキャリア開発計画書をもとに上司と対話（1on1）し、社員一人ひとりが目指すキャリアや能力のギャップを明確化し、具体的な能力開発のための取り組みを進めています。例えば、チャレンジングなアサインメントなどのやりがいのある仕事の提供、全管理職を対象にした「アフラック版人財マネジメントのスキルマップ」に基づく人財マネジメント力のアップスキリングの実施、職種を問わず、全社員に共通して求められるスキル・能力を学ぶことができるプログラムやマイクロラーニングなど、さまざまな仕組みやトレーニングを整えています。また、リーダーシップ・パイプラインを継続して強化するために、選抜型の人財育成プログラムも展開しています。2023年は代表取締役社長と統括担当役員自らが講師を務める「アフラック・リーダーズ・スクール」を実施しました。

## キャリア・サクセス・センター

アフラック（米国法人）では、キャリア・サクセス・センターを通じて、全米の従業員に一連のキャリア支援及び能力開発サービスを提供しています。従業員はキャリア・コンサルタントと面談し、メンタリング、コーチング、履歴書作成、模擬面接、キャリア相談、試験監督、人財評価などについての指導を受けることができます。さらに、キャリア・サクセス・センターは、ネットワーキングの機会、ジョブ・シャドーイング、潜在的な育成資源に関するディスカッションを促進し、従業員のキャリア成長と開発を支援しています。

## メンタリング

従業員が「知っていることを教え、知らないことを学ぶ」機会を提供するのが、アフラックのメンタリング・プログラム「TEACH」です。そのミッションは、自己啓発を追求するよう従業員のエンゲージメントを高め、鼓舞し、エンパワーすること、同時に成長や進歩を促すために他者の有用なスキルや経験に触れる機会を提供することにあります。TEACHのメンターは、組織横断的なリーダー達で、6カ月間の従業員メンタリング・プログラムにボランティアで参加します。プログラムのメンターとメンティーは、キャリアの整合性と能力開発上の課題に基づいてマッチングされます。このプログラムは、さまざまな体系的な活動を提供するものですが、正式なプログラムの終了後も、双方の協力関係が続くことが期待されています。



## 日本の Work SMART

アフラック（日本法人）は、「アフラックWork SMART」という働き方改革の取り組みを推進しています。この取り組みは、社員一人ひとりが仕事の進め方を見直すとともに、「時間」と「場所」とらわれない働き方の実現に向けた制度・インフラの整備を通して社員のワーク・ライフ・マネジメントを支援し、組織としてのパフォーマンスを最大化させることを目指しています。

### 「時間」とらわれない働き方

アフラック（日本法人）は、シフト勤務、フレックスタイム制度、時間単位の年次有給休暇を活用することにより、すべての従業員が柔軟な働き方をできるようにしています。育児や介護をしている従業員のために、短時間勤務制度とシフト勤務を組み合わせることで、12通りの選択肢から勤務時間を選択できます。

### 「場所」とらわれない働き方

アフラック（日本法人）は、すべての従業員が在宅勤務を行えるよう、システムや環境を整えています。例えば、全社員にノートPCに加えタブレット端末やスマートフォンを配布することで、社外から社内システムへのアクセスを容易にし、Web会議システムを活用しながらオフィスにいるのと同じように働くことができる環境を整えています。

アフラック（日本法人）はリモートとオフィス、それぞれの価値を理解し、組織成果を最大化するため『「部門型人財マネジメントにおける戦略的ハイブリッドワーク」のプリンシプル』を定め、オフィスとリモートワークのベストバランスを追求したハイブリッドな働き方を実現しています。

アフラック（日本法人）は、社員がワーク・ライフ・マネジメントを実現できる環境づくりに努めており、また現在も進化し続けています。2023年のハイライトは、以下のようなものです。

- 対象となる従業員の100%が育児休職を取得しました。
- より柔軟な働き方の推進により、従業員はプライベートと仕事の時間をより効果的に両立できるようになりました。例えば、育児のために時短勤務を選択する社員数は、2015年以降27.9%減少しました。（2015年=53.4%、2022年=25.5%）

2022年以降、「アフラックWork SMART」は、効率性から、効率性を維持しながら新しい価値を創造すること（「Work SMART2.0」）に重点を移し、人財エンゲージメントのさらなる強化を図っています。

## アフラック Work SMART の頭文字は、以下の内容を表しています

S

視野を広く持つ

M

目的を考える

A

自分から動く

R

対話を重ねる

T

時間を意識する

## 従業員の多様性

アフラックの文化は、他者を思いやり、全従業員の帰属意識を育むことに根ざしています。2001年、会長兼社長兼最高経営責任者であるダン・エイモスは、アフラック初となるダイバーシティ・カウンシルの設立を主導しました。当社のダイバーシティへの決意は脈々と続いており、現在、従業員が主導するカウンシルがグローバルで9つ運営されています。これらのダイバーシティ・カウンシルには、さまざまな階層の従業員が参加しており、定期的集まってアフラック・ファミリーをより強くしていくための活動や取り組みについて話し合います。このカウンシルは、従業員がコミュニケーションを取り合い、互いの違いを尊重し合う場になることを目的としています。

従業員は当社の根幹をなすもので、当社は、その多様な経歴、経験、そして考え方から、大きな恩恵を受けています。ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン(DE&I)は、一貫してアフラックの企業文化における重要なテーマであり、その人財戦略にとって欠くことのできない要素です。

帰属意識の醸成、組織のあらゆるレベルでのダイバーシティ&インクルージョン、充実した職場の提供、ひいては従業員、地域社会、お客様のサポートといったアフラックの文化を持続させることに尽力しています。

2023年、このレガシーを継続・維持するために、アフラック(米国法人)はDE&I戦略を磨きあげ、「認知」「地域社会」「人財」「説明責任」の4つの柱に焦点を当てた活動を行いました。



アフラックの従業員は、日々ダイバーシティを重要視することに加え、食事や音楽、交流を通じてダイバーシティを祝うイベントであるダイバーシティ・デーも楽しんでいます。

## 認知

アフラックでは、尊敬に満ちた、インクルーシブで多様な人財を育成し続けるダイバーシティプログラムの作成に努めています。アフラック・ダイバーシティ・カウンシルは、DE&Iイニシアチブをサポートするエンゲージメントと教育の機会を提供し、このビジョンを地域社会やお客様に広げるための重要な役割を担っています。2023年、これらのカウ

シルは、ダイバーシティ&インクルージョンに焦点を当てた10以上の研修やイベントを企画または開催し、3,000人以上の参加者を集めました。2023年、私たちは、インクルーシブなチームを育成する方法、人種や世代の多様性といった難しいトピックで会話をする方法などの学習を全従業員とリーダーに向けて拡大し、DE&Iの能力と影響力を向上させました。また、インポスター症候群(詐欺師症候群)やパーソナル・ブランディングの向上といったテーマについて、思慮にあふれた講演者の話を聞き、認識を高めました。



## 地域社会

地域社会への支援は、これまでと変わらず優先事項です。地域社会には、有色人種、低所得者層、退役軍人を含む多様な住民の間に格差が存在しますが、今年は寄付総額の55%以上を、こうした問題の対処に充当し、地域社会にポジティブな影響をもたらしました。



アフラックはニューヨークのPRIDEパレードに企業として初めて参加し、LGBTQ+コミュニティの従業員へのサポートを継続しました。

私たちは長年にわたり、地域における学校組織のパートナーとして活動してきましたが、2023年、「教育パートナー」としての協力関係を発展させ、コロンバスの、社会から取り残された地域の小学校も対象に加えました。また、私たちは21世紀リーダーズとのパートナーシップを開始しました。21世紀リーダーズは、ジョージア州全域の学生を対象に活動している組織で、特にジョージア州コロンバス地域において慢性的な資金不足に陥っている2つの高校に協力することが可能になりました。

2023年、アフラック・グローバル・インベストメンツは、手頃な価格の住宅、地域社会、教育、社会インフラ、及び多様なゼネラル・パートナーが運営するファンドや社会的なインパクト・ファンドへのコミットメントに9,600万ドル以上の資金を配分しました。



経営のトップから組織全体にわたり、私たちは数十年にわたってそうしてきたように、多様でインクルーシブな人財の育成に取り組んでいます。上と下の写真のように、リーダー達は毎年開催される全社会議「State of the Company meeting」に集まり、交流を図っています。



2023年、アフラック（日本法人）の取締役専務執行役員兼チーフ・フィナンシャル・オフィサーのスティーブ・ビーバーが営業社員に向けて講演しました。

## 人財

当社は、多様な候補者に対する人財パイプラインを強化するために、パートナーシップを構築し、育むことに重きを置いています。2022年、アフラックは、今後5年間で、技術職に進む黒人を1,000人誕生させることを目的としたBridge Builders-Technology Association of Georgiaへの支援を継続しました。歴史的黒人大学（Historically Black Colleges and Universities' :HBCUs'）との連携を拡大し、サクセッションプランニングのプロセスを強化することで、多様な人財の育成に関する組織の可視性と透明性を向上させました。特に黒人や女性の人財を増やすことを目指し、多様な人財開発プログラムを拡充しました。2023年、アフラックはアラバマ州立大学の学生10名を支援し、メリーランド州で開催されるHBCUマーケットプレイスイベントで、当社の複数部署と交流する機会を設けました。アフラックは、インターンシップ、産学協同教育プログラム、実習といったプログラムを通じて、多様な候補者が実地での経験を通じて組織に関する幅広い知識を得ることを目標としています。Work180、Girls Who Code、Hiring our Heroes、Skillbridgeとのパートナーシップにより、多様な人財パイプラインを継続的に確保しています。

## 説明責任

2021年、アフラックは従業員（リーダーシップ）へのインクルージョンの説明責任目標を掲げ、その後も上級管理職の多様性向上に引き続き取り組みました。私たちの目標は、2026年までに上級管理職の全体的な多様性を5%高めることです。2022年には4%増加し目標に近づきました。2023年には上級管理職全体の多様性を2%増加させるという目標を上回りました。また、当社のインクルーシブな取り組みにおける結束力を確保するため、さまざまなインクルージョン活動に取り組むリーダー達による「DEIアクセラレーション・チーム」を発足しました。

経営トップから組織全体にわたり、私たちは数十年にわたってそうしてきたように、多様でインクルーシブな従業員の育成に取り組んでいます。多様性を促進することは、取るべき正しいアプローチであるだけでなく、ビジネスとしても理にかなったものです。私たちの目標を達成し、私たちが存在する地域社会に貢献するには、さまざまな視点を持った人々に囲まれていなければなりません。



## 従業員は、当社が事業展開している地域社会を映し出す

アフラックは、事業を展開する地域社会にも配慮し、地域社会の多様性を反映するよう、また、それを積極的に自社のあり方に映し出していくよう努めています。当社の成功は、多くの場合、他の人が見ていないところで各人が日々何をしているかによって定義されます。それは、すべての人々に対して私たちがどのように接するかということであり、また、私たちがすべての人々にもたらす機会のことです。つまり、いかに多様性を受け入れ、対話とインクルージョンを促すかということなのです。私たちは、さらなる向上を図り、変化を生み出し続けることを約束します。

アフラックでは、単にダイバーシティについて語るだけでなく、エクイティ&インクルージョンを育むための行動にもコミットしています。これは、従業員の構成、給与ポリシーなどの公平性、そして一人ひとりが歓迎され、大切にされていると感じられる職場づくりに反映されています。私たちがより強い会社を築いていることに疑いはありませんが、もっとできることがあると肝に銘じています。それでも、私たちには、正しい道を歩んでいるという確信があります。

当社の企業文化は、会社のあらゆるレベルにおいてダイバーシティ&インクルージョンを推進するというコミットメントを反映しています。以下は、2023年末時点の状況を示したものです。

### アフラック（日本法人）

アフラック（日本法人）では、2025年までにライン長ポストに占める女性の割合をさらに高めることを目標としています。

女性従業員の割合

54%

指導的立場にある女性の割合

33%

ライン長ポストに占める女性の割合\*

27%

### アフラック（米国法人）

アフラック（米国法人）では、2026年までに上級管理職の多様性を5%向上させることを目標としています。

女性従業員の割合

66%

指導的立場にある女性の割合

51%

上級管理職における女性の割合

37%

有色人種の従業員の割合

49%

指導的立場にある有色人種の割合

31%

上級管理職における有色人種の割合

23%

### 取締役

女性及び有色人種の割合

64%

\* アフラック生命保険株式会社におけるライン長ポストに占める女性の割合を対象としており、子会社は含みません。

## 米国の従業員の新規採用

68%

女性

57%

有色人種

ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョンは、米国で義務付けられているEEO-1報告にとどまらないことを認識しています。とはいえ、多くの投資家の皆様がこのデータについて知りたいと思われることも承知しており、アフラック・インコーポレーテッドでは、透明性を高めるため、アフラック（米国法人）の最新のEEO-1レポートを[こちら](#)に掲載しています。



- ・ 給与データはアフラック（米国法人）の全従業員から収集したものであり、グローバルな情報は含まれていません。

アフラック（米国法人）のEEO-1レポートについての詳細については、[こちら](#)をご覧ください。

## 公平な報酬

アフラックは、グローバルな給与の公平性に取り組んでおり、性別や年齢、人種・民族に関係なく公平な給与を確保するため、継続的な分析を行っています。今後も、給与の公平性に関する評価を継続し、そこで明らかになった格差を縮めていきます。給与の公平性は、性別や人種・民族が異なる従業員が、同一または類似の職務に就いている場合、勤務地や職位在任期間、在職期間、学歴、経験など、給与の違いを説明する正当な事業上の要素を考慮した、平均的な給与格差と定義されます。

- ・ 2023年には、アフラック（米国法人）で男女両方が担う370の職種が見直され、3,561人の従業員がこの対象となりました。これらの役職における給与比率（男性に対する女性の報酬）は99.5%でした。



アフラック（日本法人）は、管理職を対象に刷新した人財マネジメント制度を、2022年からは一般社員にも対象を拡大して適用しました。新制度の下では、それぞれのポジションの職責に応じて、職務ごとに特定のグレード（職務等級）が与えられます。性別、年齢、人種などがグレードを決定する要因になることはなく、あらゆる職務に対してすべての従業員が公平な機会を与えられます。

アフラック（日本法人）は、高い目標へのチャレンジや成長への貢献意欲を刺激するために、会社への貢献に報いる「トータルリワード」の考え方で報酬を設計しています。"職務"と"成果"に報いる報酬体系をベースに、職務記述書で明文化された職務の内容・大きさをもとに決定するグレードごとに、日系大手企業をベンチマークに競争力のある水準を実現しています。基本給や賞与だけでなく、一定以上のグレードの社員には中長期インセンティブも付与し、職務や成果・業績に報いる仕組みとしています。アフラック（日本法人）の人財マネジメント制度は、短中長期的な視点で会社への貢献に報いる仕組みとなっています。

アフラック（日本法人）の代表取締役社長を委員長として、各部門を統括する統括担当役員により構成される人財マネジメント政策委員会は、人財マネジメント制度が公平・公正に運営されているかどうかを毎年モニタリングし、グレードや報酬水準の一貫性、適切性について評価します。

## 日本における人的資本の情報開示

アフラック（日本法人）は、統合報告書や「人的資本データブック」などの公開を通じて人的資本に関する情報を積極的に開示しています。この透明性を高める取り組みが評価され、2023年に日本の金融機関として初めて、人的資本関連情報の定量化・分析・開示に関してトップクラスの実践レベルであることを認定するISO30414を取得しました。



アフラック（日本法人）は、各種イベントへの参加や講演を通じて、ダイバーシティ&インクルージョン推進の重要性を社内外に発信しています。写真は、左から右へ、アフラック・インコーポレーテッドのシニア・アドバイザー ジューン・ハワード、アフラック・インコーポレーテッド社外取締役メンバーの細田満和子博士、ジョーゼット・カイザー、キャロル・ロイド、バーバラ・ライマー博士、キャシー・ローラー博士が、2023年11月、Aflac Global Diversity & Inclusion Symposium 2023のパネルディスカッションで登壇している様子です。

## インクルーシブな人財の育成

アフラック（日本法人）は、「女性活躍推進プログラム」を通じて、2020年末までに指導的立場（課長代理以上）にある女性の割合を30%にするという目標を、計画より1年前倒しで達成し、さらなる進展を見せています。アフラック（日本法人）は、この目標の水準を引き上げ、2025年末までに、ライン長ポストに占める女性割合を30%以上とする新しい目標を掲げ、2023年末の目標としていた26.5%を予定通りに達成しました。

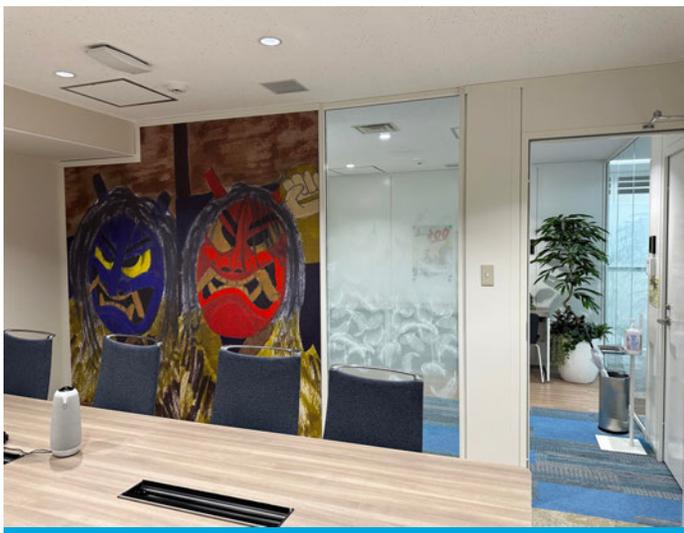
アフラック（米国法人）では、女性が成長し、キャリアを形成するためのさまざまな制度が用意されています。高い潜在能力を持つシニア・レベルの女性リーダーが選抜され、特定の分野、または一般的なリーダーシップの分野において権威ある開発プログラムに参加しています。これとともに、特定の機能分野では、より深く、女性リーダーのパイプライン構築を目的とした開発プログラムも設けられています。



左上: アフラックの「Leading Ladies」イベントでは、アフラック（米国法人）の優秀な女性たちが、自らの視野と思考を広げ、成功の機会を生み出すことができる人物と人生で出会うことの価値について共有する機会が提供されています。写真左から、企業法務顧問ランディ・アドキンス・ウォーレン、CSCオペレーション担当シニアマネージャーのヤミナ・ミッチェル、トランスフォーメーション&イノベーション担当バイス・プレジデントのケイティ・ウェブ、米国戦略実行ディレクターのアリーシャ・ワトソン。

右上: 2023年11月、アフラック・アセット・マネジメントの子会社であるアフラック・アセット・マネジメント株式会社が日本で主催したラウンドテーブル・ディスカッションに、米国及び日本から多数のアフラックの女性が参加しました。前列左から: シニア・バイス・プレジデント兼チーフ・アカウントティング・オフィサーのロビン・ブラックモン、シニア・アドバイザーのジューン・ハワード、シニア・バイス・プレジデント兼グローバル・チーフ・アクチュアリーのアリシア・スリック。2列目左から: イイ・セン、梶 由紀子、本田 弘子、池口 真衣、アディラ・ベガム、藤原 恵里香、福田 理恵、松本 和子、キャシー・ワン。

また、アフラック（日本法人）は、障がい者の雇用を推進する特例子会社であるアフラック・ハートフル・サービス株式会社を2009年に設立し、2024年に創立15周年を迎えます。アフラック・ハートフル・サービスは、ここで働く障がい者に必要な職場環境を整え、専門的な知識を有するスーパーバイザーを置くことで、障がいがあっても安定的に就労することができます。アフラック（日本法人）グループのオフィスサポート業務を始めとし、近年ではノベルティグッズのデザインやオフィス装飾としての絵画の制作など多様な感性をいかしたアート事業も展開しています。一人ひとりが得意なことを仕事にいかし、皆いきいきと働いています。



「なまはげが来た」アーティスト：M

アフラック（日本法人）では、2019年からダイバーシティ&インクルージョンの取り組みのひとつとして、特例子会社であるアフラック・ハートフル・サービスで働く障がいのある社員が描いた色鮮やかなアート作品をオフィスに展示しています。アート展示は徐々に広がり、2023年は、オフィスを利用する多くの方にその作品をご覧いただけるよう、全国にある営業拠点のお客様対応エリアの内装に、アートを活用しています。このアートは、障がいのある社員が営業拠点のある地域の文化や伝統、歴史的建造物をモチーフに描いたものです。多様性をいかし、多彩な価値観の共創により、地域社会に貢献していきたいという想いを込めたこの取り組みは、全国各地でさまざまなアートを生み出しています。



「光（中尊寺金色堂）」アーティスト：Yuichiro.T

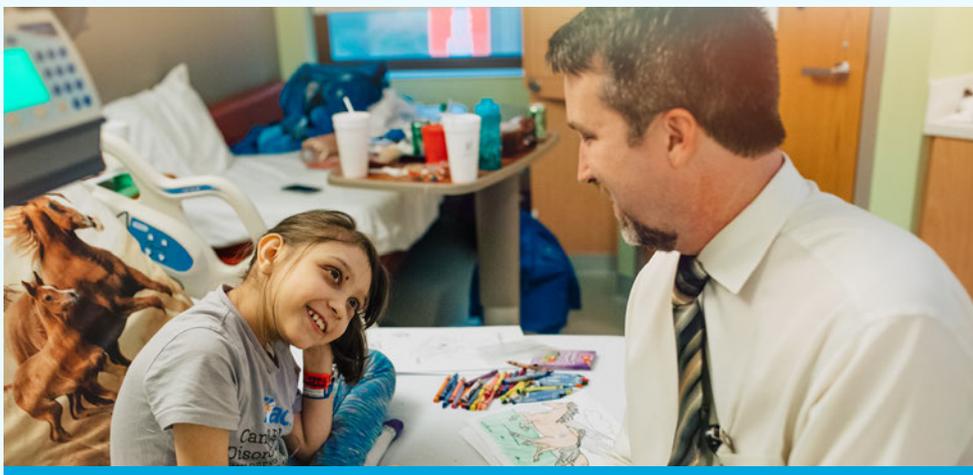
また、障がいの有無にかかわらず、小児がん経験者の就労支援もおこなっています。これらの雇用の促進や雇用の安定に関する取り組みにより、厚生労働省が主管する「障がい者雇用に関する優良な中小事業主に対する認定制度」において、優良中小事業主として認定されています。2023年12月末時点で、アフラック・ハートフル・サービスに在籍する152名の従業員のうち、120名が障がい者手帳保持者で、5名が小児がん経験者です。アフラック・ハートフル・サービスは、従業員の個性を尊重し、多様性をいかし、無限の可能性を追求するとともに、一人ひとりの能力を結集し、社会に広く貢献するかけがえのない企業であることを目指しています。

# アフラックの 戦略的フィランソロピー

アフラックでは、パーパス（企業の存在意義）に沿ったパートナーシップを信条としており、健康や貧富の格差を解消するために活動している団体やコミュニティを支援しています。当社は、米国と日本における補完医療保険のバイオニアとして、また両国のリーディングカンパニーとして、がんと診断された人々が直面する困難を理解する努力を68年以上続けてきました。また、がんの診断が家族全体に影響を与えることも理解しています。そのような思いから、私たちの活動の多くは、がんと向き合う人々を支援することを目的としています。

企業として、チャリティー寄付、地域社会への投資、現金拠出、現物支給を含む慈善活動の61%以上を、がんや鎌状赤血球症を含む血液疾患に焦点を当てた慈善活動に充てています。

## アトランタ小児病院のアフラックがん・血液病センター



# 61%

アフラックの慈善活動のうち、  
がん及び血液疾患に  
焦点を当てた割合



写真:アトランタ小児病院のアフラックがん・血液病センター長兼ダニエル・P.エイモス小児委員長のダグラス・グラハム医学博士は、アシュリー・ヘルナンデスのような患者と交流し、世界レベルの治療を探求し続けています。

1995年の開設以降、アトランタ小児病院のアフラックがん・血液病センターは、小児がん、血液学、そして血液・骨髄移植に関して、全米で有数の医療機関として知られるようになりました。革新的な研究と最先端の治療法により、1965年に20%だった小児がんの5年生存率は、現在80%以上と劇的に向上しています。この価値ある活動は、アフラック財団、アフラック小児がん基金、アフラック役職員、そして販売部門を含むアフラック・ファミリーの全員がとても大切にしているもので、彼らからの惜しみない寄付金により、研究活動に必要な資金が絶えることなく供給されています。

現在、アフラックからアフラックがん・血液病センターへの寄付金の累計額は1億7,300万ドルを超えており、それがアフラックがん・血液病センターの研究の成功と際立った成果を生むことにつながり、同センターはU.S. News and World Report誌が発表した「全米小児がんトップ医療機関」の一つに選ばれています。

アフラックの取り組みは、小児がんの子どもたちだけでなく、鎌状赤血球症など、あまり知られておらず理解されていない希少な血液疾患の子どもたちにも、前向きな影響をもたらしています。



乳児のときに鎌状赤血球症と診断されたソーヤー（写真左）。双子の弟サクストン（母親の言葉を借りれば「お腹の中の仲間」）がソーヤーの治療薬となりました。3年にわたる研究と検査の後、ギロリー家の双子は、国内最大の鎌状赤血球症プログラムを擁するアトランタ小児病院のアフラックがん・血液病センターで骨髄移植を受けることができました。彼らは今日も元気に暮らしています！

アフラックは、小児医療における格差に関連して、鎌状赤血球症がもたらす課題に対処していますが、その中心的な拠点は、アトランタ小児病院のアフラックがん・血液病センターです。同センターでは、毎年約2,000人の小児患者が治療を受け、恒常的に血液・骨髄移植（BMT）が行われており、全米で最も多くの鎌状赤血球症治療を行う医療機関となっています。2022年の公衆衛生情報システムデータでは、鎌状赤血球症の総患者数は2,000人超と、全米1位にランクされました。



がんや鎌状赤血球症の治療を受けている子どもたちに安らぎを感じてもらうため、受賞歴のあるMy Special Aflac Duckがアフラックのヒスパニック・ヘリテージ月間のイベントの一つとして、テキサス州エルパソに登場しました。My Special Aflac Duckは、子どもたちとご家族に喜びと安らぎをもたらす大切な仲間です。2023年12月31日現在、27,000羽以上のMy Special Aflac Duckが、米国、日本、北アイルランドの子どもたちに贈られています。

## My Special Aflac Duck<sup>®</sup>

アフラック・インコーポレーテッドは、未来の世代のための正しい行いを大切にしています。それは、さまざまな形で浮かび上がりますが、最も鮮明に表れるのが、小児がんと闘う子どもたちやそのご家族への献身です。私たちは、子どもたちのがんとの闘いには、薬以上に大切なものがあることを知っています。それが形になったのが、米国、日本、北アイルランドでがん治療を受ける子どもたちの支援のために無償で贈呈しているMy Special Aflac Duckです。この活動は、子どもたちとご家族、そして未来のための一つの投資なのです。

小児がんの治療や研究への支援だけでなく、アフラックにはもっとやりたいことがありました。がんと闘う子どもたちが、実際に抱きしめることのできる何かを手にすることができれば、そして、それが子どもたちに喜びを与え、がんとの闘いの一助となれたら、どんなに素晴らしいことでしょう。アフラックは、この想いを実現するために、My Special Aflac Duckを世に送り出しました。My Special Aflac Duckは、がん治療の間、子どもたちの孤独感を和らげ心を和ませるために、双方向のコミュニケーション技術を使って作られた友達ロボットです。ウェブベースのアプリケーションにより、子どもたちは、自分たちの治療の様々をこのダックに体験させることができます。このダックが、診察ごっこや、生きているような動きと感情表現をすることで、つらいがん治療の中でも心が和むように、子どもたちに寄り添っています。My Special Aflac Duckは、最終的には子どもたちにその体験が自分一人のものではないことを自覚させ、治療計画を前向きに受け止めて家庭の内外でその計画を守るように促すとともに、いつでも、どこでも、誰にでも、治療に取り組むためのメカニズムを提供するものです。

米国では、毎年15,000人以上の子どもたちががんと診断されています。アフラックでは、米国で新たにがんや鎌状赤血球症などの血液疾患

と診断される3歳以上の子どもたち一人ひとりに、無償でMy Special Aflac Duckを贈ることを目標に掲げています。アフラック小児がんキャンペーンやアフラックがん・血液病センター、そして今ではMy Special Aflac Duckを通じて、当社はがんと向き合う子どもたちを支え、彼らが希望と時間、そしてさまざまなリソースを手に入れられるよう、その使命を果たしていきます。

米国では、アフラックが2018年から450の病院や団体に25,000人以上の子どもたち（2023年12月現在）にMy Special Aflac Duckを寄贈しています。日本では、アフラック（日本法人）が2019年から82の病院で1,600人以上（2023年12月現在）の子どもたちにMy Special Aflac Duckを寄贈しています。アフラックは、2023年までに、米国、日本、北アイルランドで合計27,000人以上の子どもたちにMy Special Aflac Duckを贈っています。

My Special Aflac Duckにも、新しい仲間ができました。2022年初頭、アフラック（米国法人）は、数々の受賞歴をもつMy Special Aflac Duckプログラムの対象を、鎌状赤血球症などの血液疾患を持つ子どもたちにも拡大しました。このダックには、鎌状赤血球症などの血液疾患を持つ子どもの治療に特化した新しいアクセサリとして、暖かいブランケット、ポートIVアダプターや無料アプリでの新しいデジタル体験などがカスタム・パッケージに収められています。

これまで病院や支援団体を通じてのみ入手可能でしたが、アフラックのパートナーであり、My Special Aflac Duckのクリエイターであるエンパス・ラボを通じて、3歳以上のがんや血液疾患の子どもたちのご家族に直接ダックをお届けすることができるようになりました。実際、2023年には、新しいプログラム「Direct To Family」によって、がんや鎌状赤血球症と向き合う子どもたちの家庭に440羽を発送することができました。



アフラックは、がんや鎌状赤血球症に直面している子どもたちに、文字通り抱きしめることができるもの、彼らに喜びを与え、彼らの闘病生活を支えるものを贈りたいと考えました。そして、インタラクティブなテクノロジーを使い、子どもたちが孤独を感じなくなるようサポートする、スマートで安心できるパートナー、My Special Aflac Duckを開発しました。

### My Special Aflac Duckの寄贈イベント

一部の病院では、My Special Aflac Duckを受け取った人が、自分だけの友達ロボットに会うために、エキサイティングなスカベンジャーハントに参加することもあります。ハントの後、患者の皆様とご家族は、ダックの出生証明書やビーズのネックレスを作ったり、塗り絵をしたりと、さまざまな活動を通して新しい友情を祝います。2023年、アフラック（米国法人）はアラバマ州バーミングハム、バージニア州シャーロットビル、イリノイ州シカゴ、ニューメキシコ州アルバカーキ、テキサス州エルパス、テキサス州サンアントニオで7回のMy Special Aflac Duck寄贈イベントを開催しました。また、アフラック（日本法人）では、2023年は20病院・施設に201羽を寄贈しました。

My Special Aflac Duckについての詳細や、あなたの団体やがんや鎌状赤血球症の治療を受けている子どもたちのためのダックのリクエストは、[アフラック小児がんキャンペーン](#)をご覧ください。





## アフラックペアレンツハウス

人々から評価され信頼される会社であることは、多くの場合、思いやりがあり、社会的責任を果たす会社であることも意味しています。アフラック（日本法人）は、社会的責任が私たちのパーパス（企業の存在意義）に欠くことのできない要素であることを認識しています。一企業として、アフラックの社員・代理店は小児がん支援活動をとっても大切にしており、小児がん経験者やAYA世代（思春期・若年成人世代）のがん経験者が笑顔で暮らせる社会を目指し、啓発活動や各種団体への支援を行っています。子どもが小児がんや難病に罹患すると、専門的な治療を受けるために、各地から東京や大阪に出向かなければならないこともあり、また、多くの場合その治療は継続的なものになります。こうした困難な状況に置かれた方々のお役に立てるよう、2001年、最初の「アフラックペアレンツハウス」がアフラック（日本法人）の寄付によって開設され

ました。この施設は、がんや難病と闘う子どもとその子どもを支えるご家族が、自宅のようにくつろいで宿泊できる場所としてお役に立てています。また、「アフラックペアレンツハウス」は小児がんに関する相談やイベント開催など総合支援センターとしてもご利用いただいております。開所以来、15万人以上の方にご利用いただいております。

子どもたちやご家族が安心して館内で過ごせるよう、多くの役職員・グループ会社・代理店が衛生用品や日用品の寄付やボランティアなどでペアレンツハウスの運営を支援しています。

## がん啓発活動

### アフラック・ホリデー・ダック・プログラム

アリゾナ州スコッツデールに住むジュリー・グッドヒューがアフラック・ホリデー・ダックに出会ったのは、2005年、いつものように美容室を訪れたときのことでした。彼女の隣の椅子に座った紳士が、ヘアスタイリストにプレゼントを手渡したのです。それは、マフラーと帽子をかぶり、そりに乗っている小さなアヒルのぬいぐるみでした。

「私は身を乗り出して、そのかわいいものをどこで手に入れたのかと尋ねたわ」とジュリーは当時を振り返ります。「見たことがありませんでしたが、欲しいと思いました…。これが私たちのアフラック・ホリデー・ダックの伝統の始まりです。」

2001年に初めて導入されたアフラック・ホリデー・ダックは、アフラック小児がん基金が毎年発売する限定コレクターズアイテムのぬいぐるみで、非営利団体が全米の小児がんや血液疾患の研究・治療を行う病院に寄付する資金集めに役立っています。現在までに、アフラック・ホリデー・ダックの売上は400万ドル以上が病院に提供されています。

17年にわたってアフラック・ホリデー・ダックを収集した、現在67歳のジュリーは、毎年新しいデザインを見るのが楽しみだと語ります。しかし、家族のささやかな伝統として始まったこの行事は、今では友人や隣人にアヒルのぬいぐるみを贈るまでに大きくなっていました。去年16羽のダックをプレゼントした際には、お祭りのような賑わいでした。

ここ10年ほど、感謝祭後の日曜日の夕方になると家族や友人たちがグッドヒュー家に集まり、ホリデーの始まりを祝うようになりました。一大儀式として、夫のボブが家と庭に沿って配置した電飾を「オフィシャル・ビッグ・スイッチ」で点灯するのです。彼らは「たとえ30度近い暑さだとしても」ホットチョコレートを楽しみます。そして、孫娘のプリンとクレアが担当する“メイン・ディッシュ” – その年のアフラック・ホリデー・ダックのお披露目会が始まります。[こちらをクリックしてビデオをご覧ください。](#)



アリゾナ州スコッツデールのプリンとクレア・グッドヒューは、2005年に祖母のジュリーが始めたアフラック・ホリデー・ダックのコレクションを飾りました。

ジュリーはこのアヒルのぬいぐるみの何をそんなに愛しているのでしょうか。「ダックたちは私たちのクリスマスにとっても重要な役割を果たしてくれています」と彼女は言います。「それに、寄付金のがんや血液疾患の子どもたちのために使われることが嬉しいのです。素晴らしいことだわ。」



ジュリー・グッドヒューと孫娘のプリンとクレアは、ABC15アリゾナ放送の「Uplifting Arizona」のコーナーで、家族の伝統であるアフラック・ホリデー・ダックを通じた他者への恩返しについて特集されました。

12月、ABC15アリゾナ放送は、他者への恩返しというグッドヒュー家の伝統に注目し、人気番組「[Uplifting Arizona](#)」のコーナーでジュリーと孫娘たちのインタビューを特集しました。

「今の時代、いつの時代もそうですが特に今、人々は喜びを必要としているようです」とジュリーは語ります。「そして、この小さなアヒルたちと一緒に、友人や家族に喜びを広めるお手伝いできて嬉しいです。」

## 小児がんと鎌状赤血球症の アフラック・ダック

小児がんと鎌状赤血球症のアフラック・ダックのぬいぐるみは、これらの病気及び患者とご家族のニーズに対する認識を高めることを使命として、2023年に登場しました。全長15cmほどで、背負っている青いリュックに描かれたゴールドとワインレッドのリボンは、小児がんと鎌状赤血球症への理解と支援を表す世界共通のシンボルマークです。おそろいの青いバンダナは、アフラックおなじみのロゴが目を引きます。その横に添えられたハートは、これらの患者に安心とケアを提供することがアフラックの経営理念の中核であることを象徴しています。ダック1羽（12ドル）の購入につき、純収入の100%がアフラック小児がん基金に寄付されます。この寄付金を通して、小児がんや鎌状赤血球症などの血液疾患を持つ子どもたちとそのご家族をサポートする病院、団体、プログラムを支援しています。

さらに詳しい情報と購入については[AflacChildhoodCancer.org](https://AflacChildhoodCancer.org)をご覧ください。



## がん経験者支援

アフラック（日本法人）では、がんを経験した方ががんになっても自分らしく生きるために、不安や寂しさなどを受け入れ、精神的に支える「開かれた相談の場」が社会に必要と考えています。アフラック（日本法人）は、「マギーズ東京」や「元ちゃんハウス」など、「開かれた相談の場」として活動する団体に寄付などを通じて活動を支援しています。



マギーズ東京は、がんを経験した方・家族・友人が、訪れるだけで寛ぐことができ、心理的な支援によって自分の力を取り戻している居場所を提供しています。



元ちゃんハウスは、石川県金沢市にあり、がんを抱えた方やご家族などが同じ境遇の人や専門職につながる場所として活動しています。

## がん啓発展示会・がん教育

アフラックは、がん保険のパイオニアとして、またリーディングカンパニーとしての義務と責任を認識しています。お客様は、がん保険のパイオニアである当社とその商品に信頼を寄せてくださっています。私たちは、その信頼にお応えできるよう日々力を尽くしています。例えば、日本の全47都道府県と連携し、がん予防の啓発や早期発見の重要性を多くの人々に知ってもらうための活動に積極的に取り組んでいます。具体的には、がんの「早期発見・早期治療」の大切さについて考えるきっかけにしてほしいとの想いで、2004年にがんに関する展示会「がんを知る展」を開始しました。



2018年には より多くの方に関心を持っていただくために「なるほど なっとく がんを知る教室」としてリニューアルしました。



2023年は6会場でがんを知る教室を開催し、16,000人以上が来場しました。



また、がん教育が中学校・高校で義務教育化されたことに伴い、当社は自治体と連携した地域におけるがん教育の推進に積極的に取り組んでいます。

## アフラッククラシック チャリティーコンサート

10月に、小児がんへの関心を高め、寄付を通じて支援するため、クラシックチャリティーコンサートを開催しました。このイベントでは、小児がんと闘う子どもたちとご家族、がんで親を亡くした高校生にスポットライトがあてられ、アフラック（日本法人）の奨学金制度や小児がんと闘う人たちを支援するための取り組みが紹介されました。



## 「アフラック小児がん経験者・がん遺児 奨学金制度」街頭募金

アフラック小児がん経験者・がん遺児奨学金制度を支える活動として、毎年、がん征圧月間である9月を中心にアフラック全国アソシエイツ会が主体となり、全国各地で街頭募金活動を行っています。11月には、当社の奨学金活動支援のため、社員がボランティアで募金活動を行います。当社の拠点の一つである調布市では、調布市職員がアフラック社員と一緒に街頭募金活動を行いました。



## ゴールドリボンウォーキング



小児がんの子どもたちへの理解と支援の呼びかけを目的として、2023年5月に開催されたゴールドリボンウォーキングには社員や代理店、提携先関係者、小児がんの子どもたちやそのご家族など、約 2,300人が参加し、当日は社員ボランティアも参加しウォーキングを盛り上げました。

## がん啓発 :Bridge to Brighter

小児がん及び鎌状赤血球症の啓発月間にあたる2023年9月、アフラックは意識を高めるだけでなく、研究や患者への支援を推進するために「Bridge to Brighter」キャンペーンを開始しました。



アフラックは、リアリティ番組「私はショーナ・レイ」のスターで小児がんサバイバーであるショーナ・レイとジェームズ・クロスキー医師と協力して、ショーナ・レイ自身のがん経験を共有し、がん及びその治療がサバイバーの人生にどのような影響を与えるかを明らかにしました。サテライト・メディア・ツアーと特集インタビューは閲覧回数が約2億9,500万回となりました。



Bridge to Brighter キャンペーンの一環として、アフラックはプロフィットボールで殿堂入りしているワイドレシーバーで、ジョージア工科大学の卒業生でもあるカルビン・ジョンソンと提携しました。写真上と右上:ジョンソンはアフラックがん・血液病センターを訪問し、患者たちに笑顔と、抱きしめたいくなるようなかわいい仲間、My Special Aflac Duck<sup>®</sup>を届けました。ジョンソンのアフラックがん・血液病センター訪問の紹介記事は、ESPNやUSA Todayの広告を含め、7,290万回以上アクセスされました。アルバカーキ、エルパソ、サンアントニオ、シカゴ、バーミンガム、シャーロットビルで行われた小児病院でのイベントでも、8つのテレビネットワーク系列で報じられました。



アフラックは啓発月間中、全国の都市と提携し、橋や有名なランドマークを小児がんと鎌状赤血球症のシンボルカラーであるゴールドとワインレッドでライトアップしました。ナイアガラの滝、オクラホマシティのスカイダンス・ブリッジ、メンフィスのマイティ・ライツ、ミネアポリスのローリー・アベニュー・ブリッジなど、全米の主要な場所で35の橋がライトアップされました。写真上: ルイジアナ州シュリーブポートにある有名なバコウスキー・ブリッジ・オブ・ライトの記事は、50万4,000回以上アクセスされました。

## 地域社会への CareGrants

医療債務を抱える人々は、時に食料を買うか、医療費を返済するかの選択を迫られることがあります。多くの家族は、このような状況に耐えられませんが、アフラックが助成金プログラムCareGrantsを設立したのは、医療債務の問題に対する意識を高め、個人、家族、地域社会が治療に集中できるよう支援するためです。アフラック・CareGrantsは研究に資金を提供し、医療成果の改善を支援すると同時に、医療債務に直面している勤勉なアメリカ人を支援しています。2023年末、私たちは個人及び非営利団体に200万ドルのCareGrantsを提供するというマイルストーンに達しました。

アフラックはまた、地域社会にアフラック・パークベンチを設置する取り組みも行っており、地域住民の医療成果改善に取り組む団体に助成金を提供しています。これらのベンチは、医療債務による格差是正のための教育、支援、擁護活動に対する当社の取り組みを有形化したものです。2023年、アフラック・CareGrantsの受給者はインディアナ州ゲーリー、ウェストバージニア州チャールストン、オハイオ州クリーブランド、ニューヨーク州ハーレム、そしてサウスカロライナ州オレンジバーグの住民にまで広がりました。

## West Virginia Health Right を通じた、地域住民の医療成果改善

2023年6月、アフラックはウェストバージニア州チャールストンのコミュニティ・リーダー及び地元住民と共に、West Virginia Health Right団体へのCareGrants (10万ドル) の提供と、マジック・アイランド・パークへのアフラック・パークベンチの設置を祝いました。同団体はこの資金を、地域の低所得者層の治療を支援するための医薬品、医療用品、消耗品の購入のほか、非常勤の管理栄養士と看護師である健康教育担当者を含む職員の給与に充てました。



写真: アフラック (米国法人) 社長のヴァージル・ミラーとWest Virginia Health Right CEOのアンジー・セトル博士。

## Hip Hop Public Health を通じた 青少年の健康の公平性推進

9月、私たちはハーレムの団体であるHip Hop Public Healthに10万ドルのCareGrantsを贈りました。同団体は、歴史的に社会から疎外され十分な支援を受けていない地域社会で、ヘルス・リテラシーの向上に取り組み、健康行動の変化を促し、健康の公平性を達成するという使命を担っています。この助成金は、子どもたちや家族に健康教育のリソースを提供する同団体のMC Educators Programなど、ヘルス・リテラシーと教育をめぐるさまざまな取り組みを支援するために使用されています。また、この助成金は、ミュージシャンやコミュニティ・リーダー、保健の専門家が公衆衛生問題について率直に語り合うSpeaker Seriesも支援しています。

助成金贈呈イベントでは、出席者は地元住民による壁画活動に参加しました。この壁画プロジェクトは、マルチメディア・アーティストのSubway Doodleが中心となり、ヒップホップ50周年を記念して開催されたもので、同地域社会での実体験が反映されています。完成した作品は、アートが青少年や地域社会に与える影響を体現するものとして、イベント主催者のMadison Square Boys & Girls Clubに寄贈されました。



写真は左から右へ:

アフラック (米国法人) 社長のヴァージル・ミラー、伝説的なヒップホップ・アーティストでありHip Hop Public Healthの共同創設者のダグ・E.フレッシュ、Hip Hop Public Healthのエグゼクティブ・ディレクター兼最高経営責任者のロリ・ローズ・ベンソン、Hip Hop Public Health共同創設者兼理事長のオラジデ・ウィリアムズ医学博士。

## コンシューマー CareGrants

医療費で負担を強いられている勤勉なアメリカ人に助成金を届けるコンシューマーCareGrantsを2023年も継続し、40件実施しました。アフラックは、困っているご家族にさらに手厚い支援を提供するために助成金の額を2倍にし、現在1件当たり1万ドルとなっています。

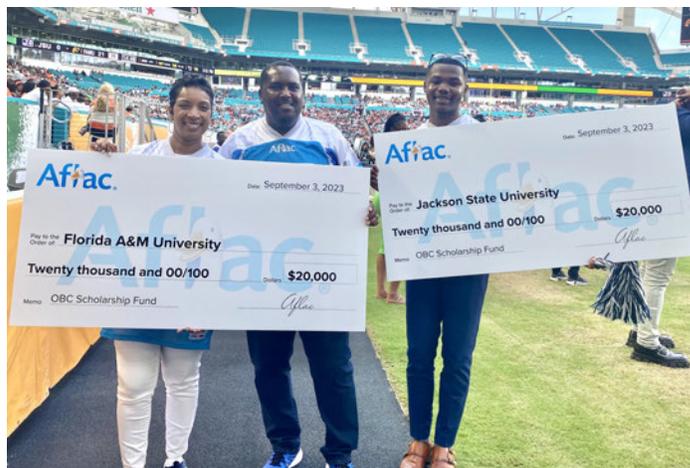
### ブロンバーグ家:お金より幸福に重点を

フロリダ州ロイヤルパームビーチのブロンバーグ家は、2023年4月にアフラックのCareGrantsを受け取りました。アマンダとランディ・ブロンバーグ夫妻は、息子のルーカスが生まれたとき、初めて親になることに興奮していました。ルーカスは生後9か月になる前に、白内障による失明のため手術が必要と診断され、2歳の誕生日を迎える直前には、別の診断が明らかになりました。ランゲルハンス細胞組織球症という、がんに似た稀少な疾患だということです。ルーカスはその後、自閉症、注意欠陥・多動性障害 (ADHD)、失読症とも診断されました。長男だけでなく、次男ローガンにもいくつか疾患があります。肺炎で未熟児として生まれ、ヘルニアの手術を受け、さらには自閉症の一種である可能性もあります。アマンダがコロナ禍の最中に失業したため、一家は経済的に苦境に立たされていました。しかし、彼女とランディは自らを「戦士の一家」と呼び、「ようやく一息つけるところまで来ました」と前向きに語ります。ブロンバーグ夫妻はアフラックから受け取った1万ドルのおかげで、経済的な心配をするよりも、お互いのそばにすることに集中できるようになりました。



## 多文化コミュニティへの投資

アフラックは、歴史的に社会から疎外され、十分な支援を受けていないコミュニティを支援し、より良い医療成果の実現、社会の認知度向上、職業能力開発の機会創出を支援しています。Urban Instituteの研究データによれば、医療債務のリスクが最も高いのは有色人種のコミュニティであり、白人のコミュニティでは11%であるのに対し、有色人種の15%が医療債務を抱えています。そのため、私たちは多文化コミュニティ支援に長年取り組んでおり、スポーツ、従業員採用、資金提供を通じて多文化コミュニティに貢献することを伝統としています。また、自社保有及びその他の多様なメディア・プラットフォームへのメディア投資を継続的に増やしており、2023年には前年比で15%増加しました。これらのDE&Iの取り組みにより、2023年の調査では、特にヒスパニック系及び黒人系アメリカ人において、当社のブランド価値への支持率と当社のブランドに共感する割合が向上しました。私たちは2023年を通して、社内外において多文化コミュニティの人々を重要視し、発展につながる取り組みを実施しました。



歴史的黒人大学 (Historically Black Colleges and Universities、通称:HBCU) の学生、家族、支援者に影響を与える制度的問題に関して、アフラックは20年以上にわたって解決策の提供や認識の向上を支援してきました。私たちは、見過ごされ、十分な支援を受けていない人々に資金を提供する一方で、認識及び認知度を高めるために多様な人々に働きかける必要性を認識しています。

医療費への備えについては、HBCU Heroesとの提携による金融リテラシー向上プログラム「Secure the Bag」を通じて支援を行っています。「Secure the Bag」は、青少年とご家族に力を与えるためのリソースを提供しています。このコラボレーションの一環として、フロリダA&M大学商工学部の学生を対象に、当社の代表者が講演を行い、寄付金の提供、従業員ボランティアの派遣、社会貢献活動への投資を行いました。2023年を通じて、基調講演や従業員採用を行う代表者を派遣したほか、キャンパス内及びバーチャルでの活性化イベントやリーダーシップ・パネル・ディスカッションを主催しました。

私たちは、有色人種のコミュニティが、人種間の貧富の差に広く影響する不公平に直面し、それが健康格差の一因となっていることを認識しています。アフラックのCareGrantsを通じて、ニューヨーク州ハーレムやオハイオ州クリーブランドなどの有色人種のコミュニティで、より良い医療成果及び習慣を生み出そうとしている団体を支援しています。2023年には、州唯一の公立HBCUであるサウスカロライナ州立大学に20万ドルのCareGrantsを寄贈しました。この資金は、サウスカロライナ州立大学のヘルス・エクイティ・リサーチ&トレーニング・センター（Health Equity Research and Training Center (HERT-C)）及びサウスカロライナがん格差研究センター（South Carolina Cancer Disparities Research Center (SC CADRE)）における、医療成果を改善し、次世代の多様な地域医療従事者を育成する活動を支援するために使用されます。



私たちはHBCUのコミュニティと文化の重要性を認識しており、多文化的背景を持つ人々のための場所を継続的に設けています。アフラックの従業員の120名近くがHBCUに加盟する約30のカレッジや大学の卒業生であり、当社は多様な従業員が参加できる機会を設けています。HBCU卒業生の半数以上がHBCU卒業生グループに参加しています。自主的にフィードバックを提供するなど、この重要な学校コミュニティへの取り組みに積極的に参加しています。

思いやりのある企業として、当社は従業員が職場を超えてコミュニティとつながる機会を提供し続けています。また、大学バスケットボールやフットボールを通じてHBCUを支援しています。テキサス州ヒューストンで開催された2023年HBCUオールスター・バスケットボール・ゲームでは、HBCUを卒業した当社従業員であるドーン・ギロリー・ブラウンが、バスケットボール・コート上で25,000ドルの寄付金を贈呈しました。さらに、フロリダA&M大学とジャクソン州立大学のフットボールチームが対決した2023年オレンジ・プロッサム・クラシックでは、当社従業員のエヴァ・ガントとラルフ・ガントがアフラック・マーケティング・メンティーとともにフィールドに登場し、HBCUアスリートの支援のために4万ドルの奨学金を贈呈しました。また、ジャクソン州立大学とサウスカロライナ州立大学のフットボールチームが対決した2023年MEAC/SWAC Challengeには地元ジョージア州とサウスカロライナ州のHBCU卒業生を招待しました。



## 米国ヒスパニック系コミュニティでの活動

2023年、アフラックは、米国におけるヒスパニック系の人々と真の関係を築くために重要な情報をスペイン語で提供する取り組みを開始しました。小児がんや鎌状赤血球症に直面している人々に心強い仲間、アフラック・ダックを提供するほか、健康習慣の重要性や補完医療保険、特に最近刷新された当社がん保険商品の価値についての啓発に努めています。

- 6月、自社の「[Wellness Matters Survey](#)」の調査結果を発表し、米国のヒスパニック系の人々にとって健康とウェルネスの管理は容易ではないことを明らかにするとともに、健康的な習慣を早期に身につける必要性を強調しました。
- 9月、アフラックは、ヒスパニック系住民の多い市場で、小児がんや鎌状赤血球症の子どもたちに、数十羽の「*My Special Aflac Duck*®」を贈りました。これらのイベントでは、スペイン語を話す家族のために、ゲームやアクティビティ、デモンストレーションがスペイン語で行われました。

- 介護者、患者、ご家族にスペイン語の情報やビデオを提供するために [AflacChildhoodCancer.org](#) のスペイン語版を作成しました。
- 秋には、米国のヒスパニック系住民に深刻な病気の早期発見につながる健康診断の重要性を呼びかけるキャンペーン「[Remission with a Mission campaign](#)」を展開し、348以上のメディア閲覧数を獲得しました。
- 10月、「[Aflac WorkForces Report](#)」を発表し、米国人の職場における燃え尽き症候群や経済的な課題といった重大な問題に光を当て、米国のヒスパニック系に与える影響について具体的な統計も発表しました。

## エージェント・オブ・ケア

アフラックのエージェント・オブ・ケア・プログラムは、パーパスに根差した支援活動を体現するアフラックの募集人を表彰するものです。販売部門のディレクターは、模範的なレベルの努力、地域社会への貢献、アフラックのミッションである「パーパスに根差した支援活動」への賛同を示している募集人を推薦します。2023年には、4人の募集人がそれぞれ1万ドルを授与され、販売部門の会議である「Aflac's Focus 2024」において、地域社会でどのような支援活動を行っているかを共有しました。



ミズーリ州スプリングフィールドの募集人、シモーネ・ハイト。

アフラックのベテラン募集人であるシモーネ・ハイトは、寄付活動の主導や寒冷地用シェルターの配給、ホームレスの食糧支援といった活動など、ミズーリ州スプリングフィールドの地域社会への幅広い貢献が評価され、推薦されました。シモーネは、スプリングフィールド州兵部隊のファミリー・レジリエンス・リーダーを務め、ドリーム・センターへのおもちゃや学用品の寄付活動により、年間を通じて家族を支援しています。また、理事を務めるユニティ教会の主催や募金活動も行い、地元のロータリー・クラブでは、おむつの寄付や障がい児センターの支援など、数多くの奉仕活動に積極的に参加しています。シモーネの充実した仕事ぶりは、彼女の寛大な心を反映しています。アフラックは、彼女がアフラック・エージェント・オブ・ケアとしてこれらの団体や地域社会のために尽力してくれていることに深く感謝しています。

## サウスカロライナ州立博物館へ バリアフリー化の贈り物

サウスカロライナ州コロンビアにあるサウスカロライナ州立博物館では、サウスカロライナの素晴らしい歴史、文化、業績、そして自然の驚異に触れることができます。毎年約20万人が来館し、そのうち7万人以上の子どもたちが、学校の遠足でクラスメートと一緒に博物館を体験しています。2023年12月までは、館内のバリアフリー対応が限られていたため、障がいのある来館者は不便さを感じていました。サウスカロライナ州コロンビアを拠点に団体向け任意福利厚生事業を拡大しているアフラックからの20万ドルの寄付と、サウスカロライナ州議会からの追加資金により、館内のトイレ全10か所が、米国障がい者法に完全に準拠したトイレに改修されました。アフラックはまた、授乳中の母親がプライバシーと快適さを確保できる2つのマザーズ・ルームと、来館者が一休みするための静かなウェルネス・ルームの設置にも資金を提供しました。



(写真は左から右へ):サウスカロライナ州立博物館財団ディレクターのカレン・ホール、アフラックのDE&I・人財担当バイス・プレジデントのケイラ・キャブレット・ルイス、アフラックの団体任意福利厚生事業担当シニア・バイス・プレジデントのボブ・ラフ、サウスカロライナ州立博物館エグゼクティブ・ディレクターのエイミー・パートウ・メリア、アフラックのシニア・グループ・フィランソロピー・コーディネーターのアマンダ・グローバー、アフラックのプレミア・ブローカー・リレーション担当ディレクターのジェイミー・ワードラップが、2023年12月4日にバリアフリー化を祝いました。



2023年12月4日、サウスカロライナ州立博物館に新設されたアフラック・マザーズ・ルームを体験するジョイ・ジャクソンと娘のナイラ。



2023年12月4日、サウスカロライナ州立博物館に新設されたアフラック・ウェルネス・ルームを訪れたハリエット・ギャルマン(手前)と障がい者・特別支援局のレクリエーション・スペシャリスト、モンタナ・クロスビー。

# 付録

## GRI 内容インデックス

使用宣言	アフラック・インコーポレーテッドは、GRI スタンダードを参照して、2023 年 1 月 1 日から 2023 年 12 月 31 日までの期間について、本 GRI 内容インデックスに記載した情報を報告する。
使用した GRI1	GRI1：基礎 2021

開示項目	開示場所
<b>GRI2: 一般開示事項 2021</b>	
2-1 組織の詳細	<p><b>組織の名称</b>：アフラック・インコーポレーテッド (NYSE：AFL)</p> <p><b>所有形態と法人格</b>：アフラック・インコーポレーテッド (親会社) は、1973 年にジョージア州の法律に基づいて法人化されました。</p> <p><i>2023 Form 10-K</i>: 項目 1. 「事業 - 概要」 2 ページ</p> <p><b>本社所在地</b> :Aflac Worldwide Headquarters, 1932 Wynnton Road, Columbus, GA, U.S.</p> <p><b>事業所所在地</b> :「アフラック・インコーポレーテッドについて」 1 ページ</p> <p><i>2023 Form 10-K</i>: 項目 1. 「事業 - 概要」 2 ページ</p> <p>2023 CDP レポート</p>
2-2 組織のサステナビリティ報告の対象となる事業体	<p>「本レポートについて - 報告の範囲と境界」 5-6 ページ</p> <p><i>2023 Form 10-K</i>: 項目 1. 「事業 - 概要」 2-3 ページ</p> <p>2023 CDP レポート</p>
2-3 報告期間、報告頻度、連絡先	<p><b>報告期間</b>：2023 年 1 月 1 日から 2023 年 12 月 31 日</p> <p><b>報告サイクル</b>：年次</p> <p><b>報告書の発行日</b>：2024 年 3 月</p> <p><b>報告書に関するお問い合わせ窓口</b>：aflacir@aflac.com</p>
2-4 情報の修正・訂正記述	該当なし
2-5 外部保証	<p>「本レポートについて - 基準と枠組み」 6 ページ、</p> <p>「環境 - スコープ 1、スコープ 2、スコープ 3 の温室効果ガス排出量」 58 ページ、</p> <p>「付録 - アフラック・インコーポレーテッドの温室効果ガス排出量に関する声明」 105-114 ページ</p> <p>2023 TCFD レポート</p> <p>2023 CDP レポート</p>
2-6 活動内容、バリューチェーン、その他の取引関係	<p>「アフラック・インコーポレーテッドについて」 1 ページ、「アフラック (米国法人) 及びアフラック (日本法人) について」 7-30 ページ</p> <p><i>2023 Form 10-K</i>: 項目 1. 「事業 - 概要」 2 ページ、「収益を生み出す活動」 2 ページ、「アフラック (日本法人) について」 3-5 ページ、「アフラック (米国法人) について」 5-9 ページ、「<b>本社 (アフラック (日本法人) 及びアフラック (米国法人) を除く) 及びその他</b>」 9-10 ページ</p> <p><i>2023 年株主総会招集通知</i>：「アフラック・インコーポレーテッドについて」 表紙内側</p> <p>2023 TCFD レポート</p> <p>2023 CDP レポート</p> <p>アフラック・サプライヤー情報</p>
2-7 従業員	<p>「アフラック (米国法人) 及びアフラック (日本法人) について - 高品質の補完保険商品を提供するリーディング・カンパニー」 7 ページ</p> <p><i>2023 Form 10-K</i>: 項目 1. 「事業 - 人財」 10-12 ページ</p> <p>2023 CDP レポート</p>
2-8 従業員以外の労働者	アフラックはこの情報を開示していません。

開示項目	開示場所
2-9 ガバナンス構造と構成	<p>「ガバナンス - 取締役会による監督」40-42 ページ</p> <p>2023 Form 10-K: 項目 1. 「事業 - 人財 - ダイバーシティ、エクイティ&amp;インクルージョン」11 ページ</p> <p>2023 年株主総会招集通知「投票ロードマップ - 取締役候補の概要」10-11 ページ、「コーポレートガバナンスに関する事項 - 取締役会の構成 - 取締役候補」14-19 ページ、「取締役の独立性」19 ページ、「取締役候補のスキル、経験、多様性」20 ページ、「取締役会のサクセッション・プランニングと更改プロセス」20 ページ、「当社の取締役会と委員会 - 委員会構成」24-27 ページ</p> <p>ガイドライン</p> <p>2023 TCFD レポート</p> <p>2023 CDP レポート</p>
2-10 最高ガバナンス機関における指名と選出	<p>2023 年株主総会招集通知「コーポレートガバナンスに関する事項 - 取締役会の構成 - 取締役指名プロセス」21-22 ページ</p> <p>ガイドライン</p>
2-11 最高ガバナンス機関の議長	<p>ダニエル・P. エイモス氏は 2001 年から取締役会議長を、1990 年から最高経営責任者を務めています。</p> <p>2023 年株主総会招集通知「コーポレートガバナンスに関する事項 - 当社の取締役会と委員会 - 取締役会のリーダーシップ構造」23 ページ</p>
2-12 インパクトのマネジメントの監督における最高ガバナンス機関の役割	<p>「ガバナンス - 取締役会による監督」40-42 ページ</p> <p>2023 年株主総会招集通知「コーポレートガバナンスに関する事項 - 当社の取締役会と委員会 - 委員会構成」24-27 ページ、「取締役会の責任 - 企業の社会的責任とサステナビリティへのコミットメント」30 ページ</p> <p>2023 TCFD レポート</p> <p>2023 CDP レポート</p>
2-13 インパクトのマネジメントに関する責任の移譲	<p>「ガバナンス - 取締役会による監督」40-42 ページ</p> <p>2023 年株主総会招集通知：コーポレートガバナンスに関する事項 - 当社の取締役会と委員会 - 委員会構成」24-27 ページ、「取締役会の責任 - 企業の社会的責任とサステナビリティへのコミットメント」30 ページ</p> <p>2023 TCFD レポート</p> <p>2023 CDP レポート</p>
2-14 サステナビリティ報告における最高ガバナンス機関の役割	<p>「ガバナンス - 取締役会による監督」40-42 ページ</p> <p>2023 年株主総会招集通知：コーポレートガバナンスに関する事項 - 当社の取締役会と委員会 - 委員会構成」24-27 ページ、「取締役会の責任 - 企業の社会的責任とサステナビリティへのコミットメント」30 ページ</p> <p>2023 CDP レポート</p>
2-15 利益相反	<p>2023 年株主総会招集通知：「監査事項 - 関連者取引」76-77 ページ</p>
2-16 重大な懸念事項の伝達	<p>2023 年株主総会招集通知：「コーポレートガバナンスに関する事項 - 取締役会の責任 - 株主への働きかけ - 取締役会とのコミュニケーション」32 ページ</p>
2-17 最高ガバナンス機関の集合知見	<p>ガイドライン</p>
2-18 最高ガバナンス機関のパフォーマンス評価	<p>2023 年株主総会招集通知：「コーポレートガバナンスに関する事項 - 取締役会の構成 - 取締役会の自己評価」22 ページ</p> <p>評価の頻度：年次</p> <p>ガイドライン</p>
2-19 報酬方針	<p>「サステナビリティ・ハイライト - サステナビリティと役員報酬」37 ページ</p> <p>2023 年株主総会招集通知：「投票ロードマップ - 役員報酬ハイライト」12 ページ、「2022 年役員報酬」12 ページ、「コーポレートガバナンスに関する事項 - 取締役報酬」33-35 ページ、「CD&amp;A At-A-Glance」36-37 ページ、「役員報酬 - 概要 - 業績報酬の考え方」39 ページ、「当社の役員報酬プログラムの概要」43 ページ、「2022 年役員報酬」49-56 ページ、「追加の役員報酬計画の実践と手順」57-58 ページ</p> <p>2023 TCFD レポート</p> <p>2023 CDP レポート</p>

開示項目	開示場所
2-20 報酬の決定プロセス	2023年株主総会招集通知:「投票ロードマップ - 最近の Say-On-Pay 投票」12 ページ、「コーポレートガバナンスに関する事項 - 取締役報酬」33 ページ、「役員報酬 - エグゼクティブサマリー - 2022年 Say-On-Pay 投票の結果」44 ページ、「報酬の設計と思想 - 役員報酬の設定プロセス」45-46 ページ ガイドライン アフラック・インコーポレーテッド Policies and Statements
2-21 年間報酬額総額の比率	2023年株主総会招集通知:「役員報酬 - CEO 給与比率」69-70 ページ
2-22 持続可能な発展に向けた戦略に関する声明	「アフラック・インコーポレーテッド会長兼社長兼最高経営責任者 ダニエル・P. エイモスからのメッセージ」3-4 ページ
2-23 方針声明	「ガバナンス」39 ページ、「倫理とコンプライアンス」43 ページ 2023年株主総会招集通知:「コーポレートガバナンスに関する事項 - 取締役会の責任 - ガバナンス文書 - 行動倫理憲章」32 ページ 行動憲章 サプライヤー行動憲章 サプライヤー情報 - 倫理 アフラック・インコーポレーテッド Policies and Statements
2-24 方針声明の実践	「ガバナンス - 倫理とコンプライアンス」43 ページ アフラック・インコーポレーテッド Policies and Statements
2-25 マイナスのインパクトの是正プロセス	アフラックはこの情報を開示していません。
2-26 助言を求める制度および懸念を提起する制度	「ガバナンス - 倫理とコンプライアンス」43 ページ 行動憲章 サプライヤー行動憲章 サプライヤー情報 - 倫理 アフラック・インコーポレーテッド Policies and Statements
2-27 法規制遵守	アフラックはこの情報を開示していません。
2-28 会員資格を持つ団体	「アフラック（米国法人）及びアフラック（日本法人）について - 2023年アフラック・インコーポレーテッドの受賞、表彰、エンゲージメント及びメンバーシップ」30 ページ 2023年株主総会招集通知:「2022年ビジネスハイライト - 企業の社会的責任とサステナビリティのハイライト」8 ページ 2023 CDP レポート サプライヤー情報 - サプライヤーの多様性 サプライヤー情報 - 持続可能な調達
2-29 ステークホルダー・エンゲージメントへのアプローチ	「ガバナンス - 取締役会による監督 - リスク管理プロセス」42 ページ 2023年株主総会招集通知:「コーポレートガバナンスに関する事項 - 取締役会の責任 - 株主への働きかけ」31 ページ 2023 CDP レポート

開示項目	開示場所
<b>GRI 3 : マテリアルな項目 2021</b>	
3-1 マテリアルな項目の決定プロセス	「ガバナンス - 取締役会による監督 - リスク管理プロセス」42 ページ
3-2 マテリアルな項目のリスト	「ガバナンス - 取締役会による監督 - リスク管理プロセス」42 ページ
3-3 マテリアルな項目のマネジメント	「サステナビリティ・ハイライト」35-38 ページ、「ガバナンス」39-43 ページ、「サイバーセキュリティによるお客様とデータの保護」44-46 ページ、「政治活動報告」47 ページ、「資産運用」48-50 ページ、「環境」51-58 ページ、「人財」59-74 ページ、「アフラックの戦略的フィランソロビー」75-92 ページ 行動憲章 サプライヤー行動憲章 サプライヤー情報 - 倫理 アフラック・インコーポレーテッド Policies and Statements 2023 年アフラック政治活動報告 2023 TCFD レポート 2023 CDP レポート
<b>GRI 201 : 経済パフォーマンス 2016</b>	
201-1 創出、分配した直接的経済価値	<b>収益</b> :187 億ドル 「アフラック (米国法人) とアフラック (日本法人) について - 高品質の補完保険商品を提供するリーディング・カンパニー」7 ページ、「2023 年アフラック (日本法人) 財務ハイライト」9 ページ、「2023 年アフラック (米国法人) 財務ハイライト」23 ページ、「財務ハイライト - アフラック・インコーポレーテッドの投資家情報」31-32 ページ、「財務諸表からの抜粋」33 ページ、「サステナビリティ・ハイライト - 責任投資」35 ページ、「フィランソロビー」36 ページ、「地域社会への投資」36 ページ、「コミュニティ投資とフィランソロビー」38 ページ、「資産運用」48-50 ページ、「アフラックの戦略的フィランソロビー」75-92 ページ 2023 Form 10-K: 項目 1. 「事業 - 人財」10-12 ページ、項目 7. 「経営陣による財務状況及び経営成績の検討と分析 - エグゼクティブサマリー - 業績ハイライト」33 ページ 2023 年株主総会招集通知: 「2022 年ビジネスハイライト」7-8 ページ、「コーポレートガバナンスに関する事項 - CD&A At-A-Glance」36 ページ、「役員報酬 - エグゼクティブサマリー - 2022 年の事業概要」40 ページ アフラック・インコーポレーテッド Policies and Statements 2023 年サステナビリティ・ボンド報告: 「サステナビリティ・ボンドの枠組み概要」3 ページ、「調達資金の配分とインパクト」3-4 ページ、「投資ハイライト」5-7 ページ 2023 CDP レポート
201-2 気候変動による財務上の影響、その他のリスクと機会	2023 Form 10-K: 項目 1A. 「リスク要因 - 一般的なリスク要因」25-27 ページ 2023 TCFD レポート 2023 CDP レポート
201-3 確定給付型年金制度の負担、その他の退職金制度	2023 Form 10-K: 項目 8. 「財務諸表及び補足資料 - 14. ベネフィットプラン」179-185 ページ 2023 年株主総会招集通知: 「役員報酬 - 2022 年役員報酬 - その他の報酬 - 確定給付型年金」56 ページ、「役員報酬表 - 年金給付 - 適格確定給付型年金」63 ページ
201-4 政府から受けた資金援助	該当なし
<b>GRI 204: 調達慣行 2016</b>	
204-1 地元サプライヤーへの支出の割合	2023 CDP レポート
<b>GRI 205: 腐敗防止 2016</b>	
205-2 腐敗防止の方針や手順に関するコミュニケーションと研修	「サステナビリティ・ハイライト - 責任ある行動を促すためのポリシー」36 ページ、「ガバナンス - 倫理とコンプライアンス」43 ページ

開示項目	開示場所
<b>GRI 207: 税金 2019</b>	
207-1 税金へのアプローチ	アフラック・インコーポレーテッド Policies and Statements
207-2 税務ガバナンス、管理、およびリスクマネジメント	アフラック・インコーポレーテッド Policies and Statements
<b>GRI 302: エネルギー 2016</b>	
302-1 組織内のエネルギー消費量	付録 - 「アフラック・インコーポレーテッドの温室効果ガス排出量に関する声明」 105 ページ 2023 TCFD レポート 2023 CDP レポート
<b>GRI 305: 大気への排出 2016</b>	
305-1 直接的な GHG 排出 (スコープ 1)	「環境 - 温室効果ガス削減の進捗」 52 ページ、「スコープ 1、スコープ 2、スコープ 3 の温室効果ガス排出量」 58 ページ、付録 - 「アフラック・インコーポレーテッドの温室効果ガス排出量に関する声明」 105-114 ページ 2023 TCFD レポート 2023 CDP レポート
305-2 間接的な GHG 排出 (スコープ 2)	「環境 - 温室効果ガス削減の進捗」 52 ページ、「スコープ 1、スコープ 2、スコープ 3 の温室効果ガス排出量」 58 ページ、付録 - 「アフラック・インコーポレーテッドの温室効果ガス排出量に関する声明」 105-114 ページ 2023 TCFD レポート 2023 CDP レポート
305-3 その他の間接的な GHG 排出 (スコープ 3)	「環境 - スコープ 1、スコープ 2、スコープ 3 の温室効果ガス排出量」 58 ページ、付録 - 「アフラック・インコーポレーテッドの温室効果ガス排出量に関する声明」 105-114 ページ 2023 TCFD レポート 2023 CDP レポート
305-4 温室効果ガス (GHG) 排出原単位	2023 CDP レポート
305-5 温室効果ガス (GHG) 排出量の削減	「サステナビリティ・ハイライト - 環境」 35 ページ、「環境 - 温室効果ガス削減の進捗」 52 ページ 2023 年株主総会招集通知: 「2022 年ビジネスハイライト - 企業の社会的責任とサステナビリティのハイライト - 環境」 8 ページ 2023 TCFD レポート 2023 CDP レポート
<b>GRI 306: 廃棄物 2020</b>	
306-4 処分されなかった廃棄物	「環境 - 廃棄物の削減」 54 ページ
<b>GRI 401: 雇用 2016</b>	
401-1 従業員の新規雇用と離職	「人財 - 従業員の多様性 - 従業員は、当社が事業展開している地域社会を映し出す - 米国の従業員の新規採用」 71 ページ 2023 Form 10-K: 項目 1. 「事業 - 人財 - ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン」 11 ページ 2023 年株主総会招集通知: 「2022 年ビジネスハイライト - 企業の社会的責任とサステナビリティのハイライト - 従業員の多様性」 8 ページ
401-2 フルタイム従業員には支給され、 有期雇用の従業員やパートタイム 従業員には支給されない手当	「人財 - 従業員の健康増進とワーク・ライフ・バランス」 59-62 ページ 2023 Form 10-K: 項目 8. 「財務諸表及び補足資料 - 14. ベネフィットプラン」 179-185 ページ 2023 年株主総会招集通知: 「役員報酬 - 2022 年役員報酬 - その他の報酬 - 401(k) 貯蓄及び利益分配制度」 56 ページ、「その他のベネフィット」 56 ページ アフラック・インコーポレーテッド Policies and Statements
401-3 育児休暇	アフラックはこの情報を開示していません。 「人財 - 人財開発 - 日本の Work SMART」 66 ページ

開示項目	開示場所
<b>GRI 404 : 研修と教育 2016</b>	
404-2 従業員スキル向上プログラムおよび移行支援プログラム	「人財 - 人財開発」 65 ページ 2023 Form 10-K: 項目 1. 「事業 - 人財 - タレント」 (10 ページ) アフラック・インコーポレーテッド Policies and Statement
<b>GRI 405 : ダイバーシティと機会均等 2016</b>	
405-1 ガバナンス機関および従業員のダイバーシティ	「サステナビリティ・ハイライト - ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン (DE&I)」 35 ページ、「従業員の多様性」 38 ページ、「ガバナンス - 取締役会による監督」 40 ページ、「人財 - 従業員の多様性 - 説明責任」 69 ページ、「人財 - 従業員は、当社が事業展開している地域社会を映し出す」 69-70 ページ 2023 Form 10-K: 項目 1. 「事業 - 人財 - ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン」 11 ページ 2023 年株主総会招集通知: 「2022 年ビジネスハイライト - 企業の社会的責任とサステナビリティのハイライト - 人財の多様性」 8 ページ、「投票ロードマップ - 取締役候補の概要」 10-11 ページ、「コーポレートガバナンスに関する事項 - 取締役会の構成 - 取締役候補のスキル、経験、多様性」 20 ページ、「取締役会のサクセッションプランニングと更改プロセス」 20 ページ EEO-1 レポート
405-2 基本給と報酬の男女比	「人財 - 従業員の多様性 - 従業員は、当社が事業展開している地域社会を映し出す - 公平な報酬」 71-72 ページ
<b>GRI 415 : 公共政策 2016</b>	
415-1 政治献金	「ガバナンス - 政治活動報告」 47 ページ 2023 年アフラック政治活動報告
<b>GRI 417 : マーケティングとラベリング 2016</b>	
417-3 マーケティング・コミュニケーションに関する違反事例	該当なし 「アフラック (米国法人) 及びアフラック (日本法人) について - アフラック (米国法人) マーケティング戦略」 29 ページ
<b>GRI 418 : 顧客プライバシー 2016</b>	
418-1 顧客プライバシーの侵害および顧客データの紛失に関して具体化した不服申立	該当なし 「サイバーセキュリティによるお客様とデータの保護」 44-46 ページ

# サステナビリティ会計基準審議会 (SASB) インデックス

業種：保険

表 1. サステナビリティ開示トピックおよび会計メトリクス

トピック	会計指標	カテゴリ	測定単位	コード	対応または開示場所
顧客への透明性の高い情報と公正な助言	新規顧客及びリピート顧客へのマーケティングと保険商品関連情報の伝達に関連する法的手続の結果として生じた金銭的損失の総額	定量	報告通貨	FN-IN-270a.1	なし
	苦情・クレーム率	定量	比率	FN-IN-270a.2	アフラックはこの情報を開示していません。
	顧客維持率	定量	比率	FN-IN-270a.3	アフラックはこの情報を開示していません。
	商品に関する顧客への通知方法の説明	議論と分析	該当なし	FN-IN-270a.4	「アフラック (米国法人) 及びアフラック (日本法人) について - 2023 年アフラック (日本法人) 財務ハイライト - 日本のお客様との接点となる販売網」 10 ページ、「アフラック (日本法人) 日本の販売チャネル」 10 ページ、「日本郵政グループの概要」 11-14 ページ、「商品戦略の概要」 15 ページ、「アフラック (日本法人) 保険商品」 16-19 ページ、「アフラック (米国法人) - アフラック (米国法人) マーケティング戦略」 29 ページ  2023 Form 10-K: 項目 1「事業 - アフラック (日本法人) - 販売チャネル」 4-5 ページ、「アフラック (米国法人) - 販売チャネル」 6-7 ページ
投資管理における環境、社会、及びガバナンスの要素の組み込み	業種・資産クラス別投資資産総額	定量	報告通貨	FN-IN-410a.1	「資産運用」 48-50 ページ  2023 サステナビリティ・ボンド・レポート: 「サステナビリティ・ボンド・フレームワーク概要」 3 ページ
	投資管理プロセス及び戦略に環境、社会、ガバナンス (ESG) 要素を組み込むアプローチの説明	議論と分析	該当なし	FN-IN-410a.2	「資産運用」 48-50 ページ  2023 サステナビリティ・ボンド・レポート: 「付録 - サステナビリティ・ボンド・フレームワーク」 11-16 ページ  2023 TCFD レポート  アフラック・インコーポレーテッド Policies and Statements

トピック	会計指標	カテゴリ	測定単位	コード	対応または開示場所
責任ある行動を促すための方針	エネルギー効率化及び低炭素技術に関連する正味収入保険料	定量	報告通貨	FN-IN-410b.1	該当なし
	健康、安全や環境に配慮した活動や行動を促す商品や、商品の機能に関する説明	議論と分析	該当なし	FN-IN-410b.2	2023 CDP レポート
物理リスクエクスポージャー	天候による自然災害に関する保険商品の予想最大損失 (PML)	定量	報告通貨	FN-IN-450a.1	該当なし
	事象の種類及び地理的セグメント別に示した (1) モデル化された自然災害及び (2) モデル化されていない自然災害、による保険金支払いに帰属する金銭的損失の総額 (再保険考慮前と考慮後)	定量	報告通貨	FN-IN-450a.2	該当なし
	(1) 個々の契約の引受プロセスに組み込むアプローチと (2) 企業レベルのリスクと資本の適正性の管理への、環境リスクの組み込みに関するアプローチの説明	議論と分析	該当なし	FN-IN-450a.3	2023 TCFD レポート  アフラック・インコーポレーテッド Policies and Statements
システミックリスク管理	カテゴリ別のデリバティブ商品のリスク：(1) 非清算店頭デリバティブに対する潜在的リスクの合計、(2) 中央清算機関への受け入れ可能な担保の公正価値の合計、(3) 清算店頭デリバティブに対する潜在的リスクの合計	定量	報告通貨	FN-IN-550a.1	該当なし
	証券貸付担保資産の公正価値合計	定量	報告通貨	FN-IN-550a.2	該当なし
	システミックな非保険活動に関連する資本及び流動性関連のリスクを管理するアプローチの説明	議論と分析	該当なし	FN-IN-550a.3	該当なし

表 2. アクティビティメトリクス

アクティビティメトリクス	カテゴリ	測定単位	コード	対応または場所
セグメント別保有契約数：(1) 損害保険、(2) 生命保険、(3) 再保険引受	定量	件数	FN-IN-000.A	「財務ハイライト - 主要な業務指標」 34 ページ

# 気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD) の対応について

トピック	推奨される開示内容	開示内容または開示場所
ガバナンス：気候関連のリスクと機会に関する組織のガバナンスを開示する	a. 気候関連のリスクと機会に関する取締役会の監督について記述する	「ガバナンス - 取締役会による監督」 40-42 ページ 2023 TCFD レポート 2023 CDP レポート
	b. 気候関連のリスクと機会の評価とマネジメントにおける経営陣の役割を記述する	「ガバナンス - 取締役会による監督」 40-42 ページ 2023 TCFD レポート
戦略：気候関連リスクと機会が組織の事業、戦略、財務計画に及ぼす実際の影響と潜在的な影響について、その情報が重要（マテリアル）な場合は開示する	a. 組織が特定した、短期・中期・長期の気候関連のリスクと機会を記述する	2023 Form 10-K: 項目 1A. 「リスク要因 - 一般的なリスク要因」 25-27 ページ 2023 TCFD レポート 2023 CDP レポート
	b. 気候関連のリスクと機会が組織の事業、戦略、財務計画に及ぼす影響を記述する	2023 Form 10-K: 項目 1A. 「リスク要因 - 一般的なリスク要因」 25-27 ページ 2023 TCFD レポート 2023 CDP レポート
	c. 2℃以下のシナリオを含む異なる気候関連のシナリオを考慮して、組織戦略のレジリエンスを記述する	2023 TCFD レポート 2023 CDP レポート
リスクマネジメント：組織がどのように気候関連リスクを特定し、評価し、マネジメントするのかを開示する	a. 気候関連リスクを特定し、評価するための組織のプロセスを記述する	「ガバナンス - 統合的リスク管理 - リスク管理プロセス」 42 ページ 2023 TCFD レポート 2023 CDP レポート
	b. 気候関連リスクをマネジメントするための組織のプロセスを記述する	2023 TCFD レポート 2023 CDP レポート
	c. 気候関連リスクを特定し、評価し、マネジメントするプロセスが、組織の全体的なリスクマネジメントにどのように統合されているかを記述する	「ガバナンス - 取締役会による監督 - 統合的リスク管理」 41-42 ページ 2023 TCFD レポート 2023 CDP レポート

トピック	推奨される開示内容	開示内容または開示場所
<b>指標と目標</b> ：その情報が重要（マテリアル）な場合、気候関連のリスクと機会を評価し、マネジメントするために使用される指標と目標を開示する	a. 組織が自らの戦略とリスクマネジメントに即して、気候関連のリスクと機会の評価に使用する指標を開示する	「環境 - スコープ 1、スコープ 2、スコープ 3 の温室効果ガス排出量」58 ページ  2023 TCFD レポート
	b. スコープ 1、スコープ 2、該当する場合はスコープ 3 の GHG 排出量、及び関連するリスクを開示する	「環境 - スコープ 1、スコープ 2、スコープ 3 の温室効果ガス排出量」58 ページ  2023 TCFD レポート  2023 CDP レポート
	c. 気候関連のリスクと機会をマネジメントするために組織が使用する目標、及びその目標に対するパフォーマンスを記述する	「環境 - 温室効果ガス削減の進捗」52 ページ、「スコープ 1、スコープ 2、スコープ 3 の温室効果ガス排出量」58 ページ  2023 TCFD レポート  2023 CDP レポート

# 独立監査人によるレビューレポート アフラック・インコーポレーテッドの温室効果ガス排出量に関する声明

独立監査人によるレビューレポート及びアフラック・インコーポレーテッドの温室効果ガス排出量に関する声明については、[こちら](#)（英語のみ）をご覧ください。

## 取締役

<p><b>ダニエル P. エイモス</b> アフラック・インコーポレーテッド 会長兼社長兼最高経営責任者</p>	<p><b>W. ポール パウワース</b> ジョージア・パワー・カンパニーの 退任した会長兼最高経営責任者</p>	<p><b>アーサー R. コリンズ</b> ザ・グループの創業者及び会長</p>
<p><b>細田 満和子</b> 星槎大学教授</p>	<p><b>トーマス J. ケニー</b> ゴールドマン・サックス・アセット・ マネジメント社 グローバル・フィクスト・インカム 元パートナー兼共同代表</p>	<p><b>ジョージェット D. カイザー</b> ザ・カーライル・グループ オペレーティング・エグゼクティブ</p>
<p><b>キャロル F. ロイド</b> 公認会計士 アーンスト・アンド・ヤング LLP の 退任した監査パートナー</p>	<p><b>森 信親</b> 株式会社日本金融経済リサーチ 代表取締役</p>	<p><b>ジョセフ L. モスコウィッツ</b> ブライメリカ・インクの退任した エグゼクティブ・バイス・プレジデント</p>
<p><b>バーバラ K. ライマー</b> <b>公衆衛生博士</b> ノースカロライナ大学チャペルヒル校 ギリングス・グローバル公衆衛生学部の 名誉学部長</p>	<p><b>キャサリン T. ローラー</b> プリンストン大学名誉副学部長</p>	

## 経営陣

<p><b>ダニエル P. エイモス</b> アフラック・インコーポレーテッド 会長兼社長兼最高経営責任者</p>	<p><b>マックス K. ブローデン</b> アフラック・インコーポレーテッド エグゼクティブ・バイス・プレジデント チーフ・フィナンシャル・オフィサー</p>	<p><b>チャールズ D. レイク二世</b> アフラック・インターナショナル社長 アフラック生命保険株式会社 代表取締役会長</p>
<p><b>古出 真敏</b> アフラック生命保険株式会社 代表取締役社長</p>	<p><b>ヴァージル R. ミラー</b> アフラック (米国法人) 社長</p>	<p><b>ブラッドリー E. ディスリン</b> アフラック・インコーポレーテッド エグゼクティブ・バイス・プレジデント グローバル・チーフ・インベストメント・オフィサー アフラック・グローバル・インベストメンツ社長</p>
<p><b>オードリー ブーン ティルマン</b> アフラック・インコーポレーテッド エグゼクティブ・バイス・プレジデント 最高法律顧問</p>	<p><b>スティーブン K. ビーバー</b> アフラック生命保険株式会社 取締役専務執行役員 チーフ・フィナンシャル・オフィサー</p>	<p><b>ロビン L. ブラックモン</b> アフラック・インコーポレーテッド フィナンシャル・サービス担当 シニア・バイス・プレジデント チーフ・アカウンティング・オフィサー</p>
<p><b>アルバート A. リジエリ</b> アフラック・インコーポレーテッド シニア・バイス・プレジデント グローバル・チーフ・リスク・オフィサー</p>	<p><b>フレデリック J. シマード</b> アフラック (米国法人) シニア・バイス・プレジデント チーフ・フィナンシャル・オフィサー</p>	

## Aflac Incorporated (NYSE: AFL)

For more information about the Company, its SEC filings, including form 10-K, or this report, please contact:

### Investor and Rating Agency Relations

**David Young, Vice President**

**ON THE INTERNET:**

[investors.aflac.com](https://investors.aflac.com)

**BY TELEPHONE:**

+1.800.235.2667 or +1.706.596.3264

**BY EMAIL:**

[aflacir@aflac.com](mailto:aflacir@aflac.com)

### Shareholder Services

For information or assistance regarding individual stock records, dividend reinvestment, dividend payments, dividend tax forms, or direct deposits of dividend payments, please contact:

**ON THE INTERNET:**

<https://shareholder.broadridge.com/aflac>

**BY TELEPHONE:**

+1.800.227.4756 or +1.706.596.3581

**BY EMAIL:**

[shareholder@broadridge.com](mailto:shareholder@broadridge.com) or [shareholder@aflac.com](mailto:shareholder@aflac.com)

Aflac Incorporated  
1932 Wynnton Road  
Columbus, GA 31999  
+1.706.596.3431

